

# 中郷遺跡(1)

—古墳時代以降編—

一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書第3集

2008

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



な か ご う  
中 郷 遺 跡 ( 1 )

— 古墳時代以降編 —

一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書第3集

2 0 0 8

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

一般国道17号は、関東と北陸を結ぶ大動脈であり、本県においては県北部と平野部を結ぶ地域の主要道路であります。この国道の渋滞解消のため全長5.5kmの鯉沢バイパスが旧子持村(平成18年2月渋川市と合併)地内に計画されました。平成8年10月には渋川市東町から国道353号バイパスとの交差点までの2.3kmが開通し、さらに終点の旧子持村上白井までの3.2kmについて事業が進められております。

国道353号バイパス交差点から終点までの埋蔵文化財調査は、一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)として、平成14年8月に建設省関東地方整備局長・群馬県教育委員会教育長・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者で協定書を締結し調査の運びとなりました。発掘調査は平成17年度に終了し、同年より整理事業が開始されました。今までに一連の発掘調査に伴う報告書として「吹屋伊勢森遺跡」や「吹屋遺跡」が刊行されています。

中郷遺跡では、5面の調査面を確認し各面の調査を行いました。最下層の第5面では約2万年前の旧石器時代の石器製作址、第4面では100軒を越す縄文時代前期から後期にかけての住居や900基を越す土坑、第2面・第3面では古墳時代の榛名山噴火火山灰下から放牧地跡等が検出でき、地域の歴史を考える上で多くの重要な資料が得られました。

本報告書は、第1面から第5面の調査面の中から、第1面から第3面までで検出できた遺構・遺物をまとめました。

今回の報告書刊行に至るまでには、国土交通省関東地方整備局、同高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、旧子持村教育委員会、地元関係者の皆様に格別の御尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げます。本報告書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、報告書の序といたします。

平成20年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇 夫



## 例 言

- 1 本書は一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事（その2）に伴う中郷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡所在地 群馬県渋川市中郷地内（旧：北群馬郡子持村大字中郷地内、平成18年2月市町村合併）
- 3 事業主体 国土交通省 関東地方整備局
- 4 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成15年7月1日～平成15年12月24日  
平成16年4月1日～平成17年7月31日
- 6 整理期間 平成18年7月1日～平成20年3月31日
- 7 発掘調査・整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長 小野字三郎、高橋勇夫  
管理指導 木村祐紀、住谷永市、神保有史、津金沢吉茂  
事務担当 矢崎俊夫、萩原利通、萩原 勉、中東耕志、佐藤明人、西田健彦、右島和夫、関 晴彦、  
大木紳一郎、国定 均、宮前結城雄、植原恒夫、丸岡道雄、笠原秀樹、石井 清、竹内 宏、  
高橋房雄、小山建夫、須田朋子、齊藤恵利子、吉田有光、柳岡良宏、清水秀紀、今泉大作、  
栗原幸代、齋藤陽子、佐藤聖行、矢島一美、田中賢一、阿久沢玄洋、今井もと子、内山佳子、  
若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、武藤秀典、松下次男、吉田 茂  
調査担当 平成15年度 坂口 一、吉田和夫、井上昌美、井原陽一  
平成16年度 神谷佳明、大西雅広、齊藤利昭、今井和久、関 俊彦、石原良人、篠原正洋、  
渡辺弘幸、水田福夫、阿久津聡  
平成17年度 桜岡正信、麻生敏隆、瀧川仲男、佐藤享彦、藍沢友美  
整理担当 神谷佳明、齊藤利昭  
整理補助 島崎敏子、田中のぶ子、松井さえ子、菅井和枝、細井美栄子、広津真希子、山口洋子、  
荒木絵美  
遺物写真 佐藤元彦  
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、津久井佳一、森田智子、多田ひさ子、長岡久幸  
器械実測 伊東博子、岸 弘子、田所順子
- 8 本文執筆 編集 齊藤利昭 本文：神谷佳明、齊藤利昭、坂口 一
- 9 本遺跡の出土遺物及び図面・写真等の資料は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 10 発掘調査及び報告書作成にあたっては、次の方々に有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。

石井克己 大塚昌彦 （敬称略）

## 凡 例

- 1 調査区域には、国家座標に基づいて5m間隔のグリッドを設定した。原点については、日本平面直角座標系第Ⅸ系のX=58,000m、Y=-72,500mである。
- 2 本文中で使用した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「鯉沢」、「洪川」、「金井」、「伊香保」、20万分の1地勢図「宇都宮」、「長野」を用いた。
- 3 本書では、遺跡内に堆積する6世紀代の2度の榛名山噴火堆積物を6世紀初頭の榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA)をFA、6世紀中頃の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)をFPと本文中において表記した。
- 4 遺構及び遺物実測図の縮尺は各図中表示してある。また、挿図中の「L=〇〇m」は、断面図の水糸標高を示す。
- 5 本書第1面で検出された耕作坑やシミ状に残る道跡については、挿図中では1号耕作坑を1耕、2号耕作坑2耕と表記し、道跡について1道、2道と表記する。また、第2面で検出された畦状遺構については、挿図中では1号畦状遺構を1号畦、2号畦状遺構を2号畦と表記し、調査時に踏み分け道と呼称した遺構を1号道、2号道と表記する。
- 6 挿図中の網掛け部分等は次のことを意味する。

### 遺構平面図・断面図



- 7 土層断面の注記に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の「新版標準土色帖」を参照した。



# 目 次

序

例 言

凡 例

抄 録

## 第1章 調査の経緯

- 第1節 調査に至る経緯 …………… 2
- 第2節 調査の経過 …………… 6
- 第3節 調査の手順 …………… 11
- 第4節 調査区の設定 …………… 11

## 第2章 地理的・歴史的環境

- 第1節 遺跡の位置と周辺の地形 …… 14
- 第2節 周辺の遺跡 …………… 16
- 第3節 基本土層 …………… 19

## 第3章 1面の調査 (Hr-FP層上面)

- 第1節 調査の概要 …………… 22
- 第2節 検出された遺構 …………… 22
- 第3節 各調査区の遺構検出状況 …… 26

## 第4章 2面の調査 (Hr-FP層下面)

- 第1節 調査の概要 …………… 44
- 第2節 検出された遺構 …………… 44
- 第3節 各調査区の遺構検出状況 …… 45

## 第5章 3面の調査 (Hr-FA層下面)

- 第1節 調査の概要 …………… 82
- 第2節 検出された遺構 …………… 82

## まとめ

- 1. 第1面のまとめ …………… 91
- 2. 第2面のまとめ …………… 93

## 写真図版

## 付図

- 第1面 (F P 上面) 全体図 1 /1,000
- 第2面 (F P 下面) 全体図 1 /1,000

## 挿図目次

### 第1章

第1図	道跡位置図(国土地理院1/20万「宇都宮」他) …	3
第2図	道跡位置及び調査区配置図 ……………	4
第3図	年度別調査範囲図 ……………	8
第4図	グリッド配置図 ……………	12

### 第2章

第5図	段丘面分類図(「子持村誌上巻」参照) ……………	15
第6図	周辺道跡位置図(S=1:25,000)(丸印は古墳) ……	17
第7図	調査区土層図 ……………	20

### 第3章 第1面

第8図	1区・6区全体図(S=1/400) ……………	27
第9図	2区・3区・7区全体図(S=1/400) ……………	28
第10図	3区・4区・5区・7区全体図(S=1/400) ……	29
第11図	5区土壌 ……………	30
第12図	8区・9区全体図(S=1/400) ……………	31
第13図	11区北半全体図(S=1/400) ……………	32
第14図	11区北半部分図(1)(S=1/200) ……………	33
第15図	11区北半部分図(2)(S=1/200) ……………	34
第16図	11区耕作地 ……………	35
第17図	11区南半全体図(S=1/400) ……………	36
第18図	11区南半部分図(S=1/200) ……………	37
第19図	12区南半全体図(S=1/400) ……………	38
第20図	12区北半・13区全体図(S=1/400) ……………	39
第21図	12区1号溝・2号道 ……………	40
第22図	12区土壌(1) ……………	41
第23図	12区土壌(2) ……………	42

### 第4章 第2面

第24図	1区・6区全体図(S=1/400) ……………	50
第25図	2区・3区全体図(S=1/400) ……………	51
第26図	3区・4区・7区全体図(S=1/400) ……………	52
第27図	8区・9区全体図(S=1/400) ……………	53
第28図	11区南半全体図(S=1/400) ……………	54
第29図	11区北半全体図(S=1/400) ……………	55
第30図	12区南半全体図(S=1/400) ……………	56
第31図	12区北半・13区全体図(S=1/400) ……………	57
第32図	1区1号～3号畦状遺構及び土層 ……………	58
第33図	2区1号～3号畦状遺構 ……………	59
第34図	3区・6区畦状遺構及び土層 ……………	60
第35図	3区・4区・7区畦状遺構 ……………	61
第36図	7区・9区畦状遺構土層 ……………	62
第37図	9区1号～5号畦状遺構 ……………	63
第38図	11区1号～3号畦状遺構、1号・2号道 ……	64
第39図	11区畦状遺構土層(1) ……………	65
第40図	11区畦状遺構土層(2) ……………	66
第41図	11区1号道土層 ……………	67
第42図	11区2号道土層 ……………	68
第43図	11区4号・5号・9号・10号畦状遺構 ……	69
第44図	11区6号・7号・8号畦状遺構 ……………	70
第45図	11区畦状遺構土層(3) ……………	71
第46図	11区畦状遺構土層(4) ……………	72
第47図	11区畦状遺構土層(5) ……………	73
第48図	12区1号畦状遺構、3号道 ……………	74
第49図	12区1号～3号畦状遺構、1号・2号道 ……	75
第50図	12区畦状遺構土層(1) ……………	76
第51図	12区畦状遺構土層(2) ……………	77
第52図	12区3号～5号畦状遺構、4号道 ……	78
第53図	12区6号・7号畦状遺構、4号・5号道 ……	79
第54図	12区畦状遺構、道土層 ……………	80

### 第5章 第3面

第55図	7区・8区全体図(S=1/400) ……………	83
第56図	11区全体図(S=1/400)、4号道土層 ……	85
第57図	11区部分図(S=1/200) ……………	86
第58図	12区南半全体図(S=1/400) ……………	87
第59図	12区北半・13区全体図(S=1/400) ……	88
第60図	12区北半部分図(S=1/200) ……………	89
第61図	12区畦状遺構土層 ……………	89
まとめ		
第62図	第1面全体図 ……………	92
第63図	第2面全体図 ……………	94

## 写真図版目次

### 第1面

PL.1	1区全景
	2区全景
PL.2	3区全景
	4区全景
	5区全景
	5区2号土坑
	5区3号土坑
PL.3	5区4号土坑
	5区5号土坑
	5区7号土坑
	5区8号土坑
	6区全景
PL.4	7区全景
	7区1号道、1号土坑
	8区全景
	8区全景
	9区全景
PL.5	11区南半全景
	11区南半道跡(5号・7号・8号道)
PL.6	11区北半全景
	11区北半8号耕作地土層
	11区北半8号耕作地土層
	11区北半耕作地及び道跡
PL.7	12区北半全景
	12区北半1号溝
	12区北半1号溝土層
	12区北半2号溝土層
	12区北半2号溝全景
PL.8	12区1号土坑
	12区2号土坑
	12区3号土坑
	12区4号土坑
	12区5号土坑
	12区7号土坑
	12区8号土坑
	12区9号土坑
PL.9	12区10号土坑
	12区11号土坑
	12区12号土坑
	12区13号土坑
	12区14号・15号土坑
	12区16号土坑
	12区17号土坑
	12区18号土坑

PL-10	12区 19号土坑 12区 20号土坑 12区 21号土坑 12区 23号土坑 12区 24号土坑 12区 45号土坑	PL-22	12区北端 遠景 (段下は上白井西伊熊遺跡) 12区南半 全景
<b>第2面</b>		PL-23	12区北半 近景 12区 1号畦状遺構と2号畦状遺構屈曲部 12区 1号畦状遺構と2号畦状遺構屈曲部近景 12区 1号畦状遺構土層 12区 1号畦状遺構土層近接
PL-11	1区 全景 1区 1号畦状遺構 全景 1区 1号畦状遺構土層 1区 1号畦状遺構土層近接 1区 3号畦状遺構土層近接	PL-24	12区 2号畦状遺構土層 (F-F) 12区 3号畦状遺構土層 (J-J) 12区 4号畦状遺構土層 (K-K) 12区 6号畦状遺構土層 (N-N) 12区 4号道土層 (T-T) 12区 5号道土層 (Z-Z) 12区 5号道土層 (V-V) 12区 FP直下馬路痕確認状況
PL-12	2区 全景 2区 畦状遺構近景 2区 畦状遺構近景 2区 畦状遺構土層 (A-A) 2区 畦状遺構土層 (C-C)	<b>第3面</b>	
PL-13	3区 全景 3区 2号畦状遺構近景 3区 2号畦状遺構土層 4区 1号畦状遺構近景 4区 畦状遺構土層 (A-A)	PL-25	1区 FA面検出状況 1区 FA面検出状況 2区 FA面検出状況 3区 FA面検出状況 6区 FA面検出状況 7区 FA面検出状況 7区 FA面検出状況 7区 1号畦状遺構内躍出土状況
PL-14	4区 全景 6区 全景 6区 畦状遺構土層 6区 近景 6区 立木痕近景	PL-26	8区 FA面検出状況 11区 FA 面検出状況
PL-15	7区 全景 7区 1号畦状遺構 7区 1号畦状遺構内躍出土状況 7区 畦状遺構 土層 7区 畦状遺構近景	PL-27	11区 3号・4号道確認状況 (白く見えるFAが筋状に延びる) 11区 5号道確認状況
PL-16	7区 1号畦状遺構全景 7区・8区 全景 9区 全景 9区 3号畦状遺構近景 9区 3号・5号畦状遺構近景	PL-28	11区 4号道土層 11区 4号畦状遺構下FA残存状況 12区 FA面検出状況 12区 4号畦状遺構下FA残存状況 12区 4号畦状遺構下FA残存状況近景
PL-17	11区 全景 11区 近景	PL-29	12区 1号畦状遺構全景 12区 1号畦状遺構土層 12区 2号畦状遺構近景 12区 1号・2号畦状遺構交差部近景 12区 1号畦状遺構土層
PL-18	11区 1号畦状遺構 11区 1号畦状遺構南辺近景 11区 1号畦状遺構を踏み越える2号道 11区 1号畦状遺構と2号・3号畦状遺構の交点 11区 1号～3号畦状遺構を踏み越える2号道	PL-30	12区 1号畦状遺構内焼土・炭化物検出状況 12区 1号畦状遺構内土層 (C-C) 12区 1号畦状遺構内土層 (G-G) 12区 1号畦状遺構内土層 (J-J) 12区 FA 集中部分近景
PL-19	11区 3号畦状遺構土層 11区 1号・3号畦状遺構交差付近FA堆積状況 11区 1号・3号畦状遺構交差付近土層 11区 2号・3号畦状遺構間の谷部土層 11区 1号道全景		
PL-20	11区 FP除去作業 11区 1号道FP除去途中 11区 1号道西壁土層 11区 1号道下 FA検出状況 11区 1号道下 FA分布状況 11区 1号道土層 11区 2号道土層 11区 2号道土層近接		
PL-21	11区南半 全景 11区 6号畦状遺構付近起伏部分 11区 7号・8号畦状遺構土層 11区 8号畦状遺構土層 11区 6号畦状遺構土層		

## 表 目 次

第1表	鯉沢バイパス (その2) 面積一覧表	5
第2表	中郷道路調査工程表	7
第3表	周辺道路一覧表	18
第4表	耕作坑計測一覧表	23
第5表	土坑計測一覧表	24
第6表	道遺構計測一覧表	26
第7表	溝計測一覧表	40
第8表	畦状遺構計測一覧表	49
第9表	道遺構計測一覧表	49
第10表	畦状遺構計測一覧表	84
第11表	道遺構計測一覧表	84

## 報告書抄録

書名ふりがな	なかごういせき
書名	中郷遺跡(1) - 古墳時代以降編-
副書名	一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書
巻次	3
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	422
編集者名	神谷佳明、齊藤利昭
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20080201
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	なかごういせき
遺跡名	中郷遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんしぶかわしなかごう
遺跡所在地	群馬県渋川市中郷
市町村コード	10341
遺跡番号	01107
北緯(日本測地系)	363117
東経(日本測地系)	1390120
北緯(世界測地系)	363129
東経(世界測地系)	1390108
調査期間	20030701-20031224、20040401-20050731
調査面積	22,286
調査原因	道路建設工事
種別	石器製作/集落/放牧地/その他
主な時代	旧石器/縄文/古墳/中・近世
遺跡概要	石器製作址-旧石器-1 集落-縄文-堅穴住居138+土坑954+包含層-縄文土器+石器 古墳-放牧地-道-土師器 その他-近世-土坑+耕作坑-陶磁器
特記事項	6世紀中頃の榛名山噴火火山灰(Hr-FP)に埋もれた遺跡である。
要約	1～5面の調査面を検出した。その中で本報告書はHr-FP直上の1面(6世紀以降)、直下面2面(6世紀中頃)、Hr-FA(6世紀初頭)直下の3面までを扱う。近世耕作坑及び遺跡や古墳時代放牧地を検出した。4面・5面は別冊で扱う。

## 第1章

### 調査の経緯



遺跡遠景：右手は利根川が大きく蛇行している。利根川により形成された河岸段丘が発達している。  
左奥が子持山。中央の平坦面上に中郷遺跡が所在する。

## 第1節 調査に至る経緯

一般国道17号は東京を起点として埼玉県、群馬県を通過して新潟県に至る太平洋側と日本海側を結ぶ重要な国道である。この国道は、埼玉県から神流川を渡り群馬県内に入り、県内の主要都市である高崎市、前橋市、渋川市、沼田市等を南北に結び、みなかみ町の三国峠を経て新潟県に至る。この経路上には渋滞の発生する箇所も多く、その一つに県央部の渋川市阿久津や渋川市吹屋（旧北群馬郡子持村）の地域がある。

渋川市の駅前市街地は、昭和41年に渋川市中村から阿久津まで幅員4車線で開通した渋川バイパスによって渋滞を解消したが、渋川バイパス阿久津北側からは2車線に減員し、その先の渋川市鯉沢（旧子持村）で、中之条町、嬭恋町方面から長野県上田市に至る国道353号と接続する。この渋川バイパス終点の渋川市阿久津や国道353号との接続地である渋川市鯉沢の交差点付近では朝夕の通勤時間帯だけでなく、休日にも観光地への往来による渋滞が恒常的に発生している。この交通渋滞を解消するため、渋川市東町で現在の国道17号から渋川市白井（旧子持村）方面に分岐するバイパス計画があがった。バイパスは、吾妻川を渡り、子持村内の東緑地区を南北に縦断する計画で、白井地区・吹屋地区・中郷地区を通り、上白井地区で再び現在の国道17号と合流する全長約5.5km、幅員4車線で結ぶ一般国道17号（鯉沢バイパス）道路改築工事が計画された。

本事業は事業地を大きく二分割する計画で進められ、第1期工事として渋川市東町から子持村白井の国道353号（鯉沢バイパス）との接続部分までの2.3kmが1996（平成8）年に供用を開始された。その際に、吾妻川右岸で渋川市東町間下遺跡、左岸の旧子持村内で白井二位屋遺跡、白井南道遺跡、白井丸岩遺跡、白井北中道遺跡が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって発掘調査された。

その後、渋川市白井から渋川市上白井の終点までの間については、国土交通省高崎工事事務所（現

国土交通省高崎河川国道事務所）から一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財調査（その2）として群馬県教育委員会文化財保護課（現群馬県教育委員会文化課）に事業照会があった。同課では第1期工事の状況や子持村に堆積する榛名山の火山灰や軽石の状況から工事対象地には遺跡の存在する旨が回答された。その結果、事業者である国土交通省高崎工事事務所との協議が進められ、発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することになった。

平成14（2002）年8月30日付で、国土交通省関東地方整備局長並びに群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）に関する協定書を締結した。また、国土交通省関東地方整備局長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、2002（平成14）年度の埋蔵文化財発掘調査に係る委託契約を締結し、発掘調査を進めることになった。

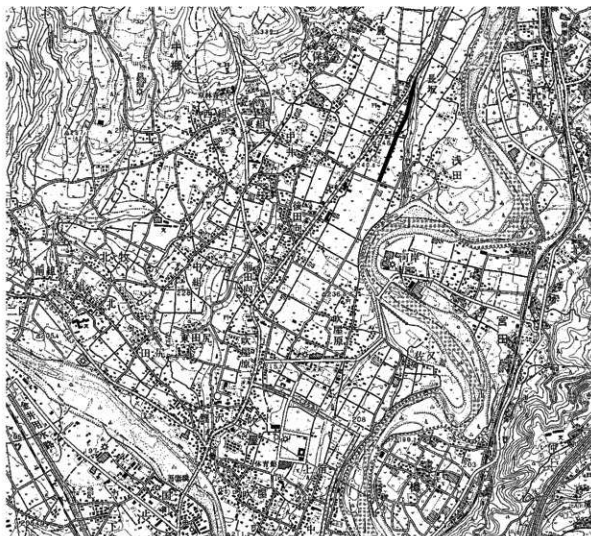
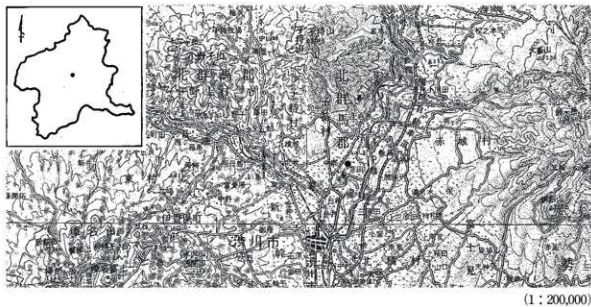
工事対象地内では南から白井北中道遺跡、白井十二遺跡、吹屋伊勢森遺跡、吹屋遺跡、中郷遺跡、上白井西伊熊遺跡（協定書締結時は遺跡が分割して確認されていたため8ヶ所として数えられていた。）が該当し、その面積は約115,000㎡に及んだ。

発掘調査は、平成14年度（2002年）10月から開始し、平成17年度（2005年）7月まで実施した。

報告書等作成に係る整理作業は、平成17年度（2005年）4月から吹屋伊勢森遺跡より開始した。

中郷遺跡の発掘調査は、平成15・16・17年度にまたがり、用地や調査工程等の関係で断続的な調査となった。調査は、1面から5面まで複数面の文化層の調査を実施し、4面目は100軒を越す縄文時代住居や900基以上の土坑の調査を行い、膨大な量の遺物が出土した。この遺跡の整理作業は、複数年の期間が必要であり、平成18年度（2006年）7月から整理作業を開始し、今年度は2年目に入る。

本報告書は1面から3面までの報告である。



第1図 遺跡位置図

(1 : 25,000)







## 第2節 調査の経過

中郷遺跡の発掘調査は平成15年度（2003年）、16年度（2004年）、17年度（2005年）の3ヶ年度にわたって実施された。各年度の発掘期間は次のとおりである。平成15年度は平成15年7月1日～12月24日までの6ヶ月、平成16年度は平成16年4月1日～平成17年3月31日までの12ヶ月間の内の10ヶ月、平成17年度は平成17年4月1日～7月31日までの4ヶ月である。このうち平成16年度は年度当初の4月～6月までで工事工程の中で上白井西伊熊遺跡を優先させる必要があり、1面から5面の各調査面の移行時期を利用しながら中郷遺跡と発掘調査を交互に進めることとした。また、7月以降は鯉沢バイパスに関わる吹屋遺跡の調査班が発掘調査終了により中郷遺跡の発掘調査に合流した。平成17年度は前年度に未了であった11区南半4面（縄文時代）、12区南半（縄文時代）4面とその下層について発掘調査を行った。その結果、発掘調査は約20ヶ月、調査を担当した職員は19人に及ぶ。

**調査区の区分** 中郷遺跡の発掘調査は、旧子持村村道（現在は渋川市道であるが、ここでは調査時の名称を使用）7103号線から現在の国道17号との合流地点までが対象であった。

調査に際しては、現在使われている生活道路や人家・畑への出入り口や埋設管等を避け調査を行った。そのため大小や四角、三角形の調査区ができ、それぞれに調査区名称が付けられた。村道7103号線から村道7029号線までの間の工事番号28・30や29・31は、調査対象地内を南北に通る村道103号線と人家・畑への進入路の確保、更に調査による掘削排土置き場の確保等から1区から9区に分割し調査を行った。ただし、5区は隣接地の宅地化が進み、さらに調査対象地の幅が狭くなるため第1面のみの調査が行えたが、2面目以降については深所となるため調査は行えなかった。

村道7029号線から村道7031号線までの約150mの間を11区とし、村道7031号線以北から現国道までの

約250mを12区とした。また、13区は12区西側で村道を挟んだ反対側のごく狭い範囲である。なお、10区とすべき調査区は、平成15年度の調査開始当初調査工程の関係から中郷Ⅰ遺跡として工事区番号28-175から工事区番号31-209までの間を1区～9区に調査区分けがなされ調査が行われ、平成16年度に入り工事区番号32-211から工事区番号34-238までの間を1区から3区に調査区分けがなされ中郷Ⅱ遺跡として調査を開始した。その後、中郷Ⅰ遺跡と中郷Ⅱ遺跡の遺跡分けを同一の中郷遺跡として取り扱うことになったため、既に遺構や取り上げ遺物等の番号に1区、2区、3区が複数存在してしまうことになるため、整理作業時に混乱を起こさないように中郷Ⅱ遺跡1区、2区、3区を11区、12区、13区と呼称することにし10区が存在しないこととなった。

また、平成16年度の中郷遺跡の発掘調査は工事工程上の要望により12区から開始することとしたが、調査面積とFPの排土量、調査区のはほぼ中央に電柱が残っているなどから12区南と12区北と変則的な区分を行った。11区も調査対象範囲が比較的広く、調査面積とFPの排土量等を加味し、排土置き場を確保するため南北に調査区内を区分し12区と同様に11区南、11区北の名称を使用した。

**発掘調査の進捗** 各調査区毎に上位の文化面より開始し、古墳時代以降のFP上面、古墳時代後期前半にあたるFP下面、縄文時代～弥生時代にあたるローム土上面～黒色土層面についてはほぼ全面の発掘調査を実施し、古墳時代中期～後期初頭にあたるFA下面や旧石器面については遺構・遺物の有無を確認するため部分的な掘り下げを行い、遺構遺物の有無に応じて調査範囲を拡張した。各調査区では順次下層の文化面へと調査を移行する手順であるが、調査の進捗をはかるため一調査区の一文化面が終了する前に隣接する調査区の表土、または堆積土を重機にて掘削し効率的に発掘調査が進行するように努めた。なお、各調査区・各文化面の発掘工程については別紙発掘調査日誌のとおりである。





第3図 年度別調査範囲図

### 中郷遺跡調査日誌

#### 平成15年度 (2003年度)

- 担当 坂口、吉田
7. 1 1区 調査準備、表土掘削開始。
  7. 11 1区1面 遺構確認、調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  7. 12~15 1区2面Hr-FTP掘削、遺構確認及び3区1面表土掘削。
  7. 17 3区1面、調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  7. 18~23 3区 Hr-FTP掘削。
  7. 28 1区2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  7. 30 1区2面 畦精査。3区2面 航空写真撮影、空中測量。
  8. 2 1区 4層掘削。3区3面まで調査。
  8. 3 1区4面、3区3面 遺構確認、調査区全景写真撮影。
  8. 7 1区旧石器深淵。3区4面 遺構確認。
  8. 12 3区4面 遺構確認、住居・土坑を検出。
  8. 20 1区 旧石器深淵他。3区4面 遺構調査。
  8. 29 3区4面 調査区空中測量。
  9. 4~19 1区・3区 旧石器深淵。
  9. 16~25 2区・4区 表土掘削。
  9. 26 2区・4区・6区 個別遺構写真撮影。
  9. 27 2区・4区・6区 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  9. 29~ 2区・4区・6区 Hr-FTP掘削。9区 表土掘削。
  10. 6 9区1面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  10. 8 2区・6区2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  10. 17 4区・9区2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  10. 20 2区 IV層掘削。
  10. 23 2区4面 遺構確認。4区・9区3面 遺構確認。
  10. 24 2区4面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  10. 25 2区4面 1号住居調査。
  10. 28 2区・6区 旧石器深淵。
  11. 7 4区・9区2面 畦等調査。
  11. 10 4区・9区 IV層掘削。
  11. 12 9区4面 配石検出。4区4面 遺構確認、住居検出。
  11. 14 4区・9区4面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  11. 17 4区4面 1号・2号住居調査。
  11. 18 4区 旧石器深淵。9区4面 遺構確認。
  11. 20 9区4面 住居・土坑調査。
  11. 27 9区4面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
  12. 3 9区 旧石器深淵開始。
  12. 4 9区4面 調査終了。
  12. 11 9区 旧石器深淵終了。
  12. 12~18 図面・写真など基礎整理、調査区隈め戻し。

#### 平成16年度 (2004年度)

- 担当 上白井西伊原道隆・中郷道隆 神谷・関俊明
- 4月当初から調査は上白井西伊原を優先し、写真撮影、測量等から次の調査面に移行するまでの間を中郷遺跡の調査を行う。
6. 7~15 12区北 立木伐採。表土を重機にて掘削。
  6. 18 12区 遺構確認。
  6. 22 12区 土坑掘削、土層断面測量、写真撮影。
  6. 24 12区 土坑・溝掘削、土層断面測量、写真撮影。
  6. 25 12区1面 高所作業車による調査区全景写真撮影。
  6. 28 12区 調査区全体因測量。土坑、溝全景写真撮影。
  6. 29~7. 1 12区 調査区全体因測量。
  7. 2 12区2面 Hr-FTP層を重機にて掘削。
  7. 5 12区 Hr-FTP層掘削。13区 表土掘削。
  7. 6 12区 遺構確認。
  7. 8 12区2面 調査区全体・全景航空写真撮影、空中測量。
  7. 12 12区 畦・道の断面観察箇所の設定。
  7. 13 12区 調査区一部拡張。
  7. 14 12区 畦・道土層断面観察。

7. 16 12区 2面黒色土をグリッドにて一部掘削。
7. 20 12区北3面 Hr-FA上道構確認。1号畦、焼土写真撮影。
7. 21 12区 Hr-FA上道構確認。1号畦、焼土断面写真撮影。
7. 22 12区 3面精査。
7. 23 11区1面 道構確認、土壌土層断面測量、写真撮影。
7. 26 12区3面 高所作業車による調査区全景写真撮影。
7. 27 12区 遺物取り上げ、畦土層断面等写真撮影。
7. 28 11区北 Hr-FT層を重機にて掘削。台風対策。
8. 2 11区2面 道構確認。
8. 3 11区 道構確認、踏み分け検出、馬路直検出。
8. 5 12区3面 1号畦下焼土検出、焼土・炭化物写真撮影。
8. 6 11区2面 調査区全景写真撮影。12区4面 道構確認。
8. 9 11区2面 調査区全体図測量。12区4面 道構確認。
8. 10 11区2面 畦土層観察。12区4面 道構確認。国土交通省主催「親子見学会」を実施。
8. 11 11区2面 1-3畦、1-2 踏み分け道調査。
8. 12~17 11区3面 道構確認、遺物出土状態写真撮影。
8. 18 11区3面 踏み分け道、Hr-FA検出状況測量、写真撮影。
8. 20 11区3面 道構確認、遺物出土状態写真撮影。
8. 24 11区3面 調査区全景写真撮影、遺物出土状況測量、写真撮影。12区4面 道構確認。
8. 30 11区3面 最終確認調査。12区4面 道構確認。
8. 31、9. 1 11区4面 道構確認。12区4面 道構確認。
9. 3 11区4面 12区北4面 道構確認。ビット群土層断面測量、遺物取り上げ。1号配石、ビット群全景写真撮影。
9. 6 11区 遺物出土状況写真撮影。12区 ビット群土層断面測量、V層遺物出土状況、ビット群全景写真撮影。
9. 7 11区 遺物取り上げ。12区 道構確認、配石掘削。V層遺物出土状況、ビット群全景写真撮影。
9. 8 11区 道構確認。12区 道構確認、1号配石平面、断面測量、全景写真撮影。ビット群土層断面測量、V層中遺物出土状況、ビット群全景写真撮影。
9. 9 11区 道構確認。12区 1号配石、ビット群全景写真撮影、土坑掘削、V層の状態を確認するための深掘坑掘削。
9. 10 11区 道構確認。12区 ビット群平面測量、土壌土層断面測量、深掘坑掘削。
9. 13 11区 道構確認。12区 ビット群、土坑掘削。道構確認。
9. 15 11区 道構確認。遺物出土状況、ビット土層断面測量、遺物出土状況、ビット断面写真撮影。12区 道構確認。
9. 16 11区 道構確認。ビット土層断面測量、遺物出土状況、ビット断面写真撮影。
9. 17 11区 道構確認。ビット土層断面、平面測量。調査区北半写真撮影。12区 1号住居土層断面測量、土坑、ビット掘削。
9. 21 11区 道構確認。ビット土層断面、平面測量。調査区北半写真撮影。12区 土坑、ビット土層断面測量、写真撮影。
9. 22 11区 道構確認。ビット土層断面、平面測量、ビット土層断面写真撮影。12区 1号住居土層断面測量、写真撮影。土坑、ビット土層断面、平面測量。ビット土層断面写真撮影。
9. 28 11区 道構確認。ビット土層断面、平面測量。調査区南半写真撮影。12区 1号住居精査。土坑掘削、遺物取り上げ。
9. 30 11区 道構確認。ビット・土坑平面測量、道構確認状況写真撮影。12区 1号住居遺物取り上げ、全景写真撮影。1号・2号配石検出状況写真撮影。土坑・ビット全景写真撮影。
10. 1 11区 道構確認。全体図測量。286号ビット遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居床面精査、1号・2号配石精査、土坑・ビット全景写真撮影。
10. 6 11区 道構確認。包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 道構確認現状の面での全体図測量。
10. 8 11区 道構確認。包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 V層を掘削、土坑掘削。
10. 9 11区 道構確認。包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 住居柱穴土層断面測量、溝掘削等。
10. 12 11区 道構確認。包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居全景写真撮影、1号・2号配石確下調査、1号溝全景写真撮影。
10. 14 住居トレンチ。包含層出土遺物出土状況測量、1号埋裏出土状況写真撮影。12区 1号住居、1号・2号配石下調査、土壌土層断面測量。
10. 15 11区 1号~5号住居掘削。14号土坑土層断面・平面測量、14号土坑土層断面写真撮影。12区 1号住居、1号・2号配石確下調査、土壌土層断面測量。包含層出土遺物取り上げ。
10. 18 11区 住居埋設土掘削、1号埋裏土層断面・包含層出土遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居、2号配石周辺、土坑掘削。
10. 19 11区 住居、道道構埋設土掘削。1号・2号住居遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居、2号配石周辺、39号土坑埋設土掘削。2号配石、39号・43号土坑土層断面測量・写真撮影。
10. 20 雨天、調査区安全確認。遺物洗浄等委託進捗状況確認他。
10. 21 11区 住居埋設土掘削、床面精査、住居遺物出土状況、17号土坑土層断面・埋裏平面・断面測量及び写真撮影。12区 2号住居埋設土掘削。2号住居・土坑土層断面測量及び写真撮影等。13区4面 道構確認。遺構の存在は確認されなかった。
10. 22 11区 住居出土遺物取り上げ。12区 住居、土坑埋設土掘削、土層断面測量及び写真撮影。13区 土層断面測量及び写真撮影。
10. 25 11区 住居床面精査。2号埋裏平面測量及び写真撮影。包含層出土遺物出土状況写真撮影。12区 調査区全景写真撮影準備。土坑掘削、土層断面・平面測量及び写真撮影。
10. 27 11区・12区 住居、埋裏、土坑等調査。
10. 28 12区 調査区全景を高所作業車で写真撮影。
11. 1 雨天のため作業休止。作業工程打ち合わせ。
11. 5 12区 一部旧石部掘削を開始。
11. 16~22 12区南 表土掘削。
11. 18 12区北 調査終了。
11. 19 12区南1面 道構確認。
11. 24 12区南1面 調査区全景写真撮影。調査区全体図測量。
11. 25~28 12区南 Hr-FT掘削。
11. 29 11区4面 道構調査継続中。12区南2面 道構確認。
12. 2 12区南2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
12. 3 12区南2面 畦など調査。
12. 7 12区南2面 調査終了。
12. 13 12区南V層掘削。大分市教育委員会職員視察。
12. 17 11区4面 道構調査継続中。12区南4面 道構確認。
12. 27 11区4面 道構調査継続。12区4面 道構確認。
12. 28 年末休暇への準備。担当 波辺・阿久津他道路へ移動。
1. 5 担当者による作業工程打ち合わせ。
1. 6 本年調査開始。7区・8区 表土掘削。11区4面 昨年から引き続き住居、土坑等遺構の調査。12区南4面 道構確認。
1. 11 12区南4面 土坑から調査を始める。
1. 12 12区南4面 住居などの埋設土掘削を始める。
1. 13 7区・8区1面 調査区全景写真撮影、全体図測量。
1. 14 7区 Hr-FT掘削。
1. 18 8区 Hr-FT掘削。
1. 19 7区・8区2面 調査。
1. 24 7区・8区2面、11区4面 調査区航空写真撮影。
1. 25 7区・8区2面 全体図測量。
1. 26 11区4面 全体図測量。
1. 27 7区・8区3面 調査。
1. 28 7区・8区3面 調査区全景写真撮影。
1. 31 国土交通省専門職視察。
2. 1 7区・8区4面 道構確認。
2. 2 7区・8区4面 住居、土坑道構調査。
2. 9 群馬テレビ取材。埼玉県児玉町教育委員会職員視察。

## 第1章 調査の経緯

2. 16 前橋市教育委員会職員視察。
2. 24 7区 旧石器深掘。
2. 25 7区 調査終了。
3. 2 11区北 旧石器深掘。
3. 8 子持村会議員視察。
3. 11 8区 旧石器深掘。
3. 14 11区南 表土層開始。
3. 15 8区 調査終了。
3. 22 11区南1面 調査区全景写真撮影。
3. 24 12区南4面 調査区全景航空写真撮影。
3. 25 本年度の作業終了。器材等整備。
3. 28~31 調査事務所の移転に伴い記録類・備品の移動。

### 平成17年度 (2005年度)

担当 女屋、板岡、森生、佐藤、藍澤、斉藤聡

4. 1 今年度調査担当者打ち合わせ、前年度担当者との引き継ぎ。
4. 6 地元子持村教育委員会へ挨拶、重機業者との打ち合わせ。
4. 7 遺構発掘調査進行打ち合わせ。
4. 8 地元自治会への挨拶。
4. 11 11区南2面 重機にてHr-PP層を掘削。12区南4面 前年度までに終了した遺構等の確認。前年度担当者と同様に引き継ぎ。
4. 12 11区南 重機にてHr-PP層を掘削。
4. 13 12区 18号、38号、47号住居、土坑等埋没土層削、写真撮影、遺構測量。
4. 14 11区 Hr-PP層下確認遺構掘削。12区 18号、38号住居掘り方調査、44号~47号住居床面精査。
4. 15 12区 2号~4号住居遺構写真撮影。44号、49号住居、166号、169号土坑他調査。
4. 18 12区・11区 調査区航空写真撮影準備。12区 3号、4号、32号、34号、40号、43号住居、162号、176号・177号土坑他埋没土層削、写真撮影、遺構測量。遺物取り上げ。
4. 19 11区 遺構確認。12区 住居精査、全景写真撮影、38号住居(敷石)写真撮影、162号土坑埋没土層削。
4. 21 11区・12区 3号・4号・43号・47号住居即調査、50号住居、178号・179号土坑遺物出土状況写真撮影。他遺構埋没土層削。
4. 22 11区 遺構平面測量。12区 3号住居即、4号住居土層断面、5号・49号住居埋没。土坑遺物出土状況等写真撮影。住居・土坑等の遺構土層断面測量。住居・土坑等遺構埋没土層削。大韓民国ウル山文化財研究所所属35名視察。
4. 25 11区 遺構平面測量、土層観察深掘坑掘削、写真撮影。12区 2号住居遺物取り上げ・遺構平面測量、その他住居掘り方調査、38号・40号・41号住居即、土層断面、遺物出土状況等遺構図測量、住居・土坑等遺物出土状況、土層断面等写真撮影。
4. 26 11区 土層観察断面用深掘坑写真撮影、断面測量。12区 住居埋没土・柱穴掘削、即、遺物出土状況測量、住居、土坑等遺物出土状況、断面状況写真撮影。
4. 27 11区 Hr-PP層下遺構及び下面調査のための深掘坑を掘削。12区 住居埋没調査、住居精査、住居即、土層観察断面調査、測量。
4. 28 12区 2号・4号住居埋没取り上げ、住居柱穴土層断面、土坑土層断面写真撮影、測量。
5. 2 12区 2号・4号住居柱穴調査、170号・184号土坑埋没土層削、2号・4号・42号住居全景、遺物出土状況等写真撮影。
5. 6 12区 2号住居即・柱穴、47号住居即調査、35号・40号住居埋没土層削、4号住居掘り方測量、2号・3号住居写真撮影。
5. 9 12区 2号住居即・周溝調査、4号住居掘り方調査、49号住居埋没調査、52号・53号住居即調査。
5. 10 12区 42号住居柱穴、51号~53号住居床面調査、189号・190号土坑埋没土層削、2号住居全景写真撮影。
5. 11 12区 2号住居即、35号住居土層観察、50号・52号・53号住居土層断面写真撮影、床面精査。55号住居埋没土層削。土坑埋没土層削、土層断面観察、写真撮影。
5. 12 12区 34号住居掘り方調査、35号住居床面精査、42号住

- 居即調査、50号・52号・53号住居柱穴調査。土坑断面観察、全景写真撮影。
5. 13 11区4面 4面までの堆積土層削。12区 4号住居、195号土坑平面、42号住居遺物出土状況等測量、50号住居即調査、2号住居掘り方全景、190号・204号土坑全景等写真撮影。
5. 16 11区 IV層掘削、方眼状設置。12区 192号、195号、196号、209号土坑遺物取り上げ、埋没土層削。土坑平面、住居土層断面等測量、住居、土坑遺物出土状況・土層断面、全景写真撮影。
5. 17 12区 土坑埋没土層削。住居平面測量。住居即、土坑全景等写真撮影。
5. 18 11区4面 遺構確認、敷石住居、配石等確認。12区 住居、土坑全景、217号・218号土坑土層断面写真撮影。2号住居即調査。
5. 19 11区 遺構確認。12区 42号住居即、50号住居埋没調査、52号・53号住居掘り方掘削、2号配石掘削。
5. 20 11区 遺構確認。12区 39号住居即調査、42号・47号住居柱穴断面、38号・52号・53号住居掘り方土層断面測量、1号配石断面測量、全景写真撮影。211号・217号土坑全景写真撮影。
5. 23 12区 26号・39号住居全景写真撮影、47号・52号住居掘り方調査。調査区空中撮影準備。
5. 24 12区 調査区全体空中写真撮影、住居全景写真撮影。配石確認面での写真撮影。
5. 25 12区 配石遺物取り上げ、配石埋没調査。住居調査、掘り方全景、土坑写真撮影。
5. 26 11区 遺物集中出土箇所調査。12区 住居掘り方全景写真撮影。住居土層断面測量。配石埋没調査。土坑土層断面等測量。
5. 27 12区 配石掘り方調査。住居調査。住居遺物出土状況、住居埋没、住居即、土坑他写真撮影。
5. 30 12区 37号住居土層断面写真撮影、38号住居遺物取り上げ、柱穴確認、全景写真撮影。26号・39号住居掘り方調査。
5. 31 雨天のための遺構図・写真整理。
6. 1 12区 1号・5号配石平面測量、全景写真撮影等。38号~40号住居遺物出土状況、柱穴断面測量等。
6. 2 12区 3号・4号配石平面測量等。7号住居土層観察ベルト掘削、38号住居柱穴掘削・断面測量・写真撮影等。
6. 3 11区 7号住居遺物出土状況写真撮影。12区 1号配石・4号埋没調査。土坑遺物出土状況写真撮影、取り上げ。
6. 6 12区 37号・40号住居遺物出土状況・全景・即等写真撮影。41号住居柱穴掘削。4号・5号埋没調査。
6. 7 12区 住居埋没土層削、土坑土層断面測量、住居、土坑全景、遺物出土状況、土層断面写真撮影。
6. 8 12区 住居遺物取り上げ、土坑土層断面測量、住居、土坑土層断面、配石遺物出土状況写真撮影。
6. 9 12区 住居遺物取り上げ、床面精査、柱穴調査。
6. 10 11区 住居内埋没調査。12区 住居床面精査、柱穴調査、配石確下調査。
6. 13 11区 住居柱穴・即調査。12区 住居埋没土層削、土層断面・即測量、土坑群写真撮影。
6. 14 11区 住居即調査、全景写真撮影。12区 土坑埋没土層削、住居、土坑土層断面測量・写真撮影。
6. 16 11区 住居遺物取り上げ、埋没土層削。12区 旧石器深掘。
6. 17 11区 住居柱穴、埋没調査。12区 土坑群調査。
7. 6 12区南1面 調査区全景航空写真撮影。遺構削写写真撮影。
7. 7 12区 調査終了。長野県考古学会視察。
7. 8 11区 住居、土坑調査。
7. 14 調査終了。
7. 15~31 調査区の埋戻し、記録類・遺物の移動、器材・備品の撤収、事務処理。

### 第3節 調査の手順

調査は、現在の耕作土の除去より開始し、本地域の特色である榛名山二ツ岳の6世紀代（古墳時代）の2度の噴火に伴うFP及びFAのテフラ層を基準に調査面を想定し、上層より順次面出しを行い調査を行った。その調査面は1面としてFP層上面、2面としてFP層直下面、3面としてFA混土層及び下面の調査面とした。また、その下層の黒褐色土中の縄文土器包含層からローム層上面の遺構検出面までを4面とし、ローム層中で検出した旧石器を5面として調査を行った。各面の調査概要は以下の通りである。

**調査面1面：**表土及び攪乱層の除去を重機を使用して行い、FP層上の遺構確認を行った。1面では古墳時代後期以降の遺構が調査対象であったが、大半は近世遺構の農耕に伴う土坑、溝が主であり、古墳時代から奈良・平安時代、中世の遺構についてはほとんど確認することはなかった。

**調査面2面：**榛名山二ツ岳の2度目の噴火火山灰であるFPの直下面を対象とした。遺跡地内に堆積する1m以上のFP層の除去には、FP下部を5cm前後残すように重機を使用して掘削を行い、その後人力によりヘラや刷毛などでFPを除去した。この面では、生産遺構である畠や馬蹄痕や溝状に凹む人馬の歩いた痕跡として踏み分け道が存在した。

**調査面3面：**第2面下から榛名山二ツ岳の1度目の噴火火山灰であるFAの直下面までの間は10cm前後と薄く、FAの攪拌と土壌化が見られる。第3面は、FAを含むⅢ層からⅣ層の黒色土上面を対象とした。FAはほとんど攪拌され僅かに純層が確認できる程度であった。遺物はほとんど見られないが、一部11区や12区では畦状遺構や道を検出した。

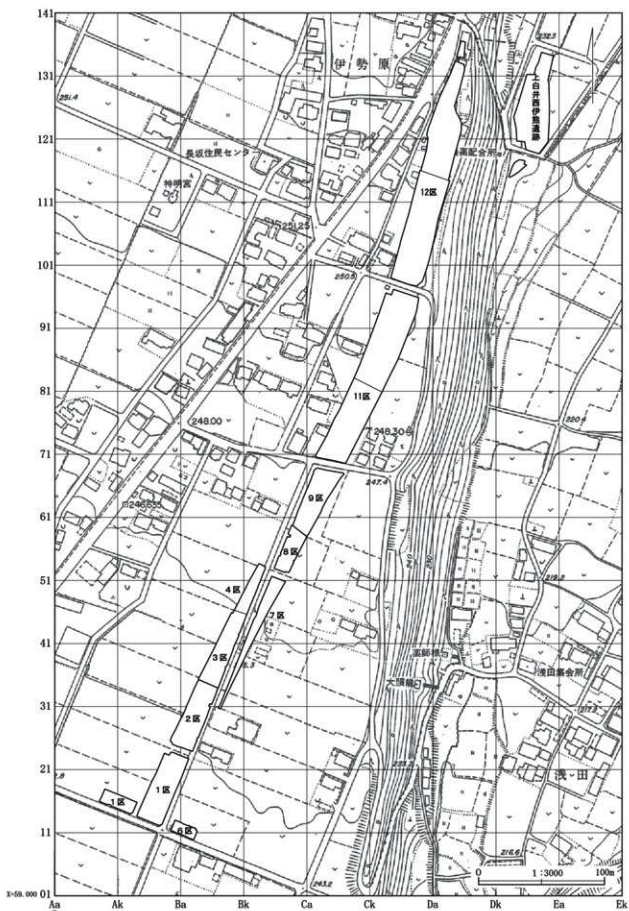
**調査面4面：**3面調査段階でⅣ層の黒ボクと呼ぶ黒色土中から土器・石器が出土し始めた。また、9区ではⅤ層中から配石遺構が確認されたため、遺物包含層の調査と遺構確認を並行して行いながらⅤ層・Ⅵ層からローム上面まで掘り下げを行った。遺構は、Ⅴ層中では小ピットを多数確認し、Ⅵ層中よ

りうすら色調の異なる住居の輪郭が確認できるようになった。また、遺物も住居の輪郭らしき部分に集中するようになってきた。特に11区や12区では住居や土坑の輪郭が複雑に絡み合い遺構の多さを物語り、新旧関係の把握が難航し、サブトレンチなどを入れ住居や土坑を確定した。それでも住居内から新たに土坑が検出されるなど見落とし部分もあった。最終的には1区～13区にかけて縄文時代前期から後期にかけての住居131軒・土坑890基を数え、遺物総量は910箱に達した。

**調査面5面：**Ⅴ層下ローム層中に存在する旧石器の確認であるが、基本的には調査対象面積の10%程度を目安に試掘を行った。その結果、1区でAs-BP下から旧石器の文化層を確認し、出土した試掘坑を中心に範囲を拡張し調査を行った。

### 第4節 調査区の設定

調査区の設定は、国家座標に即して発掘調査対象地全域を5m方眼によるグリッドで網羅できるように行った。グリッドの設定では発掘調査対象地の最も南西の隅寄りの国家座標地のX=59,000、Y=-72,600を起点として2次関数第1象限に即してグリッドを設定した。グリッドの呼称は東西方向にアルファベット大文字小文字併記、南北方向に数字を当てた。アルファベットの起点はAaとし、東方向に5m毎に小文字をb、c、dと変化させ95m地点をAtとした。100m地点では大文字を次の文字に移行し、再び小文字のaから開始した。すなわちBaと呼称する方法を採用した。なお、北方向の数字は01から5mごとに02、03、100m地点が25と増加する呼称である。たとえば起点から東へ90m、北へ300mの地点はAs-75と呼称され、この点から東・北方向の5m四方がAs-75グリッドとなる。なお、上白井西伊熊遺跡は中郷遺跡の北西に隣接していることから中郷遺跡のグリッドを共用している。



第4図 グリッド配置図



## 第2章

### 地理的・歴史的環境



遺跡遠景：遺跡地を東から見る。中央の山並みが6世紀代に2度の大噴火を起こした榛名山。1度目の噴火の火砕流により木々がなぎ倒され焼け野原となり、2度目の噴火でこの地域一帯が2 m程の軽石で埋め尽くされている。

## 第1節 遺跡の位置と周辺の地形

本遺跡は、群馬県の中央部や北よりに位置する渋川市中郷（旧子持村大字中郷、平成18年2月市町村合併）に所在している。渋川市北部の旧子持村（以下子持村と呼称する）は新潟方面に向かう国道17号と長野方面に向かう国道353号の分岐点にあり、交通の要衝となっている。

子持村からの眺望は、南東方向は開け関東平野へ続く。東側に赤城山、南西側に榛名山と榛名山から伸びる山麓地形が東にせり出している。北には子持山がそびえ、西方には小野子山から白根・草津方面の山並みが望める。また、赤城山麓と子持山麓の間には大きく山間地を削り込んで利根川が南流し、西からは榛名山麓を削り込んだ吾妻川が東流し、本村の南東部の落合にて両河川は合流して関東平野に流れ下っていく。この山々や河川により子持村の地形は形成されている。

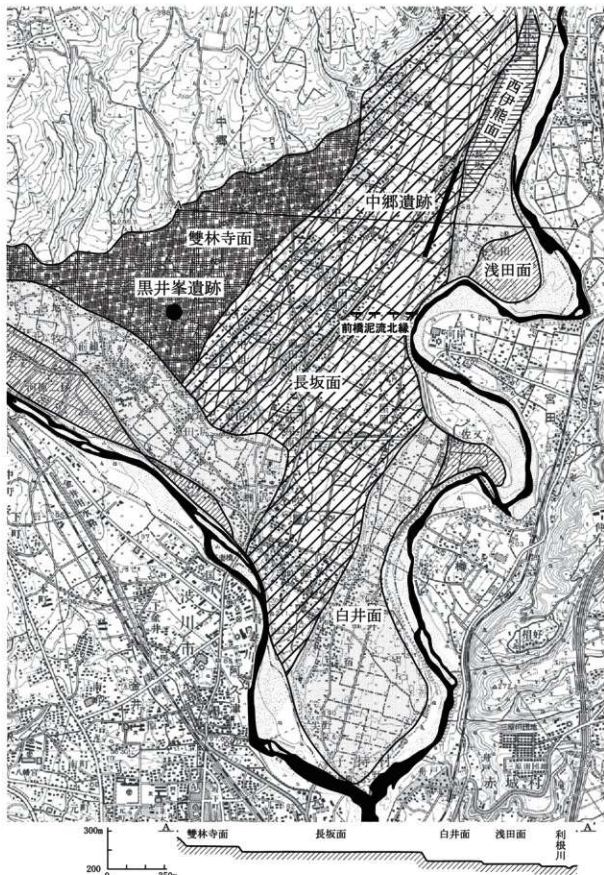
村内の地形は、北に聳える子持山からの火山性扇状地形の影響が大であり、北から南への傾斜が見られる。その中で階段状の平坦面が見られる。この平坦面は、利根川や吾妻川により形成された河岸段丘面である。これらの段丘面は、形成年代の古い順に雙林寺面、長坂面、西伊熊面、白井面、浅田面<sup>1)</sup>と呼ばれている。雙林寺面は、最も高い段丘面であり、後述する榛名山噴火軽石に埋もれた古墳時代のムラ黒井峯遺跡(国指定史跡)(22)がある。遺跡の標高は250mである。本遺跡は、2段目の長坂面上に位置する。長坂面は最も広い段丘面であり、北の上白井地区から南は吾妻川に切られる。南北約5km・東西約1kmの広さを持つ。中央付近に国道17号が走り、利根川寄りには吹屋原と呼ばれ平坦な面が広がるが、国道17号から西側は鯉沢川の開折が進み起伏に富んでいる。

本遺跡付近の標高は234～239mを測り、本遺跡12区東側には比高差20m前後を測る急峻な段丘崖があり、この崖下には南北方向に細長く延びる西伊熊面がある。この西伊熊面は他の地区には見られない。

更にその下位には数mの段差を持ち白井面があり、更に下位に浅田面が所在する。浅田面は最終段丘面で蛇行する利根川の突端部に見られる。白井面は主に下部の白井地区の平坦面を指すが、吾妻川沿いの北牧から田尻・鯉沢地区にも所在する。本事業地の長坂面上の吹屋伊勢森遺跡(2)と白井面上の白井十二遺跡(5)との間に20m程の急峻な段丘崖が見られるが、南の downstream 方向に向って段丘崖は低くなり、白井城(57)のある先端部近くでは余り顕著な段丘崖は見られなくなる。

段丘面形成は、長期間にわたる緩やかな変化と言え、それとは対照的に突発的に急激な地形変化を起こすものに火山噴火がある。2万1千年前頃とされる浅間山噴火と共に発生した前橋泥流は、吾妻川沿い利根川合流点以南の地形を大きく変えた。前橋泥流は、浅間山の噴火により山体が崩壊し、その土砂が吾妻川へ流れ込み泥流となって下流域に押し寄せた。その後、利根川に流れ込んだ前橋泥流は渋川市から前橋市や高崎市等の現在の主要都市を含む広大な範囲に大量の土砂を運んだ。本村では、前橋泥流が長坂面上に乗り上げた状況を、吹屋大子塚遺跡(14)や吹屋伊勢森遺跡等の発掘調査で確認している。本遺跡南に位置する吹屋遺跡(3)II区においては、長坂面上に乗り上げた前橋泥流の北縁を確認した。この北縁部分は、調査前には東西方向に延びる谷地形が入っていると思わせるほど凹んで見えた。調査の結果、この谷地形は南傾斜の長坂面上に東進してきた泥流が乗り上げ、吹屋原一帯を一段高く盛り上げた事が分かった。この泥流が無ければ傾斜はきつくなり、先端部の白井城付近は白井面となっていたと考えられる。

前橋泥流以降も本地域には多くの火山灰が確認でき、遺跡調査では時期決定に欠かせない物となっている。中でも、古墳時代に2度の大きな火山災害に見舞われたことが特筆される。いずれも榛名山の噴火によるものであり、6世紀初頭の噴火に伴う堆積物は榛名渋川テフラ(Hr-FA)と呼ばれ、6世紀中葉の噴火に伴う堆積物は榛名伊香保テフラ(Hr-FP)と



第5図 段丘面分類図（「子持村誌上巻」参照）

呼ばれている。

堆積しているFAは、主に降下火山灰であるが、その中に火砕流堆積物が見られ、吾妻川を乗り越えて本地域にも到達している状況を確認した。

本遺跡のFAの堆積は薄く大半が働き込まれたような状態であり、道下や畦状遺構の下で2cmほどの厚さで残った。しかし、南に行くほどFAの堆積は厚く、火山灰層や火砕流堆積物が明瞭に分けられるほどである。約3km南の白井二位屋遺跡(22)ではFAの厚さは約40cmを測った。また、次のFP降灰時には、降灰範囲の中心軸上に本地域が位置しており、FPは本地域で1~20cm弱の大きさを測り、山も谷も関係なく2m近く降り積もり旧地表面を覆い尽くした。その結果として地表面が2m近く持ち上がった。

#### 参考文献

1) 「子持村誌」上巻 子持村 1987

本文中( )は、第2節周辺遺跡の参考文献参照。

## 第2節 周辺の遺跡

本遺跡が所在する子持村とその周辺は、6世紀中頃の榛名山の噴火によるFPの堆積が厚いため、古墳時代以前の遺跡の確認が難しくなっていた。しかし、近年道路開発等で調査事例が増え、旧石器時代から近世に至るまで各時代を通して多くの遺跡がある事が分かってきた。更にFPにバックされる事により遺跡の保存状態が良く、どの遺跡の調査でも新たな発見があり特に注目される地域でもある。

旧石器時代の遺跡は、道路建設が集中する長坂面での調査例が多くなり、吹屋犬子塚遺跡(14)で浅間白糸降下軽石(As-Sr)下、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)下の石器群を、吹屋中原遺跡(15)で浅間板鼻黄色軽石(As-YP)下の石器群を確認している。国道17号鯉沢バイパス関連でも吹屋遺跡(2)でAs-YP下、本遺跡(1)でAs-BP下、上白井西伊熊遺跡(4)でAs-SrからAs-BPにかけての石器群が検出された。

縄文時代に入ると調査遺跡も多くなり、各段丘面

で遺跡が発見されるようになっていく。草創期の遺跡では白井北中道遺跡(8)、白井十二遺跡(5)、吹屋伊勢森遺跡等で草創期の遺物が出土している。前期の遺跡は、集落規模はあまり大きくはないが調査例が増えている。吹屋犬子塚遺跡(14)、吹屋中原遺跡(15)、吹屋遺跡(2)、吹屋伊勢森遺跡(3)、上白井西伊熊遺跡(4)、白井十二遺跡(5)、白井北中道Ⅲ遺跡(6)、黒井峯遺跡(22)、押出遺跡(24)などで集落の調査が行われている。本遺跡でも調査区毎に数軒単位で検出されている。また利根川の対岸の赤城村でも見立溜井遺跡(40)、諏訪西遺跡(41)、中畦遺跡(42)、三原田城遺跡(43)などの集落遺跡が検出されている。中期の遺跡は、本遺跡や吹屋中原遺跡、利根川対岸の房谷戸遺跡(44)や三原田遺跡(45)等で集落が検出されている。その中で大規模集落として本遺跡や三原田遺跡がある。

古墳時代前期の遺跡は、吹屋靴屋遺跡(19)、中野田尻遺跡(18)、白井北中道Ⅲ遺跡(6)などで集落が検出されている。FA直下(6世紀初頭)の遺跡では北牧相ノ田遺跡(31)、北牧大境遺跡(20)、吹屋瓜田遺跡(21)などで水田が調査されている。FP直下(6世紀中葉)の遺跡では黒井峯遺跡(22)、西組遺跡(23)、押出遺跡(24)、田尻遺跡(26)などで、集落・墳墓・水田・畠が検出され、当時の集落構造の解明に貴重な資料となっている。FA直下で水田が検出された前述の各遺跡ではFP直下でも水田が確認されている。また、白井地区、吹屋地区の遺跡でFP直下から馬の放牧地が広範囲に確認されている。FP下の古墳では、中ノ峯古墳(48)、浅田遺跡(35)、伊熊・有瀬古墳群(50)などが調査されている。FP降下以降になると群集墳が数多く作られている。吹屋伊勢森遺跡に近い大塚(稲荷塚(53)、并塚(54))は古墳でない可能性もある。



第3表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	概要	文献	番号	遺跡名	概要	文献
1	中郷遺跡	縄文前・中期集落、FF下放牧地	本書	29	池田沢遺跡	FF下遺・古墳	1
2	吹屋伊勢森遺跡	縄文草創期遺物、前期集落、F P F 高・放牧地	49	30	九子山遺跡	FF下、FF上古墳	4
3	吹屋遺跡	縄文前期集落、FF下放牧地	51	31	北牧相ノ道跡	FA下水田、FF下水田	32
4	上白井西伊勢森遺跡	縄文前期集落、FF下放牧地	15,16	32	畑中遺跡	FA下水田、FF下水田	4
5	白井十二遺跡	縄文草創期、前期、FF下放牧地	15,16	33	後田遺跡	FF下水田	24
6	白井北中道Ⅰ遺跡	縄文前期、古墳前期集落、FF下放牧地	14,15	34	源空寺遺跡	FF下放牧地	3
7	白井北中道Ⅱ遺跡	FF下高・放牧地	17	35	浅田遺跡	FF下古墳	9,10
8	白井北中道遺跡	縄文草創期遺物、FF下放牧地	18,19	36	白郷井中学校庭遺跡	古墳時代集落	33
9	白井丸岩遺跡	FF下放牧地	18,19	37	熊持久保遺跡	FF下遺・高	34
10	白井南中道遺跡	FF下放牧地、奈良平安集落	19,21	38	宮田諏訪原遺跡	FA下信祀、FF下遺・高	34
11	白井二位屋遺跡	FF下放牧地、奈良平安集落	20,22	39	宮田畔野遺跡	FF下水田	31
12	白井大宮遺跡	FF下放牧地	23	40	見立遊井遺跡	旧石器、縄文前・中期集落	35
13	渡原遺跡	古墳前期集落	24	41	諏訪西遺跡	旧石器、縄文前・中期集落	36
14	吹屋大子塚遺跡	縄文前期集落、FA下水田、FF下放牧地	17	42	中畦遺跡	旧石器、縄文前期集落	36
15	吹屋中原遺跡	縄文前・中期集落、FF下高・放牧地	17	43	三原田城遺跡	縄文前期集落	37
16	中郷悠久保遺跡	4c~5c集落、FA-FF下水田・高	50	44	房谷戸遺跡	旧石器、縄文中期集落	38
17	吹屋三角遺跡	FA下水田、FF下水田	53	45	三原田遺跡	縄文前期・後期集落	39
18	中郷田尻遺跡	古墳5c集落、FA-FF下水田他	54	46	樽遺跡	弥生時代集落	40
19	吹屋籠屋遺跡	古墳5c集落、FA-FF下水田他	52	47	坂之下遺跡	FA下水田	41
20	北牧大塚遺跡	FA-FF下水田、奈良平安集落	25	48	中ノ塚古墳	FF下古墳	42
21	吹屋瓜田・鵜沢瓜田遺跡	FA下水田、FF下水田	26,27	49	白井古墳群	FF上古墳	43
22	黒井峯遺跡	縄文集落、FF下集落・古墳・水田他	28	50	伊熊・有瀬古墳群	FF下古墳	43
23	西組遺跡	FF下集落・水田・高	29	51	河原古墳群	FF上古墳	44
24	押出遺跡	縄文集落、FF下集落・高	30	52	坂下町古墳群	FA下古墳	45
25	船野遺跡	FF下高	31	53	大塚(船橋坂)	FF上古墳?、長尾村14号	44
26	田尻遺跡	縄文集落、FF下集落・古墳・高	3-15	54	弁塚	古墳?、長尾村15号	44
27	八幡神社遺跡	FF下集落・高	3	55	金井製鉄遺跡	平安製鉄跡	46
28	中組遺跡	FF下遺・高	2	56	東町閣下遺跡	中~近世水田	47

文献

- 1 『年報7』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988  
 2 『年報8』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989  
 3 『年報11』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992  
 4 『年報12』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993  
 5 『年報13』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994  
 6 『年報14』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995  
 7 『年報15』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996  
 8 『年報16』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997  
 9 『年報17』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998  
 10 『年報18』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999  
 11 『年報19』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000  
 12 『年報20』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001  
 13 『年報21』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002  
 14 『年報22』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003  
 15 『年報23』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004  
 16 『年報24』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005  
 17 『白井北中道Ⅰ遺跡・吹屋大子塚遺跡・吹屋中原遺跡』  
 第1冊、第2冊 群県文 1996、1998  
 18 『白井遺跡群—縄文時代編—』 群県文 1998  
 19 『白井遺跡群—古墳時代編—』 群県文 1997  
 20 『白井遺跡群—集落編Ⅰ—』 群県文 1994  
 21 『白井遺跡群—集落編Ⅱ—』 群県文 1996  
 22 『白井遺跡群—中世編—』 群県文 1993  
 23 『白井大宮遺跡』、『白井大宮遺跡Ⅱ』 群県文 1993、2002  
 24 子持村教育委員会石井克己氏のご指示による。  
 25 『北牧大塚遺跡』 群県文 2004  
 26 『吹屋瓜田遺跡』 群県文 1996  
 27 『鵜沢瓜田遺跡』 子持村教育委員会 2000  
 28 『黒井峯遺跡発掘調査報告書』 子持村教育委員会 1991  
 29 『西組遺跡発掘調査報告書』 子持村教育委員会 1985  
 30 『押出遺跡発掘調査概報』 子持村教育委員会 1987  
 31 『群馬県史 資料編2』 群馬県史編さん委員会 1986  
 32 『北牧相ノ道跡』 子持村教育委員会 2000  
 33 『群馬県遺跡台帳Ⅰ』 東毛編 群馬県教育委員会 1971  
 34 『宮田諏訪原遺跡Ⅲ—熊持久保遺跡』 赤城村教育委員会 2004  
 35 『見立遊井遺跡』 赤城村教育委員会 1985  
 36 『中畦遺跡・諏訪西遺跡』 群県文 1986  
 37 『三原田城遺跡』 群県文 1987  
 38 『房谷戸遺跡Ⅰ』、『房谷戸遺跡Ⅱ』 群県文 1989、1992  
 39 『三原田遺跡』第1~3巻 群馬県企業局 1980~1992  
 40 杉原正介『上野樽遺跡調査概報』『考古学』第10巻第10号1939  
 41 『坂之下遺跡』 渋川市教育委員会 1988  
 42 『中ノ塚古墳発掘調査報告書』 子持村教育委員会 1980  
 43 『子持村誌 上巻』 子持村誌編さん室 1987  
 44 『上毛古墳総覧』 群馬県 1938  
 45 『北群馬・渋川の歴史』 北群馬・渋川の歴史編さん委員会 1971  
 46 『金井製鉄遺跡発掘調査報告書』 渋川市教育委員会 1988  
 47 『東町閣下遺跡』 群県文 1988  
 48 山崎 一 『群馬県古墳址位の研究』 1972  
 49 『吹屋伊勢森遺跡』 群県文 2006  
 50 『中郷悠久保遺跡』 群県文 2006  
 51 『吹屋遺跡』 群県文 2007  
 52 『吹屋籠屋遺跡』 群県文 2007  
 53 『吹屋三角遺跡』 群県文 2007  
 54 『中郷田尻遺跡』 群県文 2007  
 55 『白井佐又遺跡発掘調査報告書』 子持村教育委員会 2005  
 56 『吹屋悠久保遺跡』 子持村教育委員会 2006

## 第3節 基本土層

本遺跡の乗る長坂面は、発掘調査の鍵層となる榛名山や浅間山の噴火火山灰・軽石などが堆積し、土層観察に適した地である。

今回の発掘調査で確認できた火山灰は、ローム層中の深所から約4.1万年前の榛名山噴火軽石（Hr-HP）の確認から始まり、榛名箱田テフラ（Hr-HA）、浅間山噴火火山灰の浅間板鼻褐色軽石（As-BP層群）、浅間白糸降下軽石（As-Sr）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP）等が確認できた。その中で、約2万年前の浅間山噴火による山体崩壊に由来する前橋泥流堆積物が長坂面上に堆積している状況が確認でき、更に本遺跡南約200mの所に位置する吹屋遺跡Ⅱ区の調査において泥流の北限が観察できた。

また、ローム上層には榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）が堆積している。その他にHr-FA下層の黒褐色土中に榛名有馬テフラか浅間C軽石か詳細が不明な白色軽石が観察できた。

以下は中郷遺跡の基本土層図です。

- I層：表土。黒褐色土。Hr-FPを多量に含む。
- Ⅱ層：榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、6世紀中葉）。層厚110～120cm。
- Ⅲ層：褐灰色土。Hr-FAが攪拌され土壌化した層。
- Ⅲ-1：褐灰色土。シルト質の細かな層。（2面中1.）
- Ⅲ-2：暗灰褐色土。Hr-FAの土壌化の進んだ層。焼土や炭化物をわずかに含む。（2面中2.）
- Ⅲ-3a：Hr-FAの小塊が観察できる。（2面中3a.）
- Ⅲ-3b：Hr-FAが主体の層。（2面中3b.）
- Ⅲ-3c：榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）。
- Ⅳ層：黒色土。白色・黄色軽石（2mm前後）を含む。
- Ⅴ層：褐色～にぶい黄褐色土。淡色黒ボク土。
- Ⅵ層：にぶい黄褐色土。ローム漸移層。
- Ⅶ層：明黄褐色土。固く締まったローム層。浅間板鼻黄色軽石（As-YP、約1.3～1.4万年前）の

小ブロック含む。

Ⅷ層：黄橙色ローム。締まり弱く、粘性ややあり。

Ⅸ層：明黄褐色土。As-Srを多量に含む。

X層：浅間白糸降下軽石（As-Sr、約1.8万年前）。

XⅠ層：黄白色シルト質土。

XⅡ層：褐色～黄褐色ローム。粘性あり。

As-BP層群の上下及び間層。

XⅢ層：浅間板鼻褐色軽石。大きく3枚に分かれる。

（As-BP層群約2.0～2.4万年前）

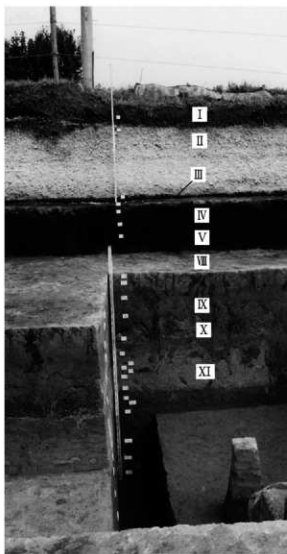
XⅣ層：前橋泥流堆積物。

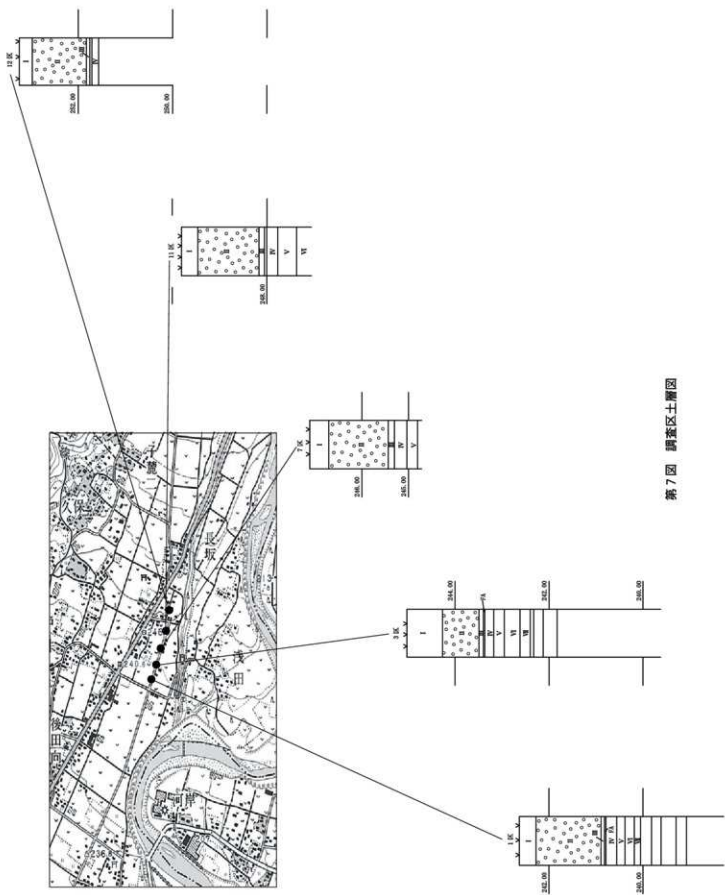
XⅤ層：褐色ローム層 色調により細分できる。

XⅥ層：榛名箱田テフラ（Hr-HA、3.2万年前）

XⅦ層：褐色ローム層 色調により細分できる。

XⅧ層：榛名八崎軽石（Hr-HP、約4.1万年前）





第7図 跡地区土層図



### 第3章

#### 1面の調査 (Hr-FP層上面)



調査区近景：12区南の第1面の遺構検出状況。6世紀中頃の榛名山噴火産積物（Hr-FP）が2 m近く降り積もった。この軽石の上には噴火直後から現代までの生活の痕跡が確認できる。  
（手前は第4面の調査で検出した縄文時代の敷石住居）

## 第1節 調査の概要

中野地区も昭和40年代のは場整備以前は畑作地域であったようであるが、群馬用水の敷設により吹屋地区から続く水田地帯と畑作区域・宅地区域が混在するようになった。現在の農作物は、下層に堆積するFPの影響で水はけが良く、水田も含め蒔栽栽培が行われている。

各調査区の現況は、工事区28（1区）及び30（2区～4区）にかけては子持山麓の緩傾斜面に沿って切り盛り造成が行われ東西に長い水田が階段状に作られている。工事区29（6区）～31（7区～9区）にかけては畑地となっており、工事区32以北（11区～13区）は畑地と宅地が半々となっている。

第1面の調査は、最初に重機を用いて30cm前後の表土の除去から行い、FP層上面を出すことから始めた。FP層上面はほ場整備の影響で堅く締まっている部分や二次堆積でグズグズと柔らかい部分などもあった。次に人力でこのFP層上面の遺構確認を行うわけであるが、大小様々な軽石の上をジョレン掻くためジョレンが撥ねたり、遺構内の黒色土を掻きだした際に黒色土が外の軽石の間つまり範囲が不明瞭となったりと確認作業に手間がかかった。また、調査中も遺構掘り下げ、写真撮影用の清掃、図化記録等の作業の際に地山（基盤層）の軽石が崩れることが多く、手際の良さが求められた。更に、黄白色軽石層が地山であるため常に調査区全面に雪が降ったような状況となり、晴天の日には照り返しがまぶしく、写真撮影など曇り空を望むほどであった。

## 第2節 検出された遺構

第1面で検出される遺構は、6世紀中頃の榛名山噴火以降から現代までの約1,500年間に掘り込まれたものである。その痕跡が表土下に厚く堆積しているFP層上面で確認できる。

本遺跡の第1面で検出した主な遺構は、土坑・耕

作坑・道跡等がある。堅穴住居跡や掘立柱建物跡等は検出されず集落の様相はなかった。

耕作坑については、鯉沢バイパス白井遺跡群の発掘調査時に、遺跡周辺に在住の方々に聞き取り調査を行い、近年に至るまで畑の境界に沿って土坑を掘り、冬季に芋類やごぼうなどの根菜類を貯蔵していた例があることが確認できている。また、白井遺跡群の調査では、これらの土坑から出土する遺物が江戸時代後期のものが主体であり、遺構の上限をこの時期と捉えている。これらのことから、吹屋遺跡の調査にあたって、畑に作られた作物貯蔵用の土坑と考えられるものを、他の土坑と区別するために、「耕作坑」と呼称することとした。

形状は溝状もしくは細長い長方形を呈し、長さは大抵のものが1mを超え、8mを超える長大なものもある。幅は概ね人が一人入れる0.5～0.8m程度が多く、断面形はU字状を呈する。耕作坑の掘られる位置としては、ほ場整備前の道跡際に平行するように掘られるものがほとんどである。深さは、FP層中で止まるものとFPを掘り抜き下層の黒色土まで達するものもある。また、埋没土は、二次堆積のくすんだ軽石、黒色土、黒色土との混土、FPと黒色土が互層に堆積するものなど様々である。

道：その2工事に伴う発掘調査の最初の調査遺跡である吹屋伊勢森遺跡の第1面調査当初、表土下の黄白色のFP面に灰茶色にくすんだFPを確認した。この変色したFPは直線的に伸びるものや直行するものなどがあり、部分的にFPが崩れ空隙が無く締まった状況が見られることなどからほ場整備前の道跡又は地境と考えた。そこでほ場整備以前の地割りを確認するため昭和20年に米軍が撮影した写真から地割り図作成し図面に重ね合わせたところ、一致したためほ場整備以前の道跡の確認を得た。

第4表 耕作坑計測一覧表

区	番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位	重複	備考
1	1	Aj-16	1.82	0.56	-	N-66°-W		2耕と近接、直交
	2	Aj-16	2.68	0.56	-	N-21°-E		2道と並行
	3	Aj-15	1.81	0.48	-	N-73°-W		1道と並行
	4	AN-13	3.32	0.50	-	N-70°-W		1道と並行
	5	AN-14	(1.68)	0.50	-	N-60°-W		1道と並行
	6	AN-14	(1.00)	0.92	-	N-76°-W	1道切る	
	7	Ag-18	3.12	0.62	-	N-66°-W		
	8	As-16	2.16	0.54	-	N-19°-W		
	9	At-21	2.34	0.68	-	N-66°-W		
2	1	As-25	1.50	0.44	-	N-35°-E		5耕と11耕と距離があるが並ぶ
	2	As-26	(1.88)	0.40	-	N-68°-W		
	3	Ba-28	1.42	0.58	-	N-63°-W		4耕と距離はあるが並ぶ
	4	Bc-27	1.40	0.42	-	N-64°-W		3耕と距離はあるが並ぶ
	5	Bb-30	1.30	0.50	-	N-31°-E		1耕と11耕と距離があるが並ぶ
	6	Bb-32	(3.02)	0.94	-	N-65°-W		
	7	Bd-32	1.70	0.64	-	N-71°-W		8耕・9耕と直線で並ぶ
	8	Bb-32	1.58	0.60	-	N-71°-W		7耕・9耕と直線で並ぶ
	9	Bd-32	1.42	0.64	-	N-71°-W		7耕・8耕と直線で並ぶ
	10	Bd-32	1.24	0.52	-	N-71°-W		直線的に並ぶ7耕-9耕に平行
	11	Bd-34	1.10	0.62	-	N-20°-E		1耕と5耕と距離があるが並ぶ
3	1	Bf-39	1.43	0.80	-	N-72°-W		1道に平行、1耕-4耕は直線的に並ぶ
	2	Bf-38	1.50	0.70	-	N-63°-W		1道に平行、1耕-4耕は直線的に並ぶ
	3	Bg-38	1.63	0.60	-	N-63°-W		1道に平行、1耕-4耕は直線的に並ぶ
	4	Bh-38	2.34	0.60	-	N-72°-W		1道に平行、1耕-4耕は直線的に並ぶ
	5	Bf-39	4.40	0.64	-	N-68°-W		1道に平行
	6	Bf-40	3.20	0.44	-	N-24°-E		5耕と直交する
4	1	Bm-52	1.98	0.44	-	N-69°-W		2耕と直交
	2	Bm-52	1.34	0.50	-	N-30°-E	?	1耕と直交
7	Bj-39	1.80	0.90	0.67	N-73°-W		1道に平行	
8	1	Bp-53	1.10	0.60	0.32	N-72°-W		3耕と直線的に並ぶ
	2	Bp-52	1.25	0.70	0.52	N-75°-W		1耕と平行
	3	Bp-52	1.50	0.60	0.42	N-74°-W		1耕と直線的に並ぶ
	4	Bp-53	1.60	0.80	0.35	N-24°-W		
9	1	Ca-65	0.78	0.52	-	N-77°-W		
	2	Ca-66	1.30	0.68	-	N-63°-W		
	3	Cd-66	1.90	0.62	-	N-16°-E		1道と平行
	4	Cd-67	2.00	0.60	-	N-76°-W		
11北	1	Co-96	1.00	0.60	0.70	N-6°-E		
	2	CN-94	(2.00)	0.60	1.13	N-50°-W	2道・6道と3耕	
	3	Cm-94	(2.40)	0.85	0.57	N-58°-W	2耕	
	4	Cm-94	(1.00)	0.50	0.13	N-39°-E	6道と2耕・3耕	
	5	Cm-93	1.80	0.60	0.13	N-56°-W	6道	
	6	Cm-91	2.00	0.80	0.30	N-21°-E		6道と平行
	7	Ck-90	(1.10)	0.70	0.48	N-71°-W		
	8	CN-88	(4.50)	0.76	0.58	N-73°-W	12耕	3道に平行。9耕-12耕と一連
	9	Ck-88					10耕・11耕内	10耕・11耕の接続部を確認した。
	10	Ck-88	(5.40)	0.95	0.64	N-72°-W	9耕・11耕	3道に平行。9耕-12耕と一連
	11	Cl-88	(4.00)	1.00	0.52	N-72°-W	9耕-10耕-12耕	3道に平行。9耕-12耕と一連
	12	Cm-88	(3.40)	0.80	0.39	N-73°-W	8耕・11耕	3道に平行。9耕-11耕と一連
	13	Co-90	2.30	0.90	0.53	N-20°-E		1道に平行
	14	Co-87	2.20	0.60	0.21	N-60°-E	15耕	1道と平行

第3章 1面の調査 (Hr-FP層上面)

	15	Co-87	0.90	0.90	0.44	N-24° - E	14耕	3道と平行
	16	Co-90	1.70	0.90	0.82	N-66° - W		
	17	Co-90	1.00	0.70	0.18	N-34° - E		
	18	Cq-91	2.20	0.74	0.56	N-12° - E	1道	1道と平行
	19	Cm-84	2.00	0.50	0.09	N-80° - W	4道	
	20	Cj-84	1.85	1.00	0.75	N-75° - W		4道と平行
	21	Cl-84	0.90	0.45	0.02	N-71° - W	4道	
	22	Cl-81	2.50	1.10	0.54	N-5° - W		
	23	Ck-81	0.15	0.75	0.52	N-60° - E		
	24	Cl-81	0.70	0.55	0.16	N-90° - E		
11南	25	Cj-81	4.75	0.70	0.32	N-78° - W		
	26	Ch-80	2.40	(0.70)	0.42	N-77° - W	27耕	
	27	Ch-80	5.40	0.85	0.39	N-77° - W	26耕	
	28	Ch-80	6.15	0.70	0.27	N-73° - W		
	29	Cj-80	2.20	0.70	0.72	N-10° - E	30耕	5道に接し、33耕・34耕と直線的に並ぶ
	30	Cj-80	1.30	0.50	0.39	N-18° - E	29耕	5道に接する
	31	Cj-80	1.45	0.80	0.71	N-60° - W		
	32	Cj-79	1.45	0.60	0.30	N-77° - W		
	33	Cl-79	1.90	0.70	0.44	N-9° - E	5道	5道に接し、29耕・34耕と直線的に並ぶ
	34	Cl-79	1.60	0.80	0.31	N-4° - E	5道	5道に接し、29耕・33耕と直線的に並ぶ
	35	Cj-79	2.80	0.90	0.81	N-76° - W	36耕	
	36	Cj-79	1.60	0.70	0.59	N-69° - W	35耕	
	37	Cl-79	3.40	0.60	0.44	N-77° - W		
	38	Ch-75	1.65	0.60	0.44	N-33° - W	7道	
	39	Ch-75	1.80	0.60	0.44	N-87° - W		8道と平行
	40	Cl-74	1.15	0.60	0.26	N-80° - W		
	41	Cl-74	0.80	0.70	0.31	N-84° - W		
	42	Cf-74	4.70	0.70	0.47	N-77° - W		8道と平行
	43	Cf-70	6.20	0.70	0.30	N-77° - W		9道と平行
	44	Cf-70	1.60	0.40	0.41	N-76° - W		9道と平行

第5表 土坑計測一覧表

区	番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位	重複	形状	備 考
5	1	Bo-56	1.55	0.88	0.15	N-10° - E		長方形	
	2	Bo-56	1.2	0.64	0.39	N-9° - E		隅丸長方形	
	3	Bo-57	1.35	0.54	0.37	N-2° - E		隅丸長方形	
	4	Bo-57	0.98	0.38	0.14	N-5° - E		隅丸長方形	
	5	Bo-57	0.45	-	0.17			円形	
	6	Bo-57	0.34	-	0.17			円形	
	7	Bo-57	1.49	0.9	0.41	N-10° - E		長方形	
	8	Bo-58	0.15	0.72	0.76	N-70° - W		長方形	
12	1	Dc-129	0.86	0.6	0.71			楕円形	
	2	Db-127	1.96	1.23	0.79	N-74° - W		隅丸長方形	
	3	Dc-126	0.82		0.47			楕円形	
	4	Dc-126	0.42		0.29			円形	ビット状
	5	Db-125	0.42		0.56			円形	ビット状
	7	Dc-124	0.8	0.6	0.35	N-76° - W		円形	ビット状
	8	Dc-124	0.6		0.3			円形	ビット状
	9	Dc-123	0.5		0.31			円形	ビット状
	10	Dc-122	2.25	1.48	0.42	N-70° - W		隅丸長方形	
	11	Dc-122	0.88		0.34			円形	
	12	Dc-121	1.12	0.72	0.35	N-12° - E		隅丸長方形	

12	13	Dc-121	1.32	0.68	0.4	N-23° - E	長円形	
	14	Dc-120	0.93	0.72	0.33	N-56° - W	楕円形	
	15	Dc-119	0.38		0.27		円形	ビット状
	16	Dc-119	0.45		0.31		円形	ビット状
	17	Ct-121	0.98		0.24		円形	
	18	Ct-120	0.69		0.26		楕円形	ビット状
	19	Ct-116	1.00		0.26		円形	
	20	Cs-113	1.8	0.95	0.34	N-90° - W	長円形	
	21	Cs-115	0.7		0.22		隅丸方形	
	22	Cs-114	0.9		0.2		楕円形	
	23	Cs-113	2.45	1.10	0.20	N-70° - W	隅丸長方形	
	24	Da-114	1.65	1.23	0.40	N-71° - W	隅丸長方形	
	25	Cs-115	1.95	1.20	0.53	N-13° - E	隅丸長方形	
	26	Ct-113	1.15		0.12		隅丸方形	
	27	Cr-112	1.50	0.70	0.12		楕円形	
	28	Da-112	0.70		0.28		不定形	
	29	Da-113	1.35	0.90	0.30	N-70° - W	長円形	
	30	Da-113	1.13		0.27		隅丸方形	
	31	Da-113	1.15	0.85	0.30	N-47° - W	隅丸長方形	
	32	Da-113	1.28		0.57		隅丸方形	
	33	Da-113	1.30	1.05	0.20	N-72° - W	隅丸長方形	
	34	Da-112	1.00		0.28		隅丸方形	
	35	Da-112	1.42		0.28		不定形	
	36	Cs-113	1.00		0.56		隅丸方形	
	37	Cr-111	1.82	0.90	0.44	N-60° - W	長方形	耕作坑
	38	Ct-114	0.92	0.70	0.2	N-70° - W	隅丸方形	
	39	Cs-111	0.65		0.6		楕円形	
	40	Cq-109	1.90	0.85	0.37	N-18° - E	長方形	耕作坑
	41	Cr-108	2.15	0.90	0.18	N-33° - E	長円形	耕作坑
	42	Cr-106	2.60	1.00	0.22	N-50° - E	長方形	耕作坑
	43	Cs-106	2.00	1.20	0.29	N-12° - E	長方形	耕作坑
	44	Cr-101	2.00	0.95	0.44	N-24° - E	長方形	耕作坑
	45	Cq-104	3.10	0.85	0.64	N-63° - W	長方形	耕作坑
	46	Cp-104	2.05	0.90	0.48	N-33° - E	長方形	耕作坑
	47	Cp-98	1.55	0.70	0.19	N-26° - E	長方形	耕作坑

第6表 道遺構計測一覧表

区	番号	グリッド	長さ(m)	幅(m)	方位	最大幅(m)	交差	備考
1	1	Ak-14-Aq-13	35.00	1.00	N-68° - W			南に屈曲。6区に延長
	2	Aj-15-Ak-16	10.80	1.00	N-17° - E	2.60		2条1付
3	1	Be-39-Bh-38	14.70	1.00	N-63° - W	3.50		3条1付
6	1	As-11-Bc-10	21.00	1.60	N-74° - W		2号道	1区1号道に延長
	2	Bb-10-Bb-11	6.00	0.80	N-20° - E		1号道	
8	1	Bq-52-Br-57	26.30	0.80	N-10° - E			
9	1	Cc-62-Ce-68	30.00	0.60	N-18° - E	1.50		
11	1	Co-87-Cq-96	42.80	0.80	N-10° - E	1.10	3号道	2号道と併走
	2	Ci-89-Cn-96	37.20	0.80	N-15° - E		3号道	1号道と併走。6号道と重複
	3	Cj-89-Co-87	24.50	0.70	N-67° - W	1.00	1号・2号道	
	4	Ci-84-Cn-83	25.80	0.90	N-80° - W		5号道	
	5	Cg-70-Cj-84	61.20	0.60	N-20° - E	1.00	4号道	7号道に切られる。
	6	Cl-91-Co-96	30.30	0.80	N-36° - E			2号道と併走重複。

7	Ci-74-Cf-79	29.60	0.70	N-26° -W	2.50		2条一對。5号道と重複。
	Ce-75-Ch-74	15.50	0.70	N-75° -W	0.90	5号道	2条一對。
	Cb-70-Cg-69	22.80	0.50	N-18° -W	0.90		
12	1 Cp-98-Da-105	43.50	1.00	N-38° -E			2箇所に分断
	2 Db-114-Dc-118	30.15	0.75	N-12° -E			斜面階で確認

### 第3節 各調査区の遺構検出状況

#### (1) 1区の検出状況

調査区は子持山方面からの傾斜面上にあり、は場整備により東西方向に長い長方形の水田区画に造成されている。水田間の段差は50cm前後を測り、調査区中央部にその切り盛りの段差が残っていた。

調査区南脇には、段丘下の浅田地区に向かう村道7103号があり、工事で歩道橋が設置される予定である。この歩道橋設置箇所も調査対象であることから1区として調査を行った。また反対側の設置箇所は6区として調査を行った。

検出遺構は、8基の耕作坑と3条の道がある。

**耕作坑：**南端で検出した道跡際に平行又は直交する5基と散在する3基を検出した。

**道：**1号道は、調査区南端で東西方向に延び、西端で南に屈曲する。2号道は1号道西端で近接する2条が併走しながら南北方向に延びる。

その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状で斜めに黒色土の入る小ピットを検出した。

#### (2) 2区の検出状況

2区は1区の土置き場として利用していたため、1区の調査終了後に調査を開始した。1区同様は場整備後の水田区画内にあり、中央部に東西方向に延びる造成時の段差が見られた。

検出遺構は、11基の耕作坑のみであった。

**耕作坑：**7号～9号耕作坑と6号・10号耕作坑がそれぞれ直線的に並び平行する。

**道：**耕作坑の間に道の存在が想定される。

その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状の斜めに黒色土の入る小ピットを検出した。

#### (3) 3区の検出状況

3区も1区・2区同様には場整備後の水田区画内にあり、中央部に東西方向に延びる造成時の段差が見られた。

検出遺構は、3条に分かれ路線を横断する1号道とその周辺には耕作坑6基が集中する。

**耕作坑：**1号～4号耕作坑は1号道脇に平行し、直線的に並ぶ。5号耕作坑も道と平行する。6号耕作坑は道を掘り込んでいる。

**道：**1号道は、3条から4条のくすみが集中する。同時存在か時間差があるのか不明である。

その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状で斜めに黒色土の入る小ピットを検出した。

#### (4) 6区の検出状況

6区は、1区と村道103号を挟んだ東側歩道橋設置箇所である。検出遺構は道路のみであった。

**道：**東西方向と中央部でT字状に南方方向に延びる。

#### (5) 4区の検出状況

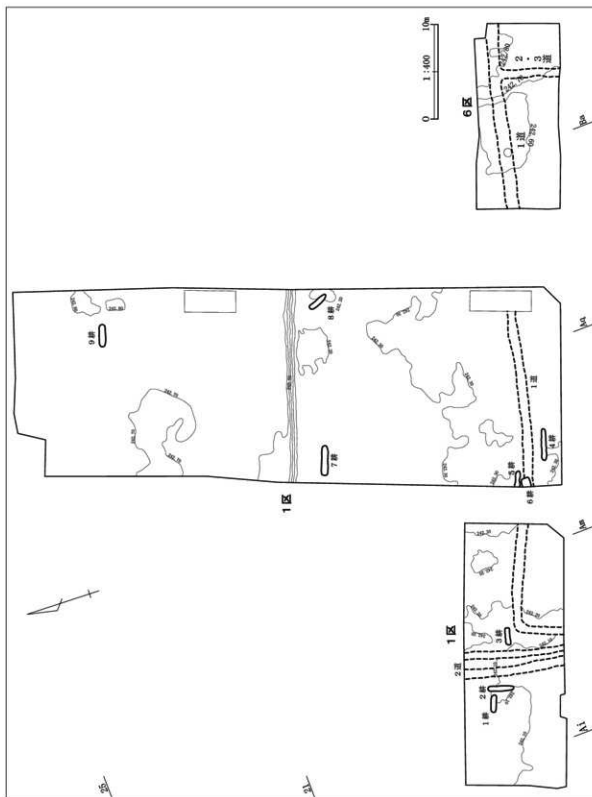
4区は、は場整備後の水田区画の北端に位置し、北側は住宅地となる。

検出遺構は、北端で2基の耕作坑を検出した。

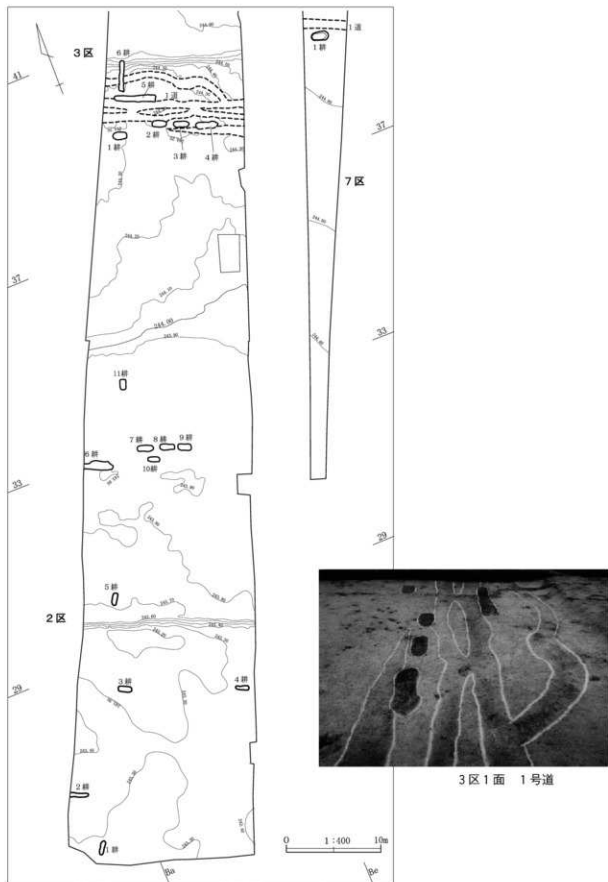
#### (6) 7区の検出状況

7区は、6区と並びで村道103号東側に位置し、北側に広がる細長い三角形の調査区である。

検出遺構は、中央やや南寄りで耕作坑1基と路線横断方向の道跡1条があった。道跡は西側3区方向に延びるが、3区の道とは直線的にはつながらない。



第8図 1区・6区全体図 (S=1/400)



3区1面 1号道

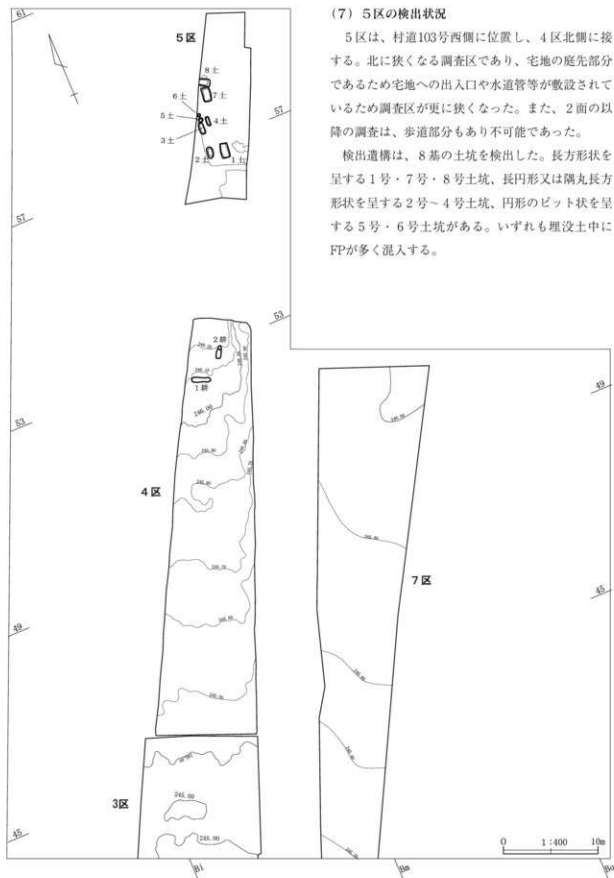
第9図 2区・3区・7区全体図 (S=1/400)



(7) 5区の検出状況

5区は、村道103号西側に位置し、4区北側に接する。北に狭くなる調査区であり、宅地の庭先部分であるため宅地への出入口や水道管等が敷設されているため調査区が更に狭くなった。また、2面の以降の調査は、歩道部分もあり不可能であった。

検出遺構は、8基の土坑を検出した。長方形形状を呈する1号・7号・8号土坑、長円形又は隅丸長方形形状を呈する2号～4号土坑、円形のピット状を呈する5号・6号土坑がある。いずれも埋没土中にFPが多く混入する。



第10図 3区・4区・5区・7区全体図 (S=1/400)

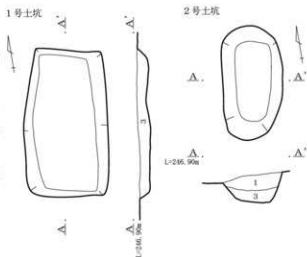
(8) 8区の検出状況

9区と一連の調査区である。

検出遺構は、表土と同質のFP混じりの黒色土がサク内に入る作状遺構と西端に道跡1条があった。

作状遺構は近現代の畑作による作切り跡と考えられる。サクは1m弱の間隔で併走する。確認できたサク切りは24条あり、深浅や途切れるサクがある。

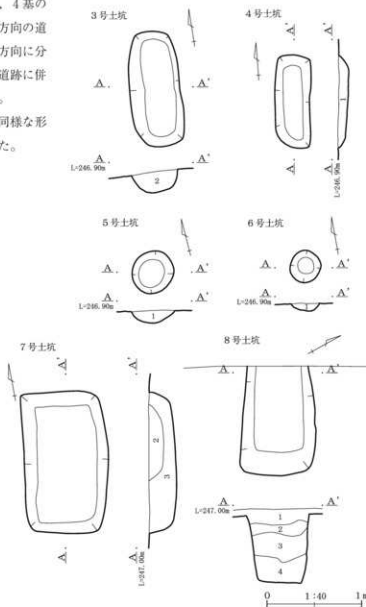
その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状の斜めに黒色土の入る小ピットを検出した。



(9) 9区の検出状況

8区と一連の調査区である。検出遺構は、4基の耕作坑と道跡がある。道跡は北東隅で南北方向の道跡を検出した。この道跡は中央付近で南西方向に分岐するが、先は消失している。耕作坑は、道跡に併走する位置に2基と散在して2基検出した。

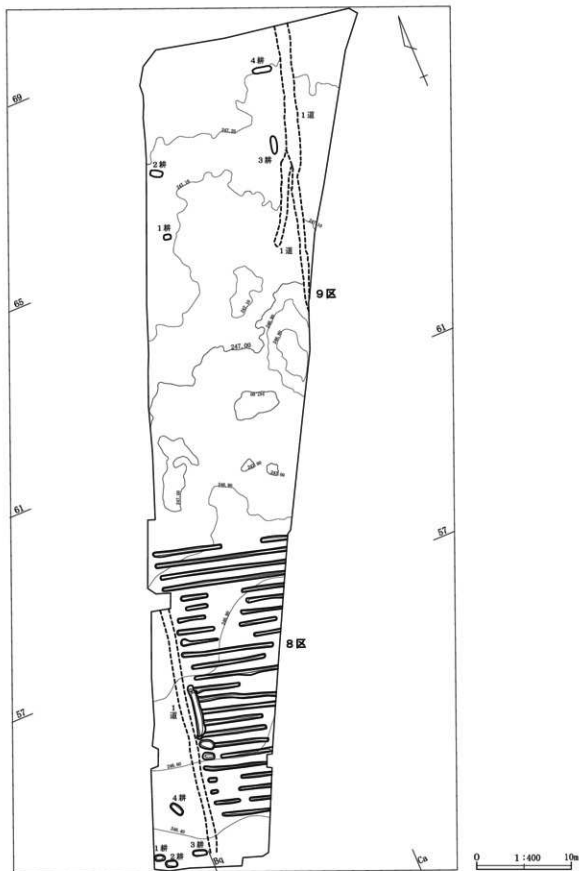
その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状の斜めに黒色土の入る小ピットを検出した。



1号～7号土坑

1. 現耕作土に4.5～10mm程度のFP混入。
2. 黒色土(耕作土)主体。FPを僅かに含む。
3. 比較的大きめ(4～5cm)のFP主体。  
隙間は小粒の軽石が混入。
4. 1層に類似。FPの粒径大。

第11図 5区 土坑

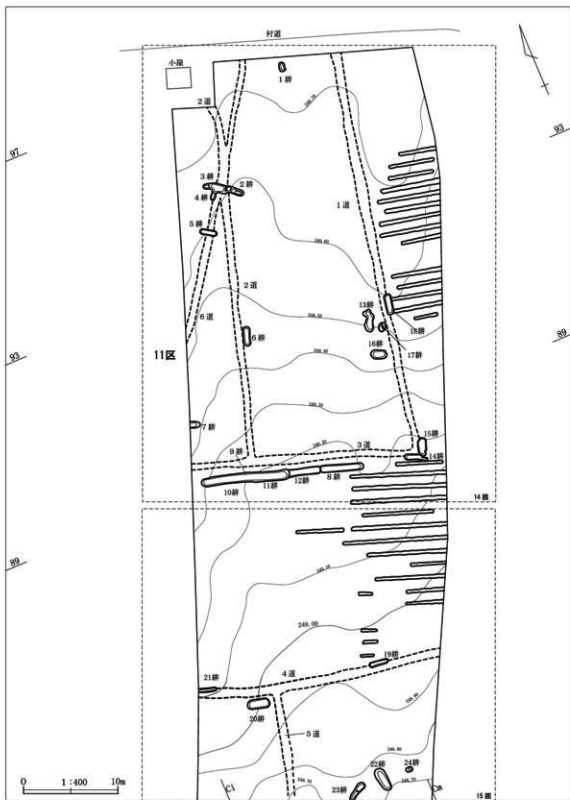


第12図 8区・9区 全体図 (S=1/400)

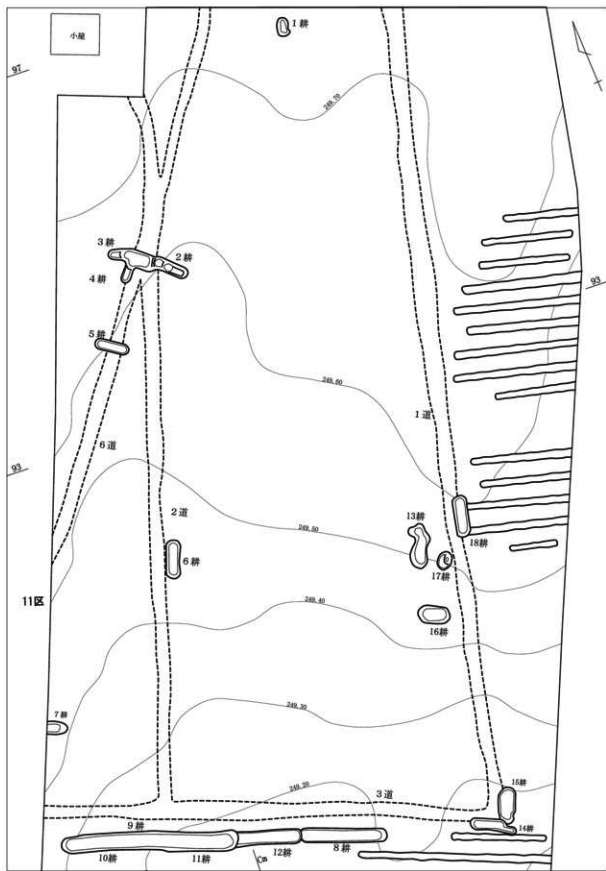
(10) 11区の検出状況

調査区は村道7029号と7031号に挟まれた区画であり、掘削排土置き場の関係から中央で北調査区と南

調査区に2分割し調査を行った。調査地は畑地及び宅地であった。



第13図 11区北半 全体図 (S=1/400)



第14図 11区北半 部分図(1) (S=1/200)

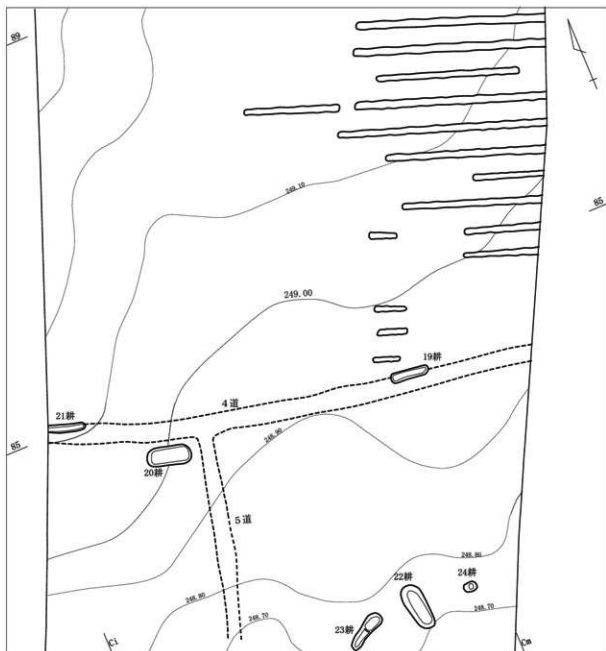
第3章 1面の調査 (Hr-FP層上面)

検出遺構は、耕作坑44基と道の痕跡9条を検出した。また、北側調査区で2箇所の作状の遺構を検出した。

耕作坑は、大半が道跡に接する状況で検出した。

作状遺構は、いずれも道跡に囲まれ、2箇所とも1m弱の間隔で東西方向にサク切りが行われていた。この作状遺構の埋没土も8区同様、表土と同質のFP混じりの黒色土が入り近現代の遺構である。

道跡は、北側調査区では東西方向の道跡に南北方向の道跡がT字状に交わる形で東西南北方向の区画が意識されている。南側調査区では、北側調査区の続きの道跡とそれに直角方向、直交方向に走る道跡を検出した。その中で中央付近に斜めに併走する2条の道跡がある。幅は3m弱であり規模は他に比べ大きい。この道跡は方形区画の道跡と重なる。その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状の斜めに黒色土の入る小ピットを検出した。

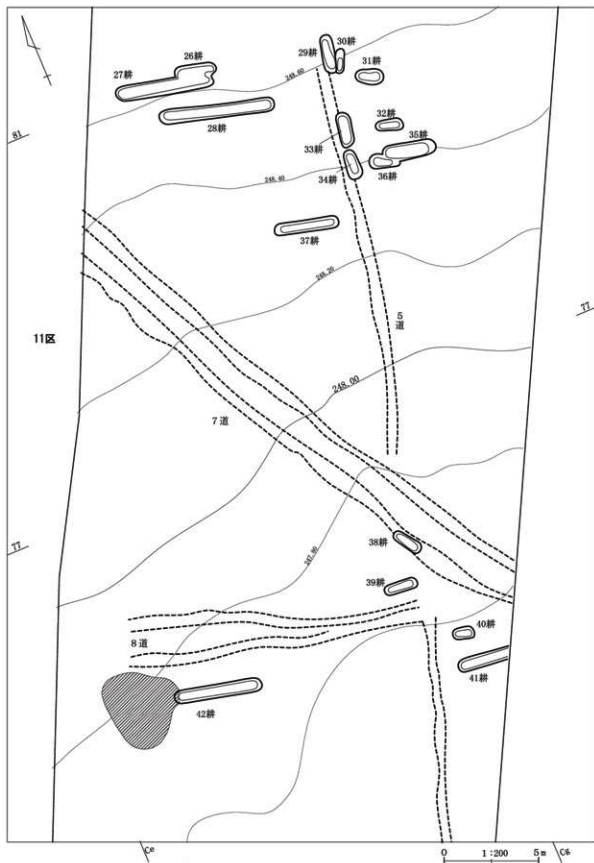


第15図 11区北半 部分図(2) (S=1/200)

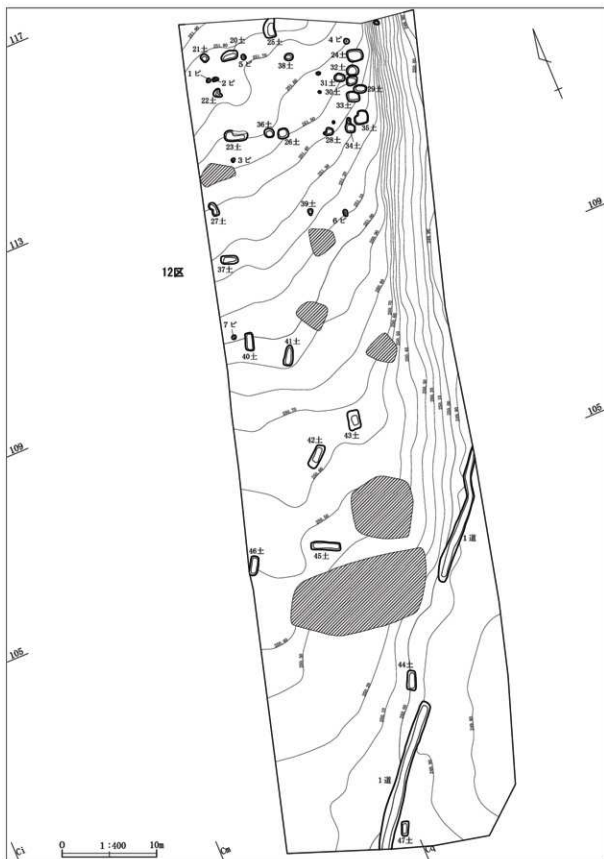




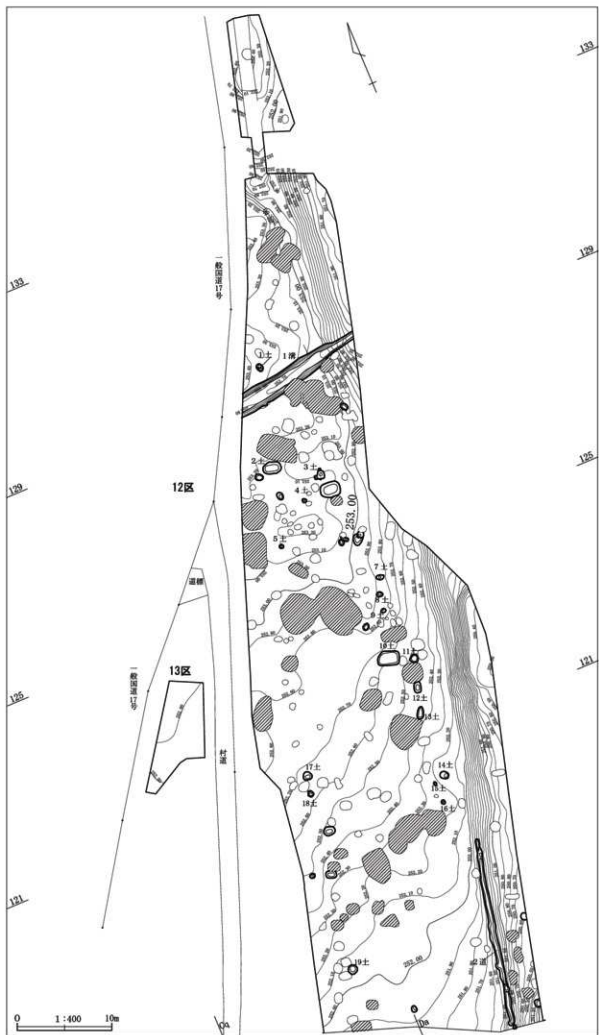




第18図 11区南半 部分図 (S=1/200)



第19図 12区南半 全体図 (S=1/400)



第20图 12区北半・13区 全体图 (S=1/400)



段丘崖際を南北方向に走る。

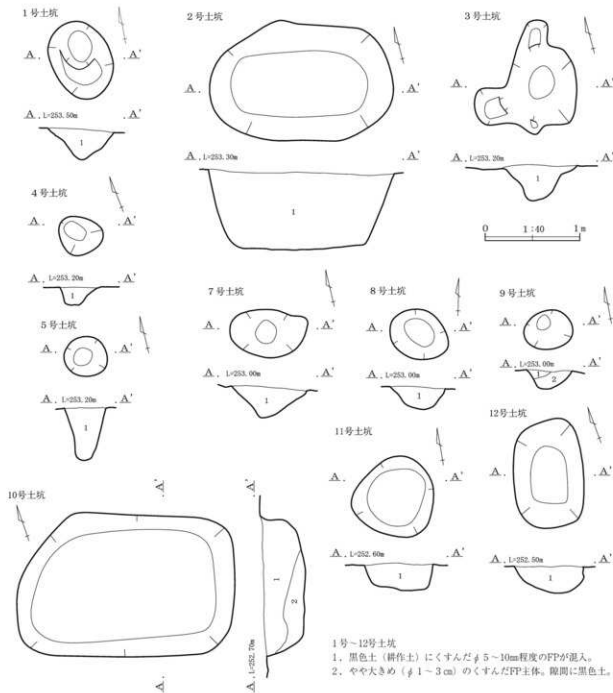
溝は、北側調査区北寄りで検出され、段丘崖に向かって幅が広がる。

その他に腐りかけた桑根が入るピットや同様な形状の斜めに黒色土の入る小ピットが検出した。

(12) 13区の検出状況

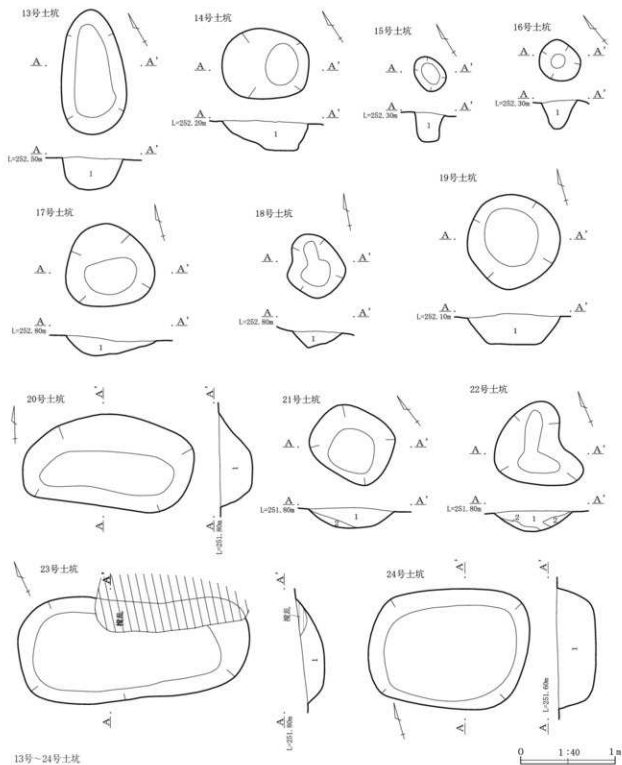
国道17号タッチの隅切りの調査区であり、面積は狭小である。調査区北には村道7026号と国道17号に接続する部分に金井道分岐と印刻された石製の道標が所在した。

検出遺構は攪乱のみであった。



第22図 12区 土坑(1)

第3章 1面の調査 (Hr-FP層上面)



13号～24号土坑

1. 黒色土 (耕作土) にくすんだφ5～10m程度のFPが混入。
2. やや大きめ (φ1～3cm) のくすんだFP主体。隙間に黒色土。

第23図 12区 土坑 (2)

## 第4章

### 2面の調査 (Hr-FP層下面)



調査区近景：12区第2面の遺構検出状況。6世紀中頃の榛名山噴火直前の地表面が現れる。軽石除去直後は立つだけで靴跡が付いてしまい、また風雨に晒しても色調が変わる繊細な土質であった。  
(手前は第4面の調査で検出した縄文時代の敷石住居)。

## 第1節 調査の概要

第2面は、6世紀中頃の榛名山の噴火時に降りそそいだFPにより埋没した面である。旧子持村内でのFPの堆積は2m近くに達し、当時の地表を保存することとなった。そのため黒井峯遺跡をはじめとして国道353号線バイパスや村内の発掘調査で検出された集落では他地域で検出できない堅穴住居の周堤帯や平地式建物、芝垣、道、畠等が確認でき、また浅田や有瀬地区の古墳では埴輪が樹立状態で検出できるなど貴重な資料が得られている。

今回の豊沢バイパス建設関連の発掘調査は、利根川右岸部の白井及び長坂両面の段丘面を南北に貫く路線の調査であった。黒井峯遺跡のような集落は検出されなかったが、FA降下からFP降下までの短期間で形成されたと考えられる畦状遺構や馬の足跡や畠、道跡等の遺構を検出した。これらの遺構は放牧地関連の遺構と考えられ、黒井峯遺跡等で検出された集落と同じ時間にそこに存在し、集落の周辺に広がる畠や放牧地を含め、地域、集団を理解する上で貴重な資料が得られたと考えられる。

## 第2節 検出された遺構

### (1) 放牧地

かつて同事業で発掘調査を行った白井遺跡群では、FPを取り除いた古墳時代の地表面が無数の馬の足跡を検出した。足跡に規則性がないこと、古墳時代に野生の馬はいなかったこと等からこの地域が馬の放牧地であったと判断した。

中郷遺跡でも全域に馬の足跡が検出され、白井遺跡群と同様にFP降灰直前に馬の放牧地が広がっていたと考えた。中郷遺跡では馬の足跡計測は行わなかったが、概ね白井遺跡群と同様の大きさである。

放牧地の調査では以下のような項目の調査を行った。各項目の定義や詳細については、『白井遺跡群—古墳時代編—』（群馬県埋蔵文化財調査事業団1997）を参照されたい。

### 畦状遺構

畦状遺構は、FP直下面で検出でき幅1.5～2m前後、高さ10cm前後の緩やかな山形の高まりである。断面観察では、下層のFAが動き込まれ土壌化した層が主体であり、表層にシルト質の薄い黒褐色土が被覆し、その下は淡い褐色土となりその土中にFA小ブロックが混入する。部分的に最下層にFAの薄い純層が見られる。内部には焼土や炭化物のブロックが鳥状に分布する場合がある。この焼土は、焼かれた後に時間差を置かず土を盛り上げられ残ったと考えられる。

畦の構築には脇を削り込み盛られたと考え、下層に薄く堆積するFA面に溝状の掘り込みがあるのではないかと面調査を行った。しかし、溝状の掘り込みの痕跡は確認できず、掘って盛るといふより土をかき寄せた可能性が大きかった。

畦状遺構には規則性は見られないが、交差やクラックしたり、場所によっては、畦状遺構を境に両側で地表面に差が認められ明らかに区画意識しられた人工物である。

吹屋伊勢森遺跡のⅢ区では畠の下に焼土ブロックの筋が確認でき、畠以前に畦状遺構が作られていた痕跡を確認している。

### 道

脆弱なFP直下面で周囲より僅かに凹み、底面は平坦で硬化している踏み分け道と呼称した道跡が確認できた。白井遺跡群の報告では「当初は人間の使う踏み分け道と考えたが、ウマの蹄跡が道に残されていること、現生のウマが放牧地内に踏み分け道と同規模の道を作ることから、現段階ではヒトの作った道かウマの作った道かの判断がつかない。」とある。吹屋伊勢森遺跡Ⅲ区の調査で道が畠を潰している状況が確認でき、収穫物の運搬用に使われたのではないかと想像できた。

本遺跡では、道跡底面はフラットであり、道を歩くような明確なウマの足跡は確認していない。また畦状遺構を乗り越えるものや畦状遺構の脇で検出されるものがある。



### 第3節 各調査区の遺構検出状況

中郷遺跡では白井地区や吹屋地区に比べFP層は若干薄くなったが、それでも1mを超えるFP層の堆積があり、除去に大型掘削機械を用い5～10cm程度まで取り除いた。その後ジョレンを用いて荒く軽石を取り除き、最後に2～3cm残った軽石を移植ごてや刷毛を用いて地表面を検出した。

子持山山麓に近づき集落を期待したが、集落は検出されなかった。主な検出遺構は、畦状遺構・道跡・立木痕などの放牧地と関連する遺構であった。

各区とも調査面である旧地表面は、FA層が土壌化した土質であり、指で押すと凹むほど柔らかく、軽石がめり込んでいた。

#### (1) 1区の検出状況

1区は中郷遺跡の南端部に位置し、東西道路の村道7103号により吹屋遺跡と画される。調査区は本線部分と歩道橋設置部分の2箇所に分かれる。3条の畦状遺構と多数の馬蹄痕を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構：**調査区南端部で東西方向に直線的に延びる。部分的に高まりが見られるが、全体に平坦で風化した状況が窺われる。

**2号畦状遺構：**1号畦状遺構北側で弧状に延びる。畦状の明瞭な高まりはほとんど見られず、全体に平坦で風化した状況が窺われた。

**3号畦状遺構：**歩道橋設置部分の調査区西端で南北方向に検出した。

畦状遺構の内部には焼土や炭化物の小ブロックが見られた。

**旧地表面：**調査区内北側が高く、高低差は80cmを測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (2) 2区の検出状況

1区と3区に挟まれ、調査掘土の置き場の関係で分割した調査区である。3条の畦状遺構と多数の馬蹄痕を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構：**調査区南端から南北方向に延び2号畦状遺構と直交し連結する。

**2号畦状遺構：**調査区中央南寄りでも東西方向に延び、西寄りで1号畦状遺構と直交する。連結部は幅広い。

**3号畦状遺構：**2区北端の3区との境で路線を東西に横断する。

2号畦状遺構と3号畦状遺構の畦間は約25mを測る。また、3号畦状遺構と3区の1号畦状遺構とはハの字状に並び、畦間は10mを測る。

畦状遺構の内部には焼土や炭化物の小ブロックが見られた。

**旧地表面：**北東方向からの傾斜があり1mの高低差を測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (3) 3区の検出状況

調査区は北からの緩やかな傾斜が見られ、現道拡幅的な路線形であるため北側に向かって調査区が狭くなる。2条の畦状遺構を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構：**調査区南端にあり、東西方向に走る。

**2号畦状遺構：**調査区北側で東西方向に走る。幅は3.5mを測り、2山に分かれる大畦である。中央部の凹み部分はやや締まる。また、村道を挟み東側の調査区である7区で検出された3号畦状遺構と図上復元できる。

1号畦状遺構と2号畦状遺構の畦間は34mを測る。

畦状遺構の内部には焼土や炭化物の小ブロックが見られた。また、下端から外側にトレンチを入れ、畦状遺構の土盛り時の掘削痕を検出しようとしたが不明瞭であった。

**旧地表面：**調査区内北側が高く、高低差は1.2mを測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (4) 4区の検出状況

調査区は狭く、北へ緩やかな傾斜が見られ、1条の畦状遺構を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構**：調査区北端で東西方向に路線を横断する。幅は3.5mを測り、2山に分かれる大畦である。中央部の凹み部分はやや締まる。また、村道を挟み東側の調査区である7区で検出された1号畦状遺構と形状が類似し、接続するまたは屈曲すると考えられる。畦状遺構の内部には焼土や炭化物の小ブロックが見られた。

**旧地表面**：調査区内北側が高く、高低差は60cmを測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (5) 6区の検出状況

歩道橋設置部分の調査区である。2条の畦状遺構を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構**：緩やかな弧状を呈し、中央が水口状に途切れる。北側に2号畦状遺構が併走する。

**2号畦状遺構**：1号畦状遺構が水口状に途切れる北側で検出した。東側末端はドーナツ状の高まりとなる。

畦状遺構の内部には焼土や炭化物の小ブロックが見られた。

**旧地表面**：調査区内北側が高く、高低差は80cmを測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (6) 7区の検出状況

村道東側の拡幅部分で細長い三角形の調査区であり、人家への出入り口を確保するため調査区を二分し調査を行った。2条の畦状遺構を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構**：調査区中央から北側にかけて、調査区一杯の幅で南北方向に縦断する。幅は3.5mを測り、高さも20cmと大畦と考えられる。南端は屈曲し3号畦状遺構となる。

**2号畦状遺構**：1号畦状遺構から東に延びる。

本区の畦状遺構と村道を挟み対峙する3区・4区から延びる畦状遺構は一連である。1号畦状遺構に4区1号畦状遺構が連結し、3号畦状遺構は3区2号畦状遺構の延長である。

畦状遺構の内部には焼土や炭化物の小ブロックが見られた。また、下端から外側にトレンチを入れ、畦状遺構の土盛り時の掘削痕を検出しようとしたが不明瞭であった。

1号畦状遺構の中央付近で大礫が頭を出し、下層に集石遺構の存在を予想した。

**旧地表面**：調査区内北側が高く、高低差は1mを測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (7) 8区の検出状況

9区と接する調査区である。畦状遺構は無い。

**旧地表面**：調査区内北側が高く、高低差は80cmを測る。凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (8) 9区の検出状況

村道拡幅の終わる北端部の調査区である。5条の畦状遺構を検出した。

##### 畦状遺構

調査区中央から北側にかけて、東西南北方向に区画を意識した配置が見られる。

**1号畦状遺構**：調査区中央で東西方向に延びる。幅は3.5mを測り大畦と考えられる。

**2号・4号・5号畦状遺構**：調査区北で検出した。東西方向に走る3号畦状遺構を軸に各畦状遺構はクランク状または直交方向に接続する。

**3号畦状遺構**：5号畦状遺構との連結部で水口状に途切れる。また、4号畦状遺構も切れ目がある。

1号畦状遺構と3号畦状遺構との畦間は約15mを測り、4号畦状遺構と5号畦状遺構との畦間は約13mを測る。

**旧地表面**：調査区内北側が高く、高低差は30cmを測り、ほぼ調査区内は平坦である。面も凹凸は少なく、馬蹄痕は不規則に散在する。

#### (9) 11区の検出状況

中郷遺跡の調査区としては広く、調査は掘削土置き場の関係から南北に二分し、北側より調査を行った。10条の畦状遺構と2条の道を検出した。

## 畦状遺構

**1号畦状遺構**：調査区北寄りの東壁で確認し、南西方向に延び、2号・3号畦状遺構と交わり東に大きく湾曲し、再び東壁内へ入る。北寄りの畦状遺構は、幅が狭いが高まりを持ち、所々山形の頂部には凸凹が見られ、埋没直前に盛り上げられたような状況と考えられる。重複は、2号道に踏み越えられ潰れている箇所が2箇所あり、また大きく湾曲する頂部で西壁から東に併走する2号・3号畦状遺構と接する。

**2号畦状遺構と3号畦状遺構**：同一畦状遺構で2条に分かれた大畦と考えられる。両畦の幅は4.5mを測り、高まりも明瞭であったが、1号畦状遺構を跨ぎ東側は高まりは不明瞭であった。2号畦状遺構と3号畦状遺構の間は3面調査段階でFAの残りが良く、FA面は踏み締まっていたことから畦間は道として機能していた時期もあったと考えられる。

**4号畦状遺構**：調査区北側の南寄り、調査区全体の中央で検出した。やや斜行し、高まりは潰れたような状態で不明瞭であった。

**5号畦状遺構**：4号畦状遺構の西寄りのクランク部分から分岐するが、南調査区では無くなってしまふ。

**6号畦状遺構**：調査区南寄りで検出し、1号畦状遺構と反対に西方向に開きながら湾曲する。所々楕円形の凹みで畦が潰れている。また、北西から南東方向に掘り込みの薄い道が踏み越えて行っている。

**7号畦状遺構**：南調査区中央に位置し、北東方向から南西方向に斜行する8号畦状遺構に西側で連結する。

**9号畦状遺構**：西側壁面際で検出した。北側西端で東西方向に走る10号畦状遺構と連結する。

各畦状遺構の下端から外側にトレンチを入れ、畦状遺構の構築の際に盛り土の掘削痕として残るであろう溝状の掘り込みを検出しようとしたが不明瞭であった。

**道**：調査区北で2条の道を検出した。また、調査では道として認定していないが、調査区南西寄りの6号畦状遺構を跨いで浅く蛇行する硬化面を確認した。

**1号道**：N-82°-Eの傾きで路線内を直線的に斜行する。1号道の範囲は2.2mの幅の中で北・中・南と

3条が重複する格好で階段状に凹み、最も深く直線的な中央の路面が最終面である。道の南側は若干高まりが確認できる。各路面の規模は、北側路面は上幅約1m、路面幅0.8m、深さ3cmを測る。路面の硬度は山中式土壌硬度計を用いた計測を行った結果、周辺部は $3.0\text{kg}\cdot\text{cm}^2/16\text{mm}$ を測り、路面では $7.0\text{kg}\cdot\text{cm}^2/21\text{mm}$ を測る。南側路面はテラス状となり路面幅は0.3m前後を測る。硬度は、周辺部で $5.0\text{kg}\cdot\text{cm}^2/19\text{mm}$ を測り、路面では $6.0\text{kg}\cdot\text{cm}^2/20\text{mm}$ を測る。中央路面の凹みは11cm前後と深く、路面幅は30cm前後を測る。路面硬度は $30.0\text{kg}\cdot\text{cm}^2/29\text{mm}$ を測る。路面は凹凸も少なく一応に平坦であり、僅かに馬の足跡らしき凹凸が路面脇の立ち上がり部分で確認できた。断面は下層のFA層の残りは良好であり、FAまで硬化している。

**2号道**：北側調査区中央付近を南東方向から北西方向の1号道に向かう。幅は0.56m、深さ4cmを測る。路面の硬度は $10.0\text{kg}\cdot\text{cm}^2/23.5\text{mm}$ を測り、1号道よりは踏み締められていなかった。重複は、1号畦状遺構の2箇所が踏み越えていた。断面は下層のFA層の残りは良好であり、FAまで硬化している。

その他に6号畦状遺構の上を蛇行しながら踏み越えている硬化面を確認した。

**旧地表面**：1号道北側では硬化した面が広がり、南側でも硬化面の広がり確認できた。2号道の路面硬度を計測する際に、周辺部の硬度を計測したところ南側で $1.5\text{kg}\cdot\text{cm}^2/11\text{mm}$ を測り、北側で $5.5\text{kg}\cdot\text{cm}^2/20\text{mm}$ となった。この結果は、北側旧地表面での馬の足跡の少なさと踏んだ感触の違いも感じ、耕起がされていない状況が伺えた。また、4号畦状遺構の周辺部にも硬化面の広がりを確認した。これらの硬化面を調査時には踏み跡と呼称し、馬が屯していた場所と考えた。

南側調査区でも硬化面が散在する状況が確認でき、部分的に畦状遺構を踏み越えている痕跡が確認できた。また、踏み跡以外の部分は小さな凹凸と所々土塊が見られ、鋤き起こされたような状況が確認できた。その他に6号畦状遺構周辺部には楕円形を呈する落

ち込みが無数空いていた。立木根の痕跡と考えた。

#### (10) 12区の検出状況

段丘座に接した調査区であり、中郷遺跡の調査区としては最も広い。調査は掘削土置き場の関係から南北に二分し、北側より調査を行った。7条の畦状遺構と5条の道跡を検出した。

##### 畦状遺構

**1号畦状遺構**：調査区北の崖線際で検出し、等高線に沿って南北方向に走る。1号畦状遺構の西側の傾斜は緩く、東側は傾斜がきつくなる。1号畦状遺構と2号畦状遺構は逆Lの字状に直角に曲がる。1号畦状遺構西側脇に2号道が走る。確認全長は77mと最長であり、途中分岐・合流は確認できなかった。幅は2号道を含め3mと広く、高さも28cmを測る。断面は緩やかなまばこ状を呈する。断面観察及び面的な調査においてFA層のブロックや焼土の帯状の堆積、部分的な炭化物集中を確認した。

**2号畦状遺構**：1号畦状遺構から西に直角に曲がり、2号道も北脇を併走する。中央部で3号畦状遺構が南に直交しながら延びる。3号畦状遺構連結部から東側1号畦状遺構の間は3箇所水口状の切れ目を確認した。

**3号畦状遺構**：2号畦状遺構との間に水口状の切れ目を有し南に延び、工程上分割した調査区境で5号畦状遺構と4号畦状遺構とに分岐する。3号畦状遺構の走行の延長に5号畦状遺構があり一連と言える。3号畦状遺構は末端で4号道に切られる。幅は2.2mと1号畦状遺構に次いで広く、高さも12cmを測る。

**4号畦状遺構**：水口状の切れ目を有しながら3号畦状遺構から5号畦状遺構と共に「リ」の字状に分岐する。確認全長は9.5mと短く、形状も乱れており風化した状況が見られる。

**5号畦状遺構**：水口状の切れ目を有しながら3号畦状遺構から4号畦状遺構と共に「リ」の字状に分岐する。傾斜方向に延び末端は細く4号道に切れられ消失してしまう。形状は4号畦状遺構同様乱れており風化した状況が見られる。

**6号畦状遺構**：南側調査区中央を東西方向に路線を

横断する。東寄りて南に延びる7号畦状遺構と連結すると思われるが、この部分に擾乱が入り不明瞭であった。また、4号道、5号道に踏み越えられている。7号畦状遺構連結部分より東側は幅広くなっている。高さは2cmと低い。

**7号畦状遺構**：南側調査区中央を東西方向に路線を横断する6号畦状遺構の東寄りから南に延びる。6号畦状遺構と連結すると思われるが、この部分に擾乱が入り不明瞭であった。高さは2cmと低い。

**道**：5条の道跡を検出した。

**1号道**：調査区北の1号畦状遺構東側斜面部で等高線に沿うように筋状に延びる硬化面を確認した。確認全長は14m、路面幅は0.7m、深さ2cmを測る。

**2号道**：南北方向に走る1号畦状遺構の西側を併走し、1号畦状遺構から2号畦状遺構に屈曲する部分も同様に屈曲する。確認全長は72.4m、幅1.5mを測り、路面幅は0.6mを測る。

**3号道**：調査区最北端の1号畦状遺構の東側斜面部で検出した。確認全長3.5mを測り、等高線に沿うように走る。

**4号道**：調査区南寄りの5号道から分岐し、蛇行しながら5号畦状遺構と6号畦状遺構を踏み越えて走る。確認全長47mを測り、幅0.7m、深さ8cmを測る。

**5号道**：南東から北西にやや蛇行する。途中4号道が分岐し、北端では6号道を踏み越えている。確認全長60mを測り、幅0.4m、深さ4cmを測る。

**旧地表面**：調査区北側の1号畦状遺構及び2号畦状遺構に囲まれた部分は傾斜は緩やかであり、部分的に硬化した面が見られる。また、3号畦状遺構西側部分も傾斜は緩く、傾斜変換部に畦状遺構を配置したと考えられる。また、2号畦状遺構と3号畦状遺構の連結部の切れ目から硬化面が西に延び、通路的な様子が伺える。その先には東西方向に小段差がある。

#### (11) 13区の検出状況

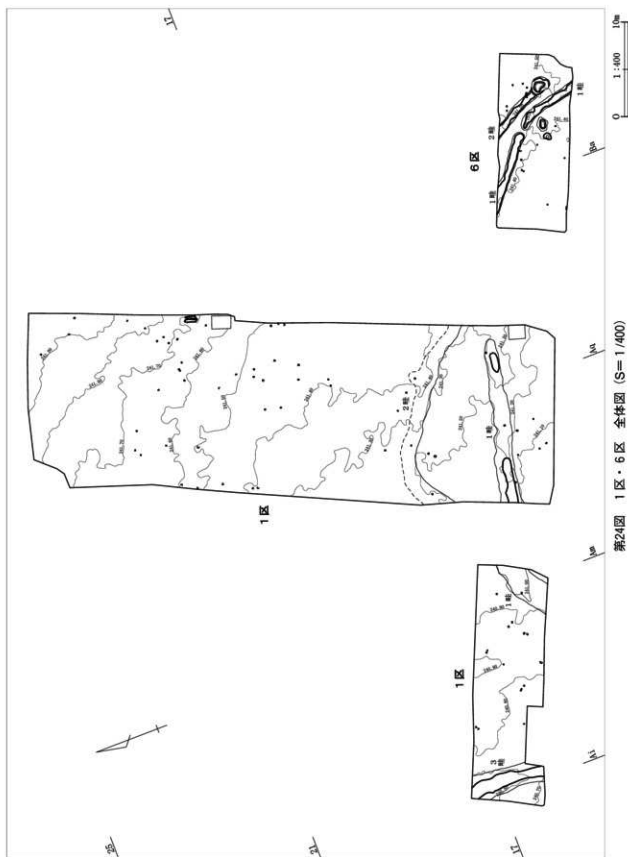
国道17号クツナの隅切り部分に当たる調査区であり、狭小な調査区である。馬蹄痕が確認できたのみであった。

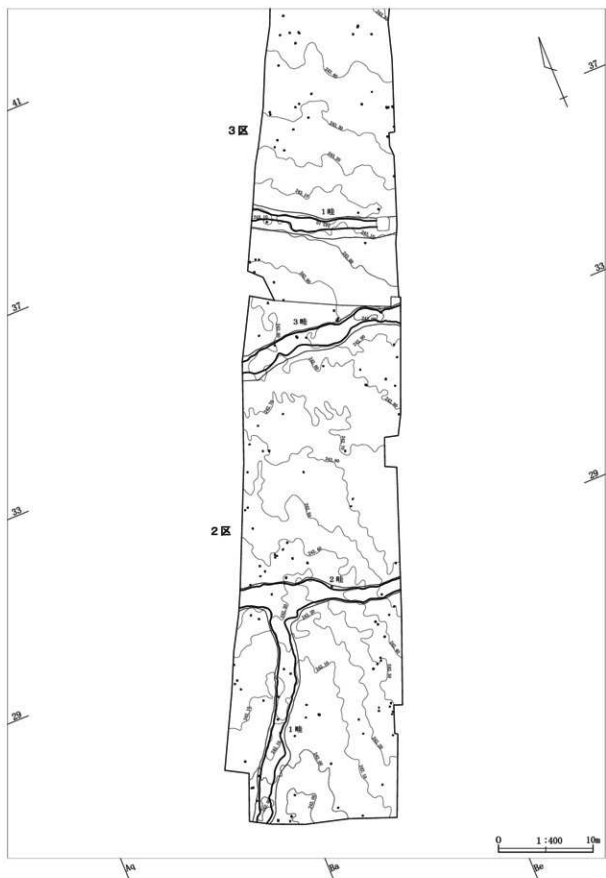
第8表 畦状構計測一覧表

区	番号	グリッド	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	方位	最大幅(m)	接続畦	備考
1	1	Al-14~Ar-13	22.50	1.92	10	N-78°-W			残存状況悪い
	2	An-14~Ar-14	21.00	1.54	30	N-49°-W	2.58		6区1号畦へ延びる
	3	Ah-15~Ai-17	8.20	2.62	13	N-10°-E			
2	1	At-24~Bb-29	23.50	2.20	5	N-30°-E	2.70	2号	連結部幅広
	2	Ba-29~Bd-28	17.20	1.60	7	N-74°-W	2.70	1号	
	3	Bc-33~Bf-34	18.00	2.60	11	N-90°-E			3区1号畦近接
3	1	Bd-36~Bg-35	16.00	2.40	20	N-67°-W	7.30		2区3号畦近接
	2	Bg-43~Bj-42	11.80	3.20	21	N-77°-W			7区3号畦へ延びる
4	1	Bl-52~Bm-52	6.00	3.70	8	N-72°-W			2集11号の大畦
	2	At-12~Bb-10	16.00	1.10	7	N-40°-W			水口状の開口部有り
6	1	Bb-10~Bb-12	7.50	1.00	2	N-30°-W			端部高まりあり
	2	Bo-51~Bb-42	39.00	2.96	7	N-24°-E	2.80	2号・3号	幅広の大畦
7	1	Bo-49~Bp-49	4.10	2.90	9	N-74°-W		1号	連結部踏み潰される
	2	Bj-42	2.50	3.04	13	N-77°-W		1号	3区2号畦へ延びる
	3	Bt-62~Cc-62	13.80	2.80	5	N-78°-W	3.60		幅広の大畦
9	1	Ca-65~Ce-66	19.70	1.40	9	N-15°-E	1.70	3号	4号畦とクランク
	2	Cb-68~Cc-66	11.70	1.20	7	N-80°-W	1.40	2号・4号・5号	水口状の開口部有り
	3	Cd-64~Ce-66	6.50	1.20	9	N-20°-E		3号	水口状の開口部有り
	4	Ce-66~Cf-67	9.20	1.20	8	N-20°-E		3号	
	5	Ci-86~Cq-92	54.00	0.73	6	N-50°-E	1.86	2号・3号	2号道が横断
11	1	Ck-89~Cn-87	20.00	1.28	3	N-65°-W	1.95	1号	3号畦と併走、2号道が横断
	2	Ck-88~Co-86	18.50	1.70	12	N-60°-W	2.20	1号	2号畦と併走、2号道が横断
	3	Ci-84~Cl-82	20.60	1.60	1	N-90°-W	1.95	5号	屈曲部と水口状の開口部有り
	4	Ci-82~Cj-83	4.75	1.10	3	N-35°-E		4号	
	5	Cd-70~Ce-75	31.70	1.24	11	N-27°-E	2.00		小円形の凹み多数
	6	Cf-77~Cl-75	19.60	1.26	11	N-66°-W	1.52	8号	8号畦と接続分岐
	7	Cf-77~Ck-77	23.50	1.30	4	N-82°-E	2.26	7号	7号畦と接続分岐
	8	Cg-78~Ch-81	12.00	1.50	9	N-7°-E	2.10	10号	端部屈曲
	9	Ch-81~Cl-79	20.10	1.48	6	N-59°-W	2.22	9号	
	10	Dd-119~De-135	77.00	3.00	28	N-5°-E		2号	2号道併走
12	1	Ct-119~Dd-119	19.70	1.40	7	N-80°-W		1号・3号	2号道併走、水口状の開口部有り
	2	Dd-119~Db-114	26.00	2.20	12	N-7°-E		2号	連結部部分的に踏み潰される
	3	Db-113~Db-115	9.50	1.50	8	N-90°-W			3号畦から分岐
	4	Dd-111~Db-114	14.50	1.50	3	N-3°-W			3号畦から分岐
	5	Cq-109~Da-107	19.80	1.60	2	N-68°-W	2.70		4号・5号道横断
	6	Ct-107~Cr-102	27.00	2.00	2	N-9°-E		6号	一部4号道併走
	7								

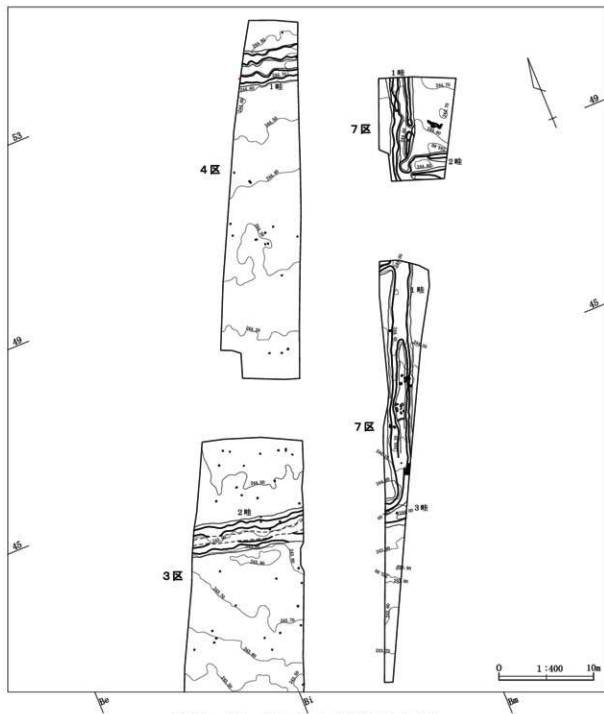
第9表 道道構計測一覧表

区	番号	グリッド	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方位	最大幅(m)	接続畦	備考
11	1	Cm-93~Cr-93	26.20	1.10	11	N-82°-E	2.18		複数回の踏み変え
	2	Ci-90~Co-86	29.00	0.56	4	N-45°-W		1号・2号畦	畦横断
12	1	De-120~De-123	14.00	0.70	2	N-7°-E			
	2	Dc-119~Dd-133	72.40	1.50	9	N-5°-E			1号・2号畦に併走
	3	De-135~De-136	3.50	0.30	3	N-22°-W			
	4	Db-111~Cr-103	47.00	0.70	8	N-25°-E		6号・7号畦	畦横断
	5	Cs-98~Cr-110	60.00	0.40	4	N-5°-W		6号畦	畦横断





第25図 2区・3区 全体図 (S=1/400)



第26図 3区・4区・7区 全体図 (S=1/400)

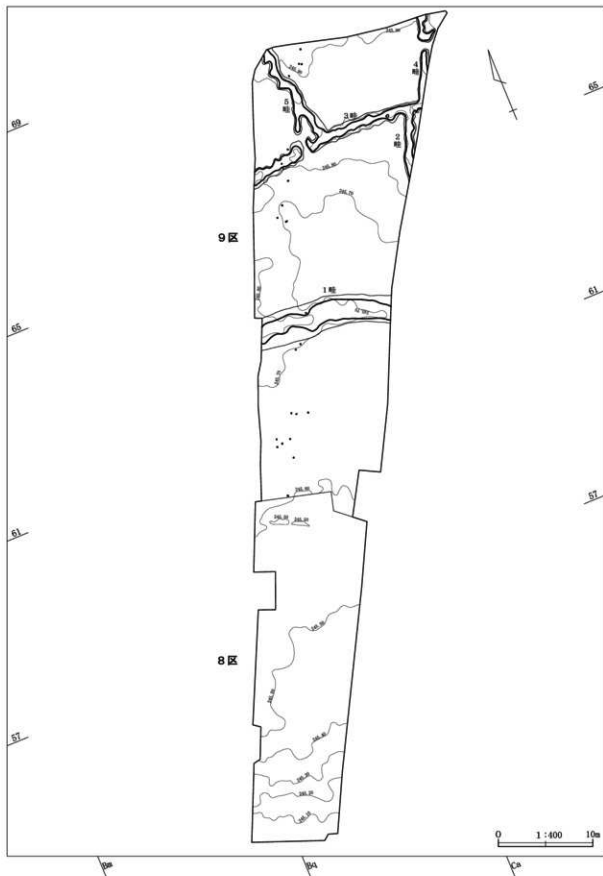


52 3区 2号畦状遺構 (北より)



49 4区 1号畦状遺構 (北より)





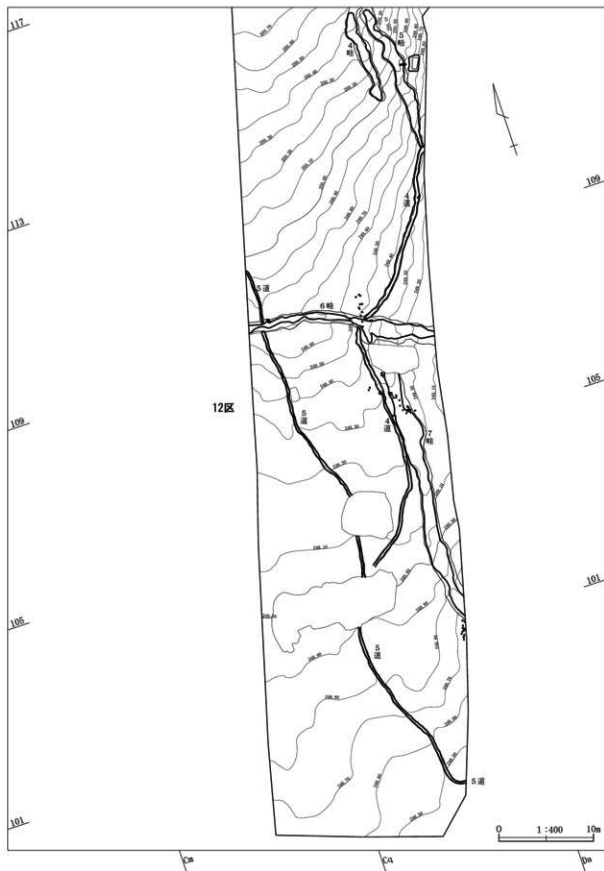
第27図 8区・9区 全体図 (S=1/400)



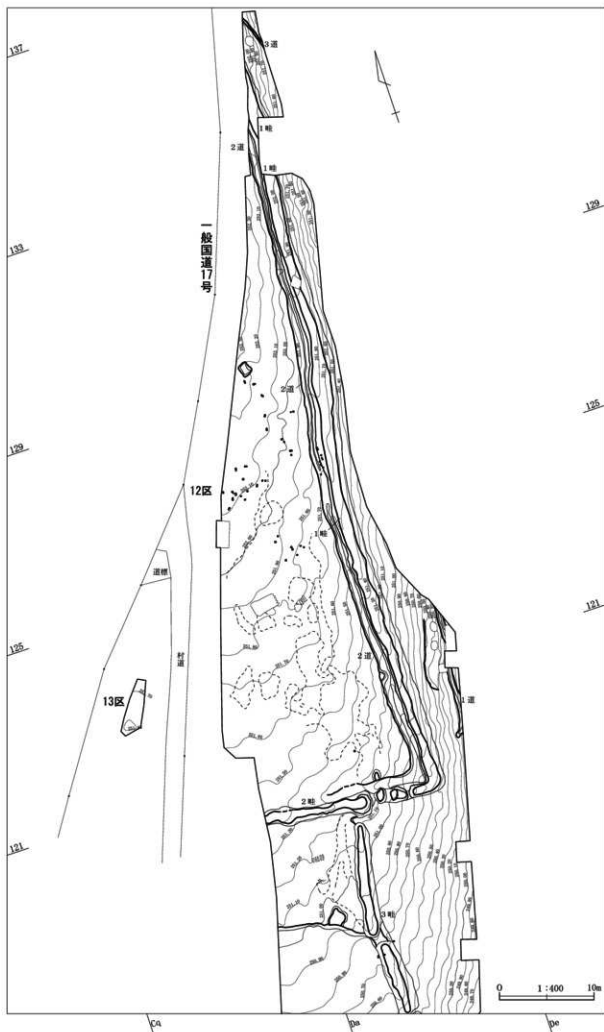
第28図 11区南半 全体図 (S=1/400)



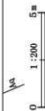
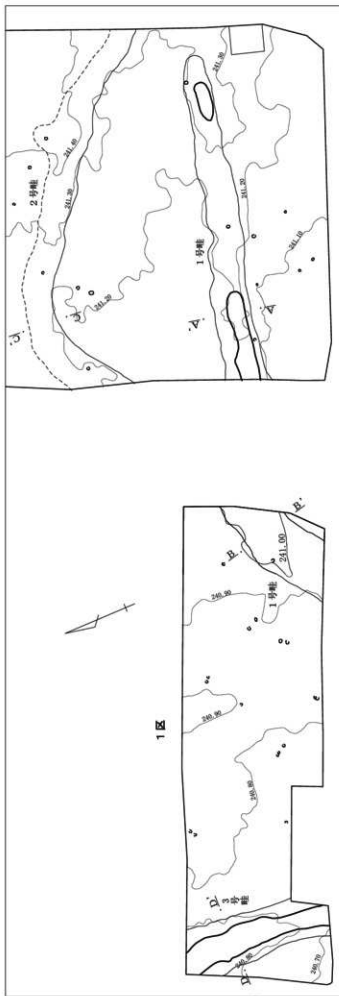
第29図 11区北半 全体図 (S=1/400)



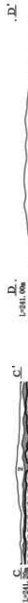
第30図 12区南半 全体図 (S=1/400)



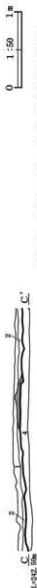
第31図 12区北半・13区 全体図 (S=1/400)



1区1号~3号坑

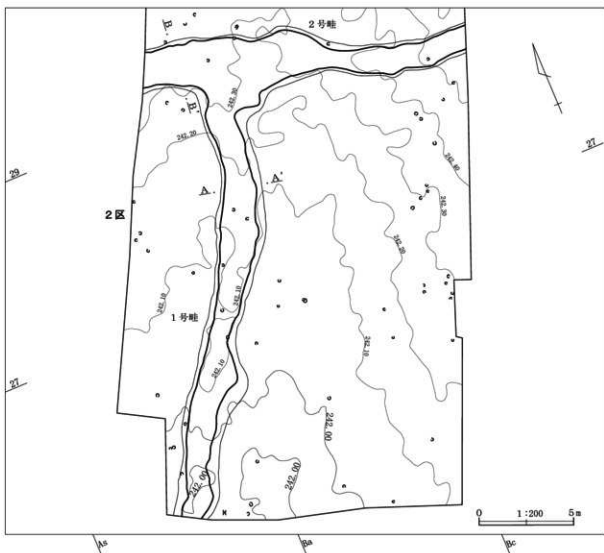
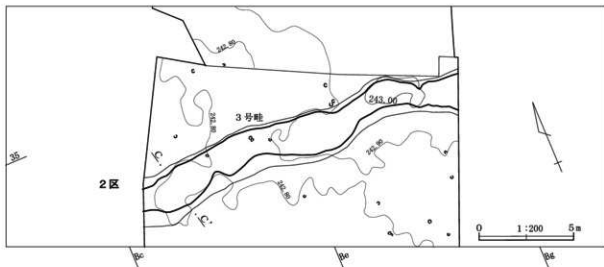


2区1号~3号坑

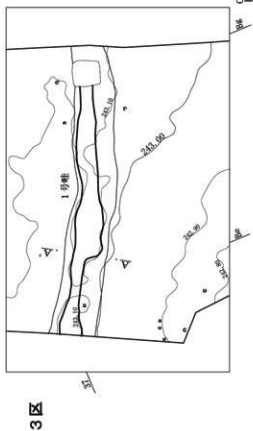
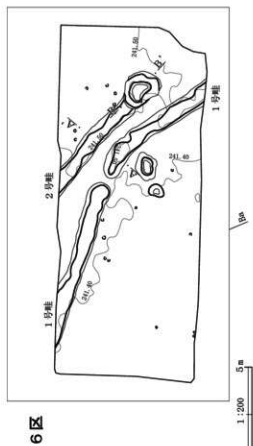


- 相状遺構土層
1. 暗褐色土 シルト質で土質細密。僅かに炭粒含む。
  2. 暗褐色土 やや灰色。FAが土層化。
  3. 淡褐色土 FAの小フロック含む。
  4. 黒色土 約1m前後のバミス (As-C?) 含む。黒ボク土 (基本土層IV層)
- 観測トーンはFA層。

第32図 1区 1号~3号坑状遺構及び土層



第33図 2区 1号~3号畦状遺構



3区1号畦  
A  
1:241.0m



3区2号畦  
A  
1:241.0m



B

B'

4区1号畦  
A  
1:241.0m



6区1号・2号畦  
A  
1:241.0m



B

B'

7区1号畦  
A  
1:241.0m



D

D'

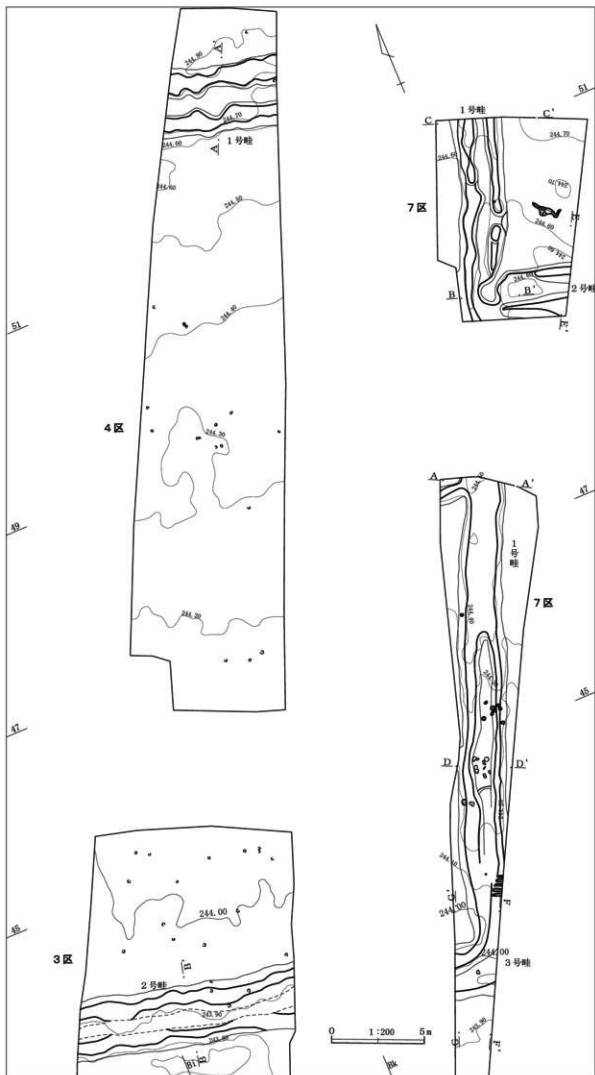


畦状遺構土層

1. 暗褐色土 シルト質で土質緻密。僅かに炭粒含む。
  2. 暗褐色土 やや灰色。FAが土層化。
  - 2a. 暗褐色土 2aよりややFAを多く含む。
  - 3a. 灰褐色土 FAの小ブロック含む。
  4. 灰色土 厚1mmのパリス (Ag-C?)を含む。
  - 黒クサ土 (基本土層IV層)
  5. 暗褐色土 土質均質。厚1mmの褐色パリス含む。
- 観点トーンはFA層。

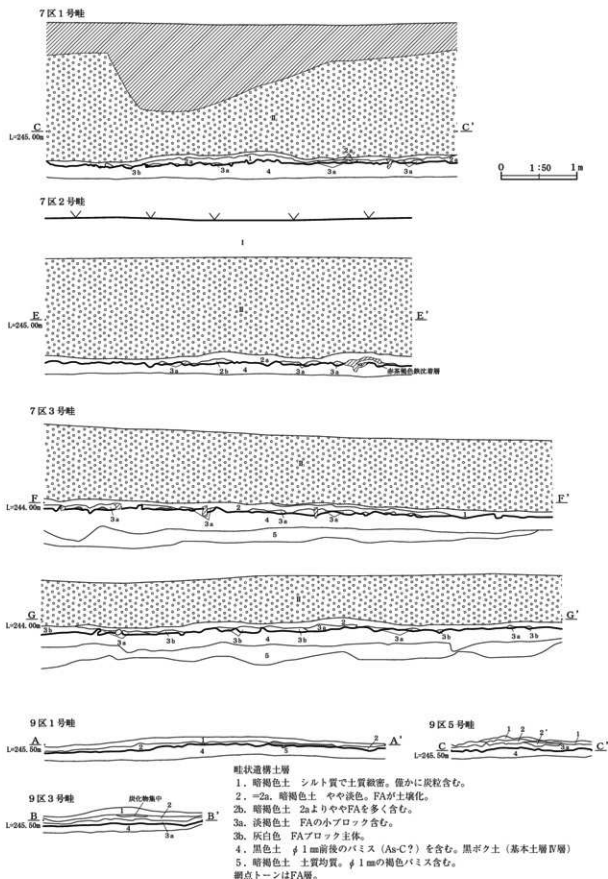
第34図 3区・6区 畦状遺構及び土層



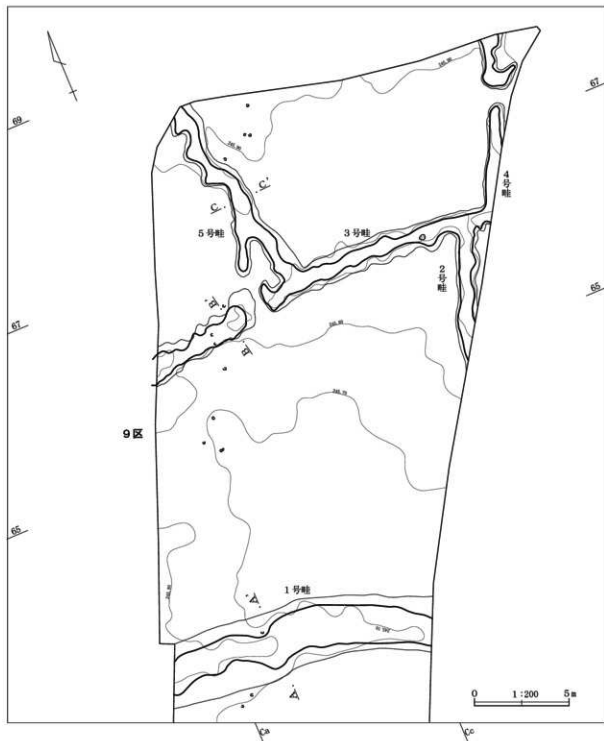


第35图 3区·4区·7区 畦状遺構

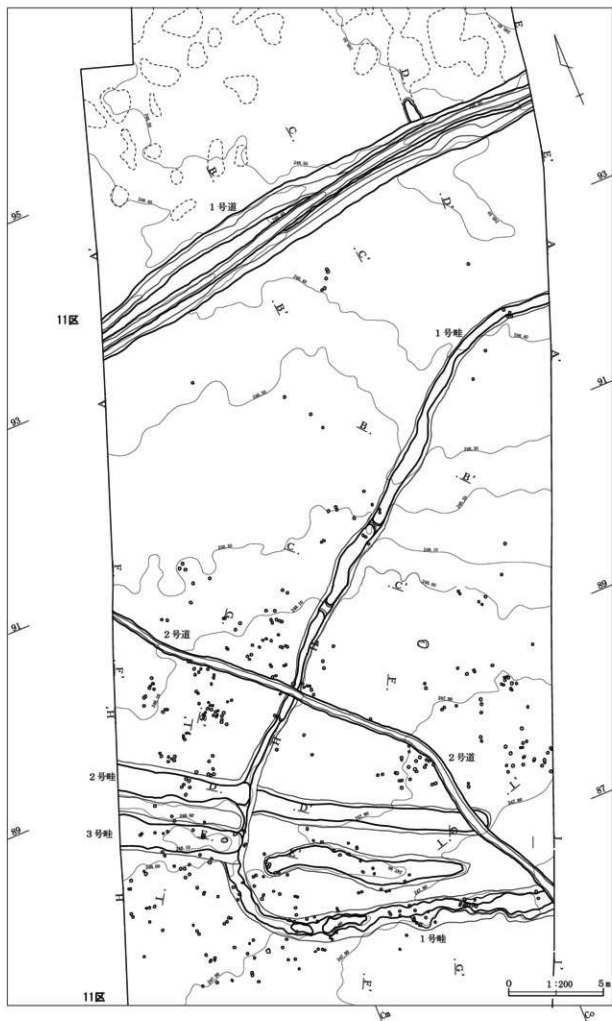
第4章 2面の調査 (Hr-FP層下面)



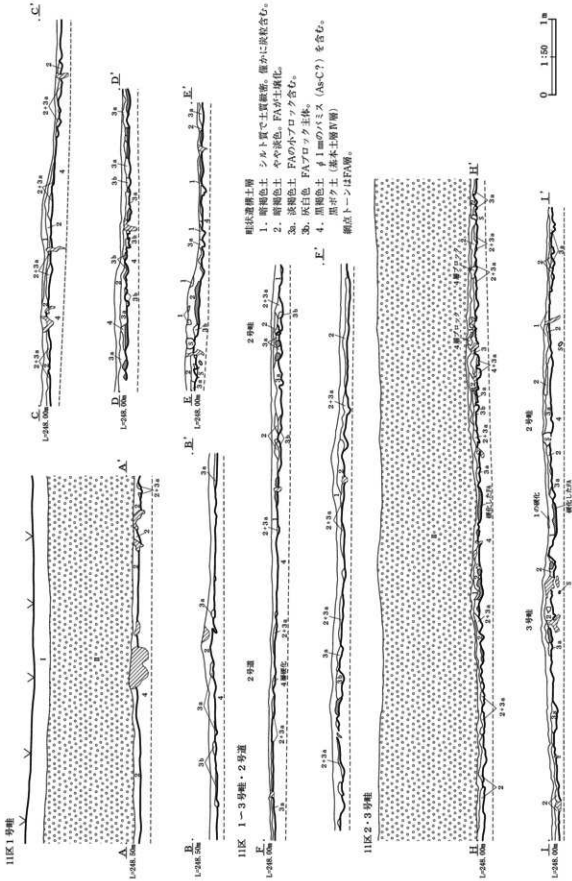
第36図 7区・9区 畦状遺構土層



第37図 9区 1号～5号畦状遺構



第38图 11区 1号~3号畦状遺構、1号・2号道



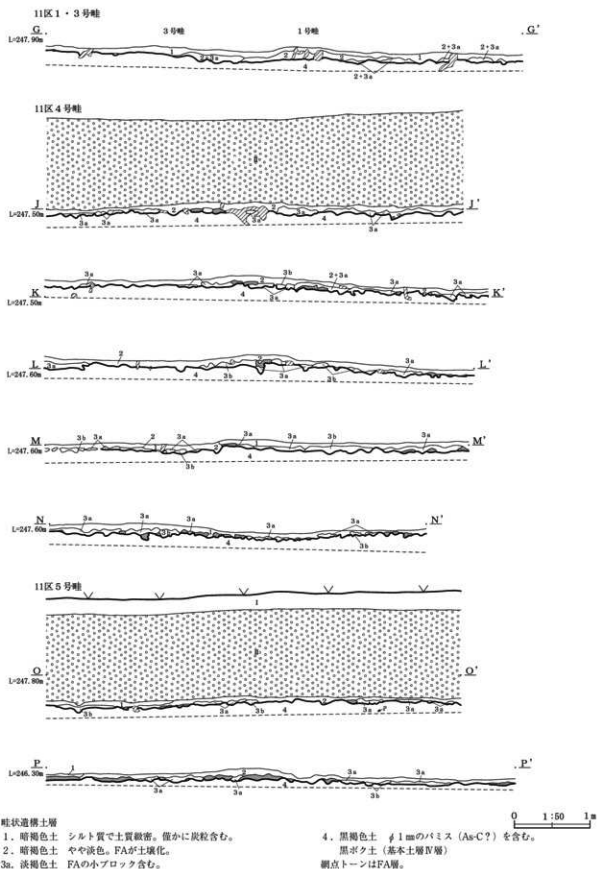
第39図 11区 畦状遺構土層(1)

畦状遺構土層  
 1. 暗褐色土 シルト質で土質細密。僅かに炭粒含む。  
 2. 暗褐色土 やや灰色。FAが土層化。  
 3a. 灰褐色土 FAの小フロック含む。  
 3b. 灰白色 FAフロック主体。  
 4. 黒褐色土 4.1mmのパミス (As-C?)を含む。  
 黒ボク土 (底本土層質層)  
 傾斜トーンはFA質。

11区 1-3号畦・2号溝

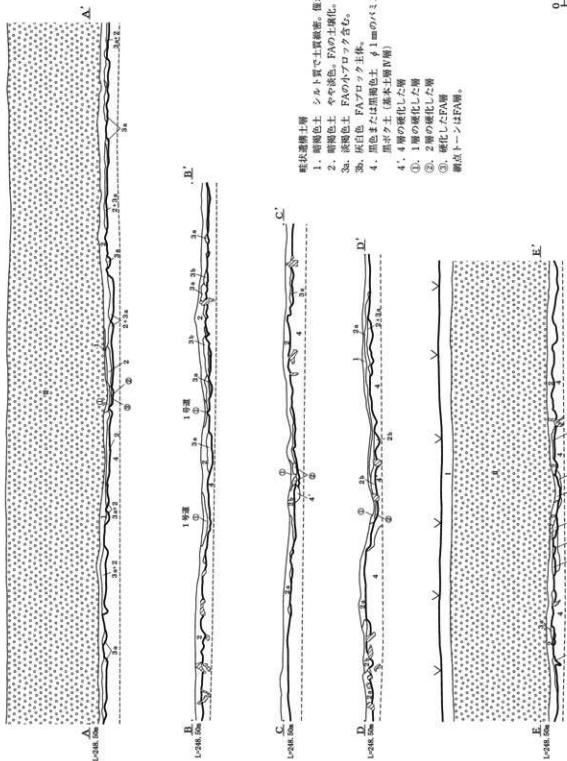
11区 2・3号畦

第4章 2面の調査 (Hr-FP層下面)

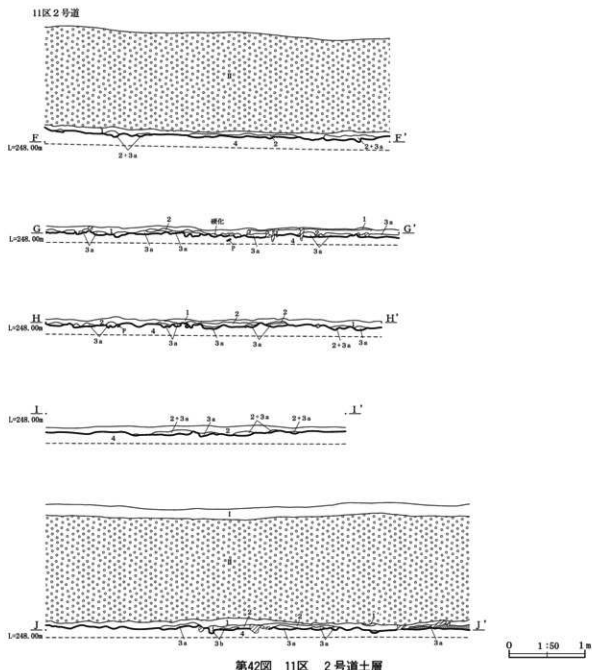


第40図 11区 畦状遺構土層 (2)

11区1号道



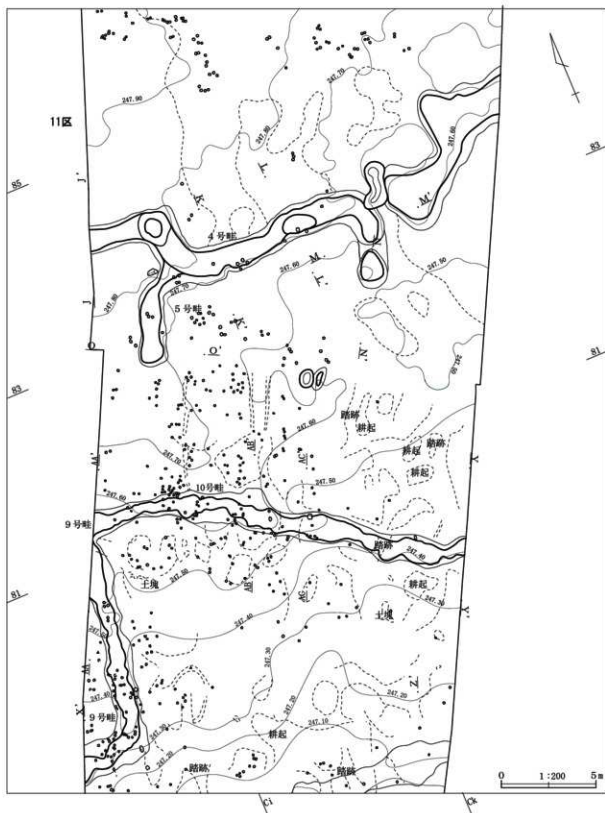
第4章 2面の調査 (Hr-FP層下面)



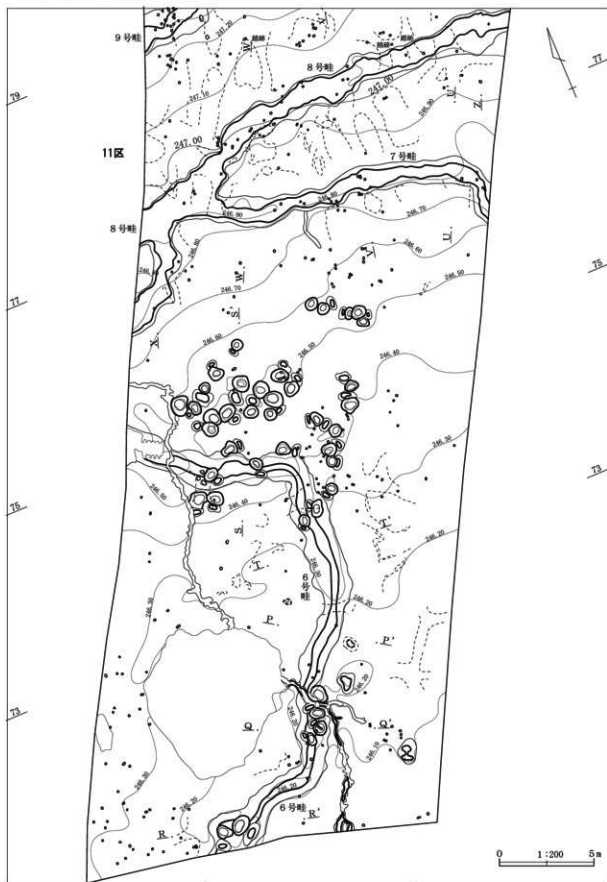
11区1号道土層 (E-E')

- 2号道土層
1. 暗褐色土 シルト質で土質緻密。僅かに炭粒含む。
  2. 暗褐色土 やや淡色。FAが土壌化。
  - 3a. 淡褐色土 FAの小ブロック含む。
  - 3b. 灰白色 FAブロック主体。
  4. 黒褐色土  $\phi$  1mmのバミス (As-C?) を含む。  
黒ボク土 (基本土層IV層)
- 網点トーンはFA層。



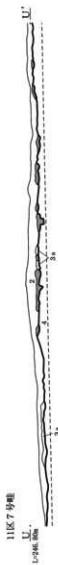


第43図 11区 4号・5号・9号・10号畦状遺構



第44図 11区 6号・7号・8号畦状遺構

11区6号堆



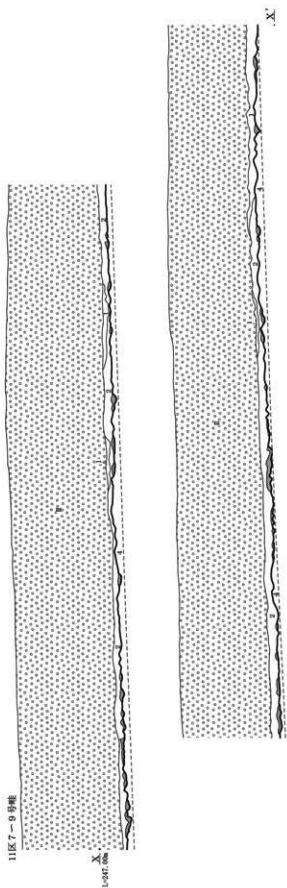
11区7・8号堆



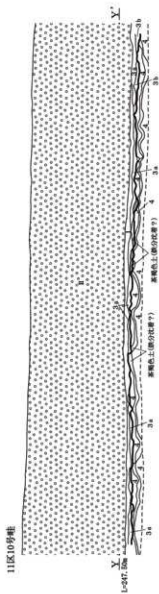
- 畦状遺構土層
1. 暗褐色土 シルト質で土質緻密。僅かに炭粒含む。
  2. 暗褐色土 やや灰色。FAの土層化。
  - 3a. 淡褐色土 FAの小アロック含む。
  - 3b. 灰白色 FAアロック主体。
  4. 黒色土 (1mm前後のバミス (As+C?) を含む。黒ボク土 (基本土層IV層) 土質均質、φ1mmの褐色バミス含む。標点トーンはFA層。
  5. 暗褐色土 土質均質、φ1mmの褐色バミス含む。



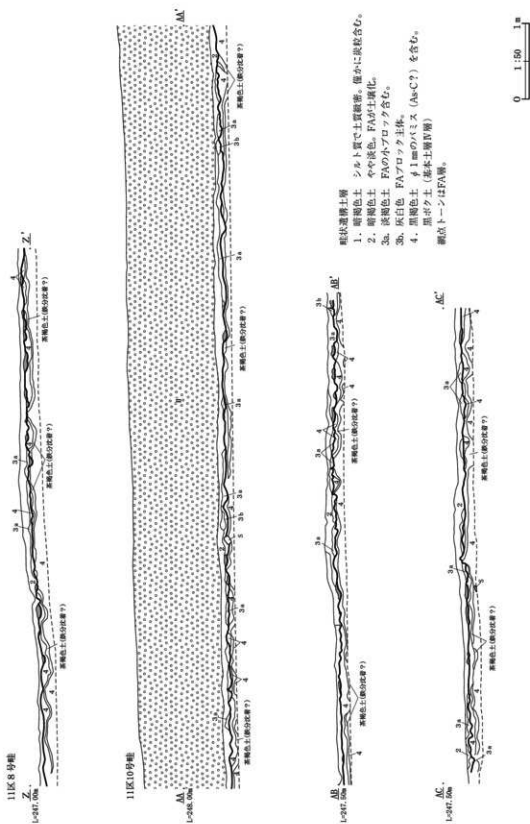
第45図 11区 畦状遺構土層 (3)



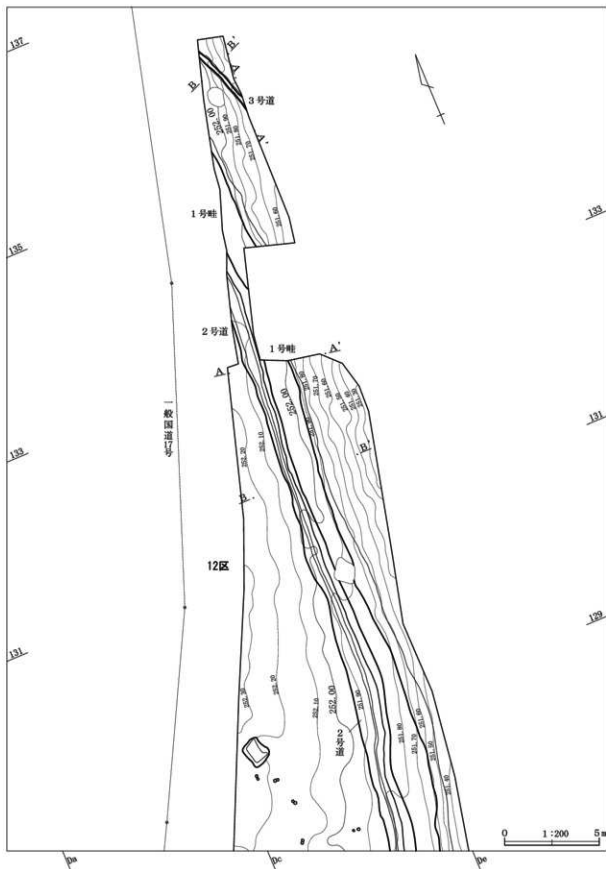
畦状遺構土層  
 シルト質で土質緻密。僅かに炭粒含む。  
 1. 暗褐色土 やや淡色。FAが土壌化。  
 2. 暗褐色土 FAの小ブロック含む。  
 3a. 淡褐色土 FAの小ブロック含む。  
 3b. 灰白色 FAブロック主体。  
 4. 暗褐色土  $\beta$  1mmのバリス (AsC?) を含む。  
 黒空土 (並木土層古層)  
 網点トーンはFA層。



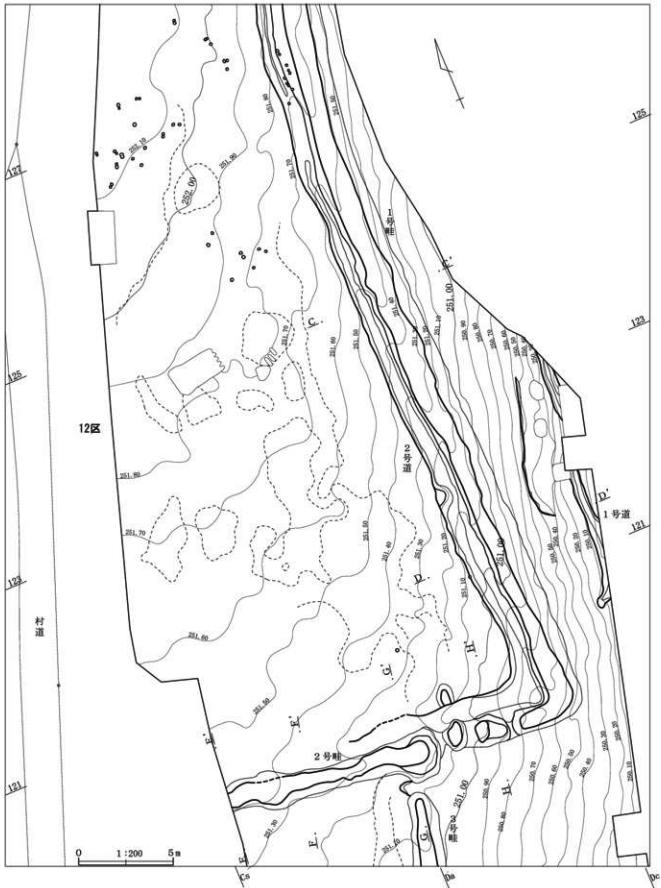
第46図 11区 畦状遺構土層 (4)



第47図 11区 畦状遺構土層 (5)

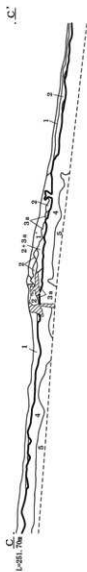


第48図 12区 1号畦状遺構、2号・3号道

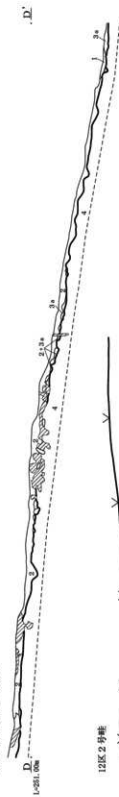


第49図 12区 1号～3号畦状遺構、1号・2号道

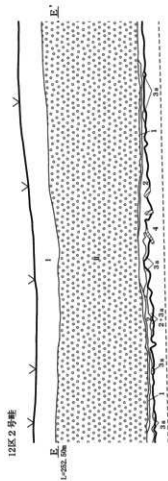
12区1号線、2号道



12区1号線、1・2号道



12区2号線



12区2・3号線

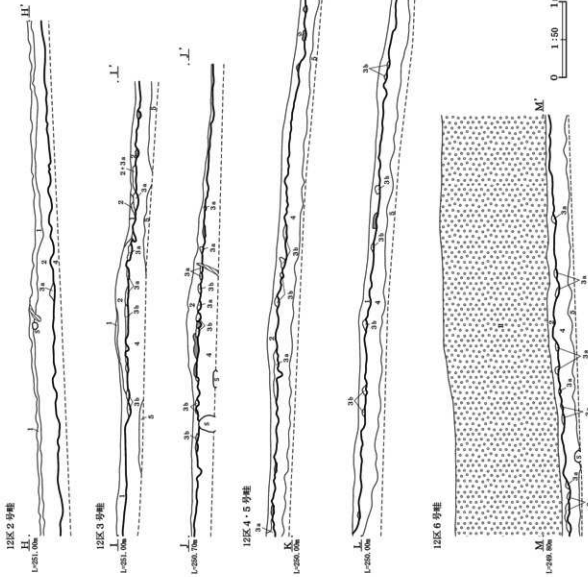


駐伏遺構土層

- 1. 暗褐色土 シルト質で土質緩密。僅かに炭粒含む。
  - 1. 暗褐色土 1層より焼土・炭粒含む。
  - 2. 暗褐色土 やや灰色。FAの土壌化。焼土・炭粒含む。
  - 3a. 灰褐色土 FAの小アロック含む。
  - 3b. 灰白色 FAアロック主体。
  - 4. 黒色土 41mm前後のバミス (Aa-C7) を含む。
  - 5. 暗褐色土 (基本土層IV層) 41mmの褐色バミスを含む。
- 網点トーンはFA層。



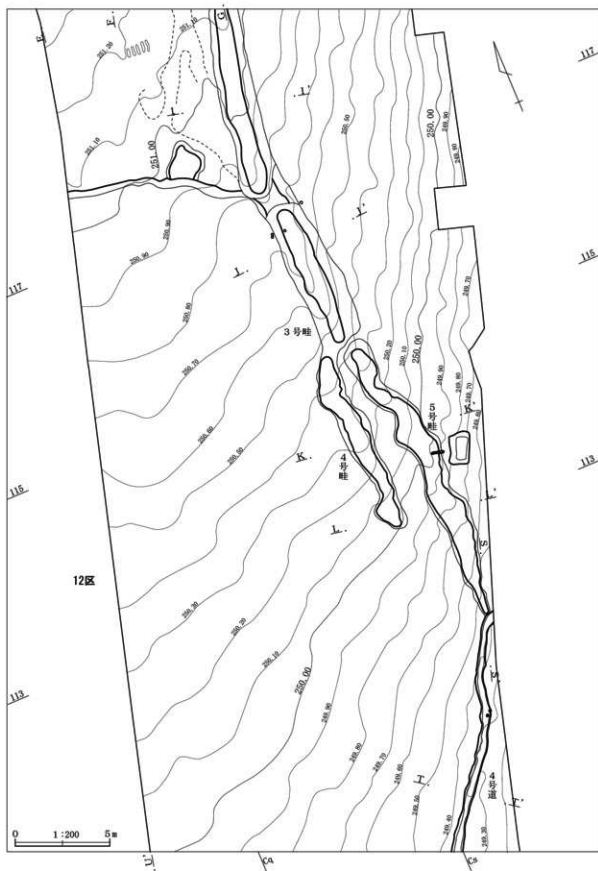




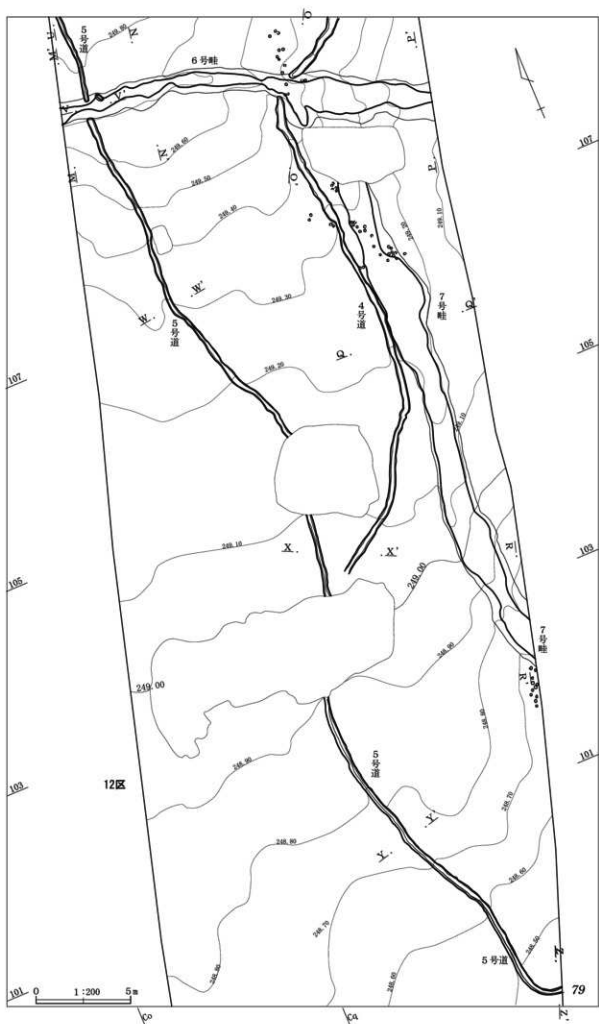
畦状遺構土層

1. 暗褐色土 シルト質で土質緻密。僅かに炭粒含む。
2. 暗褐色土 やや灰色。FAの土壌化。
- 3a. 淡褐色土 FAの小アロック含む。
- 3b. 灰白色 FAアロック上体。
4. 黒色土 φ1mm前後のバミス (As-C7) を含む。
5. 暗褐色土 土質均質。φ1mmの褐色バミスを含む。細点トーンはFA層。

第51図 12区 畦状遺構土層 (2)



第52図 12区 3号～5号畦状遺構、4号道



第53图 12区 6号·7号畦状灌渠、4号·5号道



## 第5章

### 3面の調査 (Hr-FA層下面)



調査風景：12区第3面の調査。榛名山の6世紀初頭の噴火により降り積もった火山灰の状況確認とその下層の遺構調査を行った。(第2面1号畦状遺構下部に残る焼土・炭化物集積部分の精査。)

## 第1節 調査の概要

経路バイパス関連の発掘調査では、6世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火火山灰 (Hr-FA；以下FA) の上下面の調査を行ってきた。白井地区の発掘調査ではFA層の堆積が厚く、FA上面と下面を分けて調査が行われ、それぞれの面に残る馬の足跡や耕作の痕跡等を確認した。しかし、白井地区から1km近く離れた中郷遺跡では、火砕流や降灰の影響は少なかったようでFA層の堆積は薄い。そのためか、次の6世紀中頃の榛名山二ツ岳噴火までの間に攪拌を受けFA層の残りは僅かとなったようである。そのためFA上下面に分け面調査を行うことはできず、FA層の堆積状況を確認しながら第3面として遺構・遺物の確認を行った。

調査方法としては、最初に畦状遺構や道遺構の断面観察用にトレンチを入れ、FAや下層の土層の堆積状況を観察し、さらにトレンチ内での遺構・遺物の有無を確認することから始めた。その中で7区・8区・11区・12区については、畦状遺構や道の構築方法を探るため畦状遺構の面的な掘り下げや両脇2mの範囲で面調査を行い掘削痕等を探した。また、旧地表面の下層については、市松模様グリッドを割り振り、FAの分布や畦状遺構や畚等の痕跡があるかの確認やFA直下のAs-Cと思われる白色軽石混じりの黒色土を掘り込んだ遺構の確認も第3面として調査を行った。

## 第2節 各調査区の検出状況

### (1) 1区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより掘り下げを行った。FAの分布は不明瞭であり、遺構・遺物は検出されなかった。

### (2) 2区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより掘り下げを行った。FAの分布は、畦状

遺構内ではやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。遺構・遺物は検出されなかった。

### (3) 3区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内ではやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。遺構・遺物は検出されなかった。

### (4) 4区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内ではやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。遺構は検出されなかったが、縄文土器片や剥片が出土した。

### (5) 6区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内ではやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。遺構・遺物は検出されなかった。

### (6) 7区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより市松模様グリッド単位で面的に掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内ではやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。

1号畦状遺構の中央部で20~30cm大の自然石が集中して出土した。用途は不明である。FA面上には僅かに焼土・炭化物が検出された。畦状遺構脇のFAの分布は薄いが掘り込まれたような痕跡はなかった。また、縄文土器や剥片が出土した。

### (7) 8区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより市松模様グリッド単位で面的に掘り下

げを行った。旧地表面下のFAの分布は、全体に攪拌された状態であり、斑に散在するのみであった。

#### (8) 9区の検出状況

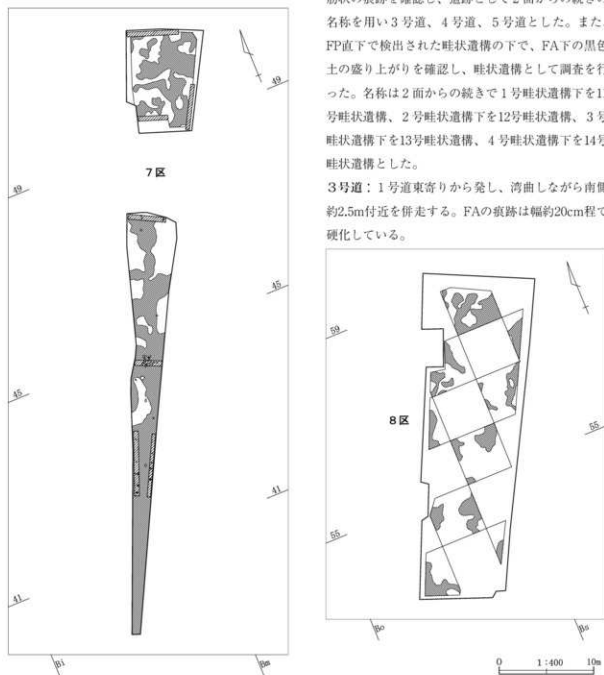
旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内はやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。遺構は検出されなかったが、縄文

土器片や剥片が出土した。

#### (9) 11区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を測り、手掘りにより市松模様グリッド単位で面的に掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内や道跡下にはやや多く見られ、旧地表面下は斑に散在するのみであった。その中で、新たに3条のFAの硬化した筋状の痕跡を確認し、道跡として2面からの続きの名称を用い3号道、4号道、5号道とした。また、FP直下で検出された畦状遺構の下で、FA下の黒色土の盛り上がりを確認し、畦状遺構として調査を行った。名称は2面からの続きで1号畦状遺構下を11号畦状遺構、2号畦状遺構下を12号畦状遺構、3号畦状遺構下を13号畦状遺構、4号畦状遺構下を14号畦状遺構とした。

3号道：1号道東寄りから発し、湾曲しながら南側約2.5m付近を併走する。FAの痕跡は幅約20cm程度硬化している。



第55図 7区・8区 全体図 (S=1/400)

4号道：3号道の湾曲部から分岐し、南へ延びる。途中1号畦状遺構を横断するが、その部分は途切れる。1号畦状遺構構築の際は既に利用されていない。

5号道：FP直下面で検出した近接し平行に延びる2号畦状遺構と3号畦状遺構の間の谷部の下層で直線的に延びるFAの筋を確認した。道跡はFP直下では1号道や2号道のように踏み込まれて凹んでおらず、硬化面も確認できなかった。

11号畦状遺構：1号畦状遺構の南東端で確認した。東から西へ約8m程の長さで確認できたのみであった。

12号畦状遺構・13号畦状遺構：下層のFAの堆積は良好であり、両畦状遺構下から併走するFAの盛り上がりを確認できた。12号畦状遺構北側面と13号畦状遺構南側面では約10cm程の高低差を持つ。FA除去後も併走する黒色土の高まりを確認し、谷部分で5号道の痕跡であるFAの硬化した筋を確認した。

14号畦状遺構：4号畦状遺構下でもFAの堆積が高まりとして確認でき、FAを除去したところ僅かな高まりが確認できた。西端はテラス状の広がりを確認した。

遺物：縄土器片や剥片が多量に出土し始め、下層の集落を想定することができた。

#### (10) 12区の検出状況

旧地表面からFA下面までは15cm前後を掘り、手掘りによる掘り下げを行った。FAの分布は、畦状遺構内や道跡下にやや多く見られ、特に1号畦状遺

構下では焼土の堆積が明瞭であり、北半で全体に分布していた。旧地表面下では、市松模様グリッド単位で面的に掘り下げを行ったところ、南北方向のDcライン及び東西方向の124ラインのグリッド調査の際に、T字状に交差する新たな2条のFAの盛り上がりを検出した。この2条のFA面を精査し、低い畦状遺構を検出した。名称は、2面からの続きで8号畦状遺構、9号畦状遺構とした。8号畦状遺構と9号畦状遺構に囲まれた北西の面は、畦際で計測して約10cm程他の面より高くなっている。

8号畦状遺構：Da-124グリッド周辺を市松模様掘り下げを行い、東西方向に延びるFAの盛り上がりを確認した。東端は9号畦状遺構とT字状に交わる。FA除去後の黒色土の高まりは4cmと低い。

9号畦状遺構：8号畦状遺構と同様に市松模様のグリッド面調査を行っていたところ、FAと黒色土の帯を確認し調査面を広げた。その結果、緩やかに蛇行し、南北方向に70m近い距離で延びる低い高まりを検出し、畦状遺構とした。

遺物：縄土器片や剥片が多量に出土し始め、下層の集落を想定することができた。

#### (11) 13区の検出状況

国道17号脇で村道に挟まれた調査地区であり、調査面積もFP下で8㎡と狭小な調査区である。手掘りにより全面掘り下げを行ったが、僅かにFAの分布が見られた程度であった。

第10表 畦状遺構計測一覧表

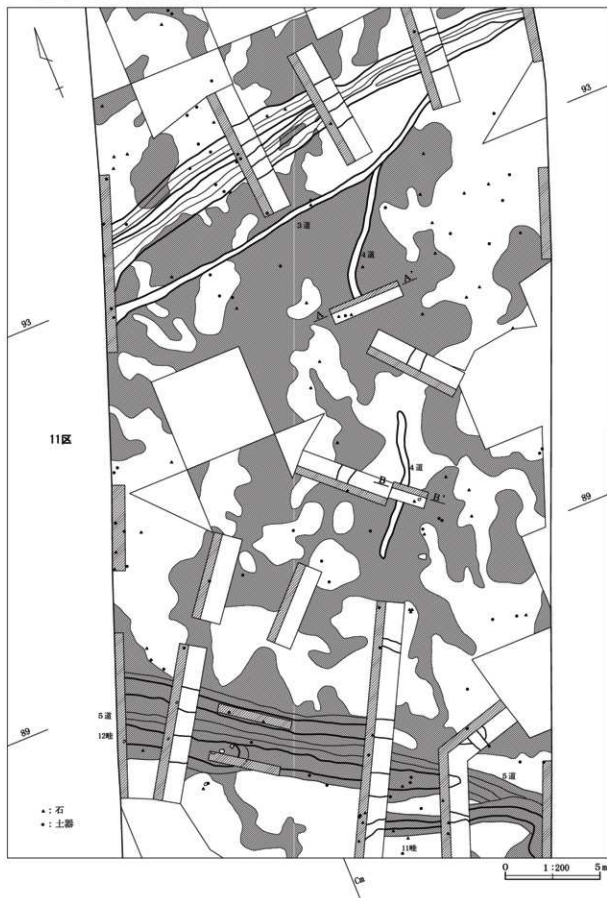
区	番号	グリッド	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	方位	最大幅(m)	交差	備考
11	11	Cm-86-Cn-86	8.00	1.00	4	N-25°-W		5号道	2面1号畦状遺構下
	12	Ck-88-Cn-86	24.00	1.60	3	N-37°-W	2.58		2面2号畦状遺構下
	13	Ck-88-Cn-86	20.00	1.70	7	N-37°-W			2面3号畦状遺構下
	14	Ah-15-Ai-17	25.00	1.40	5	N-90°-E			2面4号畦状遺構下
12	8	At-24-Eb-29	8.40	1.45	4	N-90°-E		2号畦	
	9	Ba-29-Bd-28	68.80	1.90	4	N-5°-W	2.40	1号畦	

第11表 道遺構計測一覧表

区	番号	グリッド	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方位	最大幅(m)	交差	備考
11	3	Cl-92-Cp-93	20.50	0.50	1	N-10°-E		4号道	4号道分岐
	4	Cn-89-Cp-93	20.70	0.35	1	N-40°-E		3号道	3号道から分岐
	5	Ck-88-Co-86	22.80	0.52	2	N-37°-W			12号・13号畦状遺構間



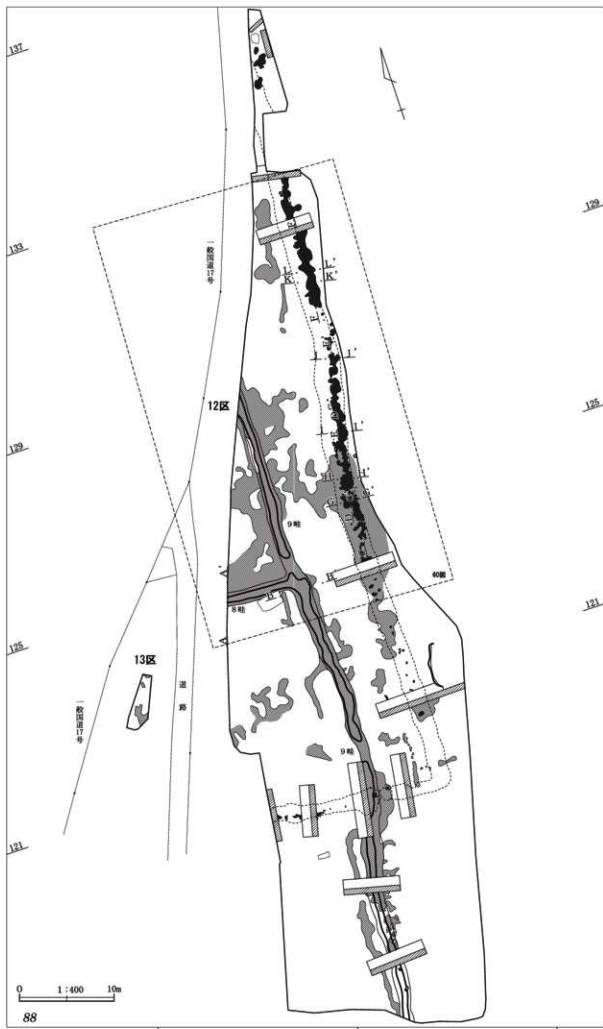




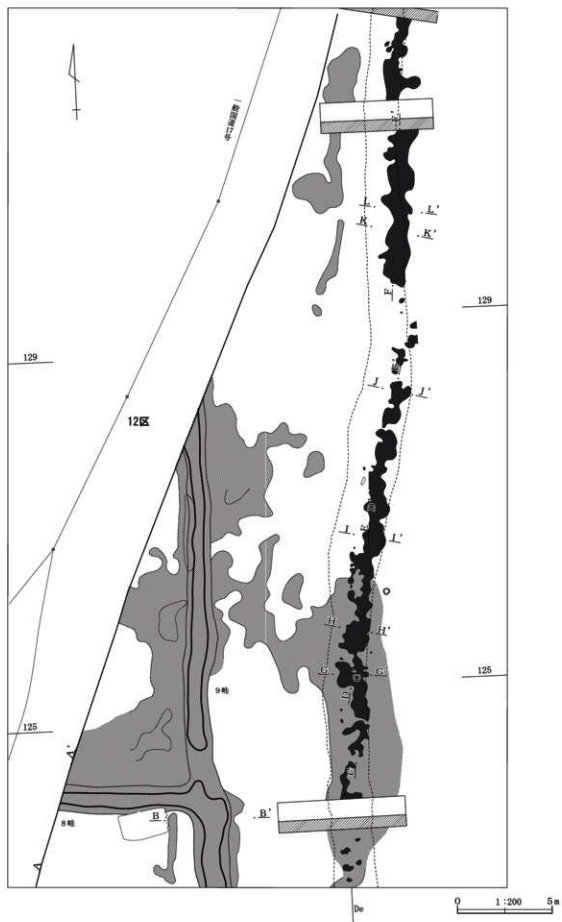
第57図 11区 部分図 (S = 1/200)



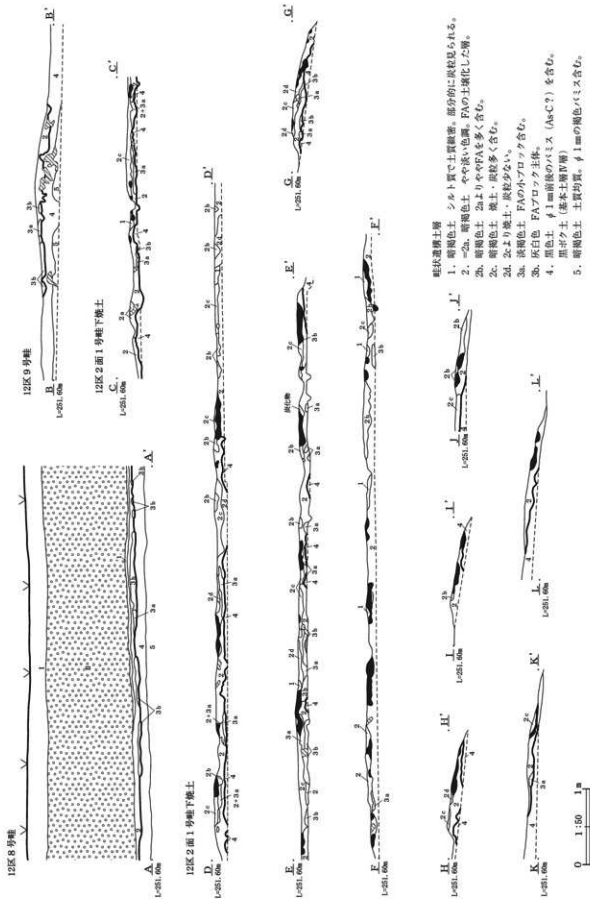
第58図 12区南半 全体図 (S = 1/400)



第59図 12区北半・13区 全体図 (S=1/400)



第60図 12区北半 部分図 (S=1/200)



畦状遺構土層

- 1. 暗褐色土 シルト質で土質緻密。部分的に炭粒見られる。
- 2. =2a. 暗褐色土 やや灰い色調。FAの土礫化した層。
- 2b. 暗褐色土 2aよりややFAを多く含む。
- 2c. 暗褐色土 礫土。炭粒多く含む。
- 2d. 2より礫土。炭粒少ない。
- 3a. 淡褐色土 FAの小フロック含む。
- 3b. 灰白色 FAフロック主体。
- 4. 黒色土 (基本土層IV層) 黒ボク土 (基本土層IV層)
- 5. 暗褐色土 土質均質。φ1mmの褐色パミス含む。

第61図 12区 畦状遺構土層

## まとめ

今回の報告は、中郷遺跡で検出された第1面から第5面までである調査面の中で、第1面から第3面までの検出遺構の報告を行った。

まとめとして、各面で検出した遺構から遺跡の変遷と人々の取り組みを考えてみたい。

### 1. 第1面のまとめ

1) 第1面の調査：6世紀中頃の榛名山の噴火直後から現代までの約1,500年間にFPに掘り込まれた生活の痕跡を対象とした。

今回の調査で検出できた主な遺構は、耕作坑や土坑及び道跡である。竪穴住居や掘立柱建物等の居住を示すような遺構は検出できなかった。

### 2) 各時代の検出遺構の概要

**近世以降**：地元の方々の話しや「子持村誌」下巻を参照すると、耕作坑及び道跡は近現代の遺構と考えられる。耕作坑は、土開い法(穴開い)と呼ばれるコンニャクの種玉を貯蔵するために島の片隅に掘られた穴と考えられる。この貯蔵法は、明治期にこの地にコンニャク栽培が導入されて以来用いられた方法であるが、貯蔵された種玉が病気や腐敗で全滅する事も多かったようである。大正7年頃に屋内で貯蔵する火棚貯蔵法が考案され、種玉が安定して貯蔵されるようになり土開い法は無くなったとある。

道跡は、耕作坑の脇にFPのくすみが直線的に延び、区画を呈する痕跡を確認し、第62図にあるようにほ場整備以前の昭和25年頃の地割りと重ねてみたところ地割りと一致する部分が多く、地境の遺と考えた。この地割りが何処まで遡るかは不明である。

**中世**：この時期に長坂面先端部に白井城が作られ、長尾氏の支配する地であった。白井城の北辺の守りに使われた北遠傍より北に位置する当地には中世と考えられる遺構は検出できなかった。

**古代**：遺構は検出できなかった。FP降灰以降の集落は、主に白井面で発見されている。本事業(その1工事)関連で調査された白井遺跡群の白井南中道

遺跡や白井二位屋遺跡等では7世紀代の集落が検出されている。また、吾妻川沿いの国道353号関連の中郷田尻遺跡でも集落が検出されている。

本地域は、律令期には群馬郡の北部に位置し、白衣郷と利刈郷が置かれ、「延喜式」には利刈郷内には御牧が設置されていたとある。しかし、利刈郷の範囲は特定できておらず、「子持村誌」では吾妻川沿いの北牧付近を推定している。この地は、給源に近くFPの量も多く壊滅的な状況であったと考えられ、この地に牧が設置されたことは、かつて放牧地となっていた地域でも牧が再開された可能性が考えられる。国道17号線以東の吹屋原の平坦面上では、FP降灰以前に牧が存在していた。そこで長年培われた馬の飼育に対する知識や経験が生かされ、放牧地が再開された可能性は高いと考えたい。

3) 人々の取り組み 当地は、6世紀代の榛名山噴火の大災害に見舞われ、降灰範囲の軸線にあることから2m近い厚さでFPが堆積し、平地・谷間を問わず1面白色の世界に変えられてしまった。FPは今でも安定して堆積し、FPの除去や大量の土砂を持ち込むなどの大規模な復興作業を行った痕跡は確認されていない。FP堆積後の土の生成は主に風雨等の自然に任せ、人々は長きにわたりこのゴツゴツした軽石を掘り返しながら生活を送ってきた。昭和40年代に大型機械を導入して群馬用水を敷設し、ほ場整備が行われ水利に乏しかったこの地に水田が開かれた。しかし、この近代的な水田も耕作土中にどうしてもFPが混じるため、僅かな期間しか米作りは行われず明治期に導入されたコンニャク栽培を再開したと地元の人々に伺った。

この地に生きる人々は、長きにわたり耕作の障害となっていたFPを知恵と技術を背景に様々な取り組みを行ってきた。その結果、現在このFPの特徴を利用し、コンニャク栽培やブロック製造等を取り入れ地域の基幹産業に発展させるまで至った。





## 2. 第2面のまとめ

1) FP下の調査 第2面は、6世紀中頃の榛名山噴火堆積物のFPで厚く覆われた面であり、古墳時代の集落が当時の姿のまま埋没していることで新たな発見に期待の集まる面である。

黒井峯遺跡の調査では、このFP下から続々と古墳時代の集落関連遺構が検出され衝撃的であった。集落内には多くの凹凸が見られ、それらは埋まりかけの住居や住居の廻りの周堤帯等であり、その他に掘り込みを持たない平地式住居や家々を囲む垣根や道等が確認でき通常の調査では確認できない遺構も検出できた。また、家庭菜園か陸苗代か、かまほこ状の高まりが連続する島跡や谷間では小区画の水田が発見され、想像の集落景観ではなく、古墳時代の集落が目当たりになった。その後も田尻遺跡や中郷田尻遺跡などでも集落や田島が検出され、浅田や有瀬地区の古墳では埴輪が樹立した状態で検出されるなど6世紀中頃の村の様子が浮かび始めている。

こうした中で、本事業で調査を行った本遺跡や吹屋遺跡、吹屋伊勢森遺跡等の長坂段丘面東縁部の遺跡では、畦状遺構と道跡等の遺構が検出でき、外縁部が放牧地等に利用されている状況がうかがえた。

2) 集落遺地 子持山南麓の雙林寺段丘面寄りには沢川による谷地形が見られ、黒井峯遺跡等の集落遺跡が発見され、また吾妻川左岸部の白井段丘面上でも古墳時代の集落が検出されている。これらの地域は、子持山南麓の火山麓形状地形端部に位置し、村内では白井五井として呼称される白井、黒井、赤井、青井等の湧水地が点在する。この湧水付近に集落が遺地され、湧水を利用し水田耕作が行われていたと考えられる。この地域とは対照的に国道17号の東側、本地域を含む長坂段丘面上では湧水やそこから発する沢川は検出されていない。唯一埋没谷を想定した吹屋遺跡の凹みは、前橋泥流に伴う地形の盛り上がり境界部分であった。この前橋泥流堆積物も砂礫を主体とするため更に高燥化を進め居住地としての条件を悪化させていたと考えられる。本遺跡では、この時期の集落は検出されなかったが、第4面の調

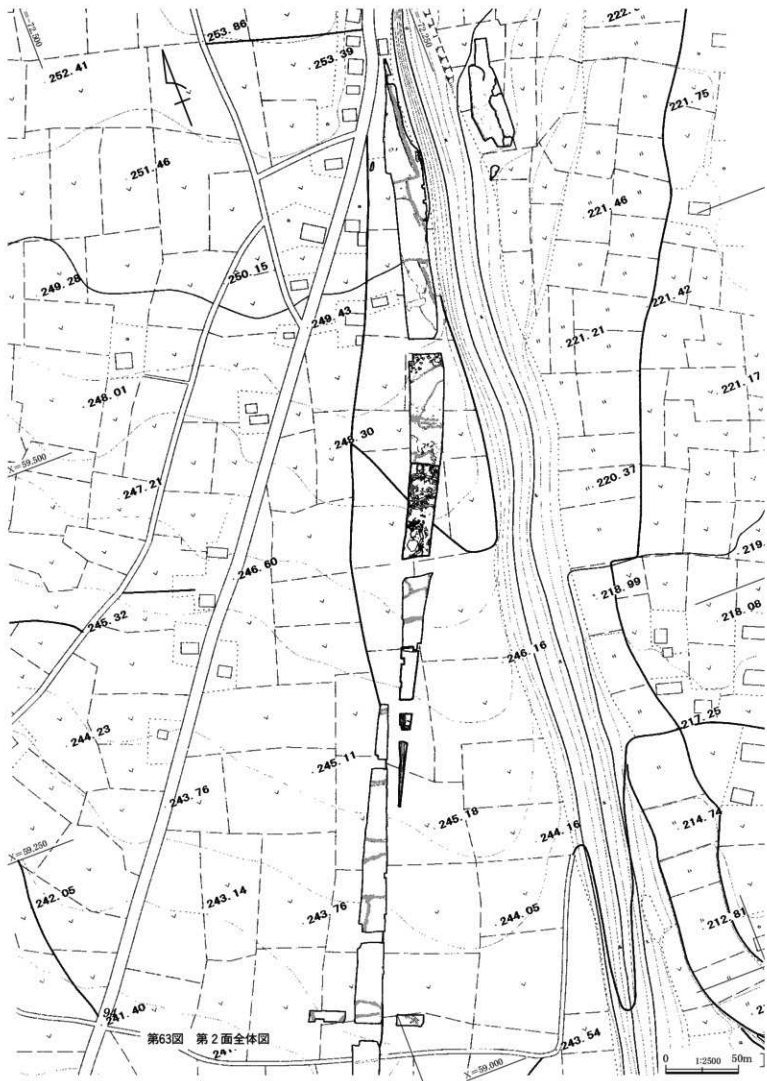
査では縄文時代前期から後期にかけて敷石住居を含む100軒以上の堅穴住居群と900基を超える土坑群が検出された。縄文時代中期には拠点的な集落が営まれていた。しかし、弥生時代以降は集落は全く検出されず、居住地として適さない地域になってしまったようである。このことは農耕生活への変換により、本地域が水利面で不便であったため居住適地からはずれてしまったと考えられる。その後、こうした条件下であったが、6世紀初頭の榛名山噴火のFA前後には畦状遺構や道が作られるようになり、6世紀中頃の2度目の榛名山噴火直前には放牧地として利用されるようになっていった。

3) 検出遺構について 今回の調査では、白井遺跡群と検出遺構が同様であったため、「白井遺跡群」-古墳時代編-に詳細に分析報告されている事から分析資料の採取はほとんど行わなかった。ただ、唯一吹屋伊勢森遺跡において現在の島と同形態の島が4枚検出されたため土壌分析を行った。調査時には、IV層黒色土が島作に向いていると考えたが、「植物の生育に必要なリン酸を吸収する特徴を持ち、不足分を施肥により耕作が行われた可能性がある。」と分析結果が得られた。この結果を当時の人々が知っていたかのように第3面調査時のFA面の分布を見ると耕起や畦状遺構構築に際して、深く耕さず意識的に黒ボク土を避けていたとも考えられる。長坂段丘面上は水利面以外にもこの土壌分析からも耕作不適地でもあったようである。

今回の事業では長坂段丘面上に南北トレンチが入り、古墳時代の集落外縁部の状況が見えてきた。しかし、まだ景観を考える上に不十分である。長坂段丘面上のどこかに放牧地の境界や畝立てされた島、集落が眠っていると考えられる。限られた発掘調査の範囲ではあるが今後もその成果を貼り合わせ空白を埋めていく必要がある。

### 参考文献

本文中の遺跡は第2章 周辺遺跡を参照。



第63図 第2面全体図

2A

0 1:2500 50m

## 写真図版



空中写真撮影：12区南、第2面をラジコン・ヘリコプターで撮影した。高所からの撮影は、調査区内の遺構全体や立地を表現するために用いていたが、遺構測量にも効果を発揮している。(バックは子持山で、右手前は段丘崖に植えられた杉林)





1区 全景



2区 全景



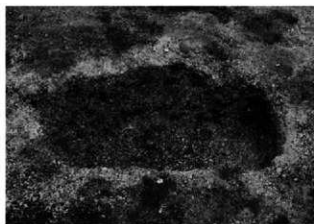
3区 全景



4区 全景



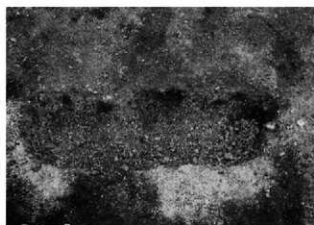
5区 全景



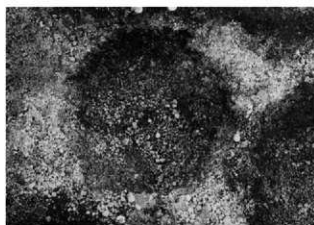
5区 2号土坑



5区 3号土坑



5区 4号土坑



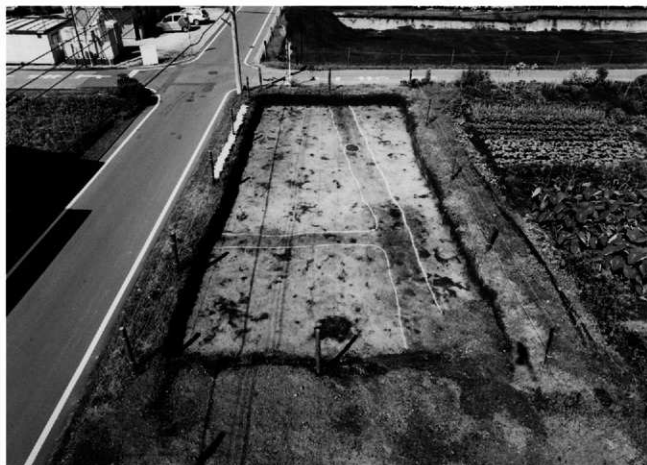
5区 5号土坑



5区 7号土坑



5区 8号土坑

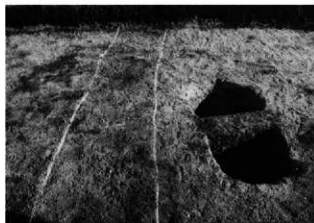


6区 全景

PL.4 (第1面)



7区 全景



7区 1号道、1号土坑



8区 全景



8区 全景



9区 全景





11区南半 全景



11区南半 道跡 (5号・7号・8号道)



11区北半 全景



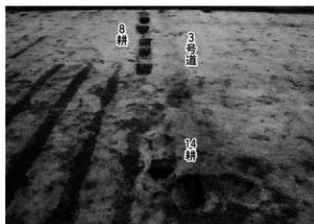
11区北半 8号耕作坑



11区北半 8号耕作坑土层



11区北半 8号耕作坑土层



11区北半 耕作坑及び道路



12区北半 全景



12区北半 1号溝



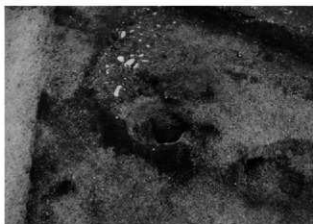
12区北半 1号溝土層



12区北半 2号溝土層



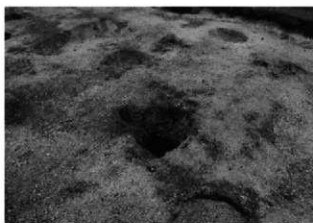
12区北半 2号溝全景



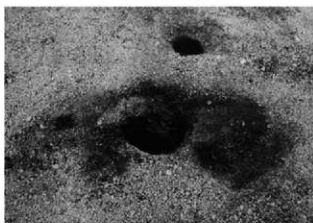
12区 1号土坑



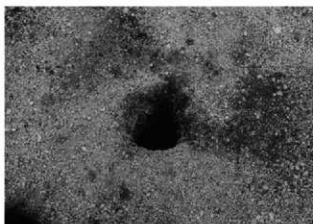
12区 2号土坑



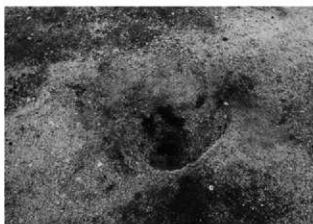
12区 3号土坑



12区 4号土坑



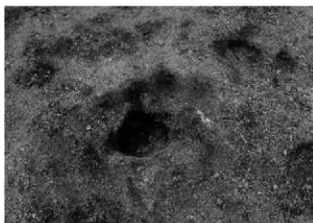
12区 5号土坑



12区 7号土坑



12区 8号土坑



12区 9号土坑



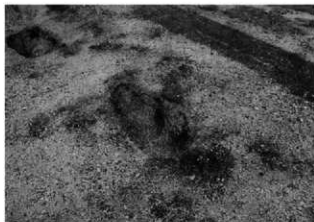
12区 10号土坑



12区 11号土坑



12区 12号土坑



12区 13号土坑



12区 14号·15号土坑



12区 16号土坑



12区 17号土坑



12区 18号土坑

PL.10 (第1面)



12区 19号土坑



12区 20号土坑



12区 21号土坑



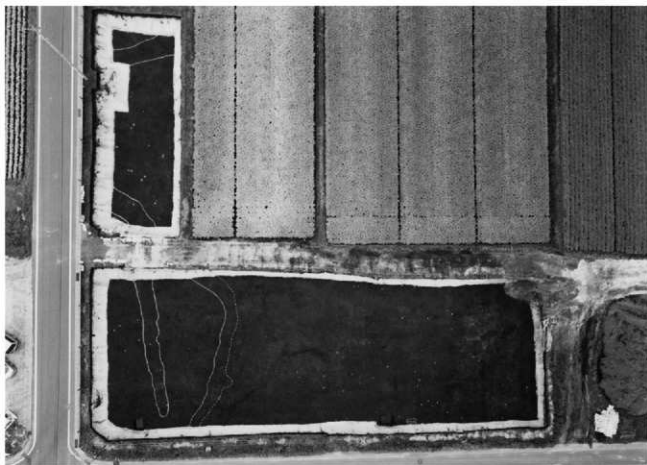
12区 23号土坑



12区 24号土坑



12区 45号土坑



1区 全景



1区 1号畦状遺構 全景



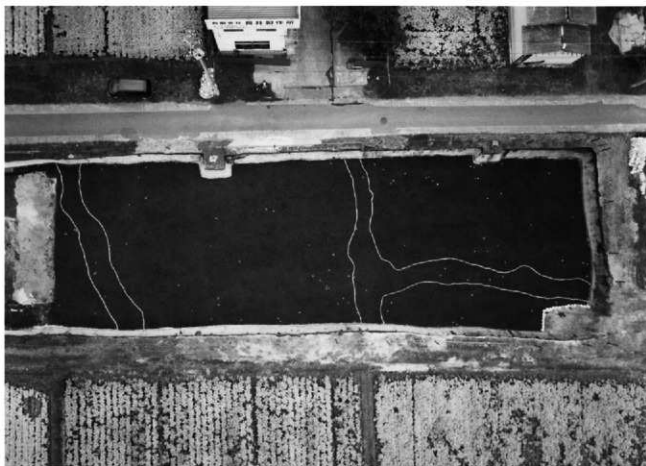
1区 1号畦状遺構土層



1区 1号畦状遺構土層近接



1区 3号畦状遺構土層近接



2区 全景



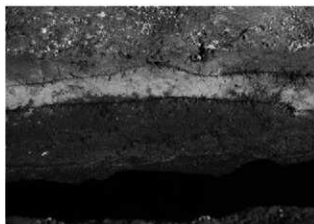
2区 畦状遺構近景



2区 畦状遺構近景

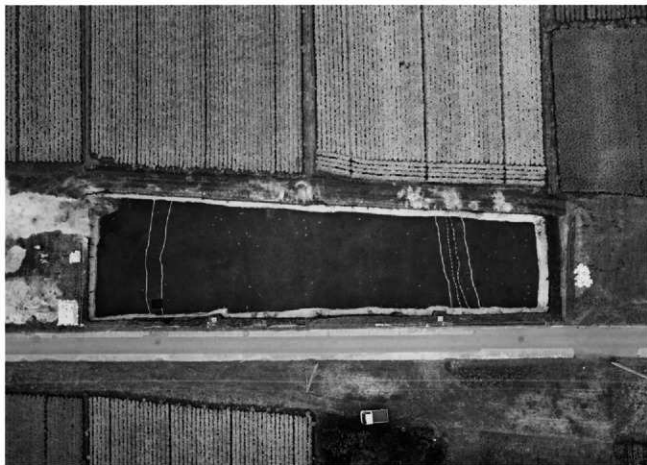


2区 畦状遺構土層 (A-A')



2区 畦状遺構土層 (C-C')





3区 全景



3区 2号畦状遺構近景



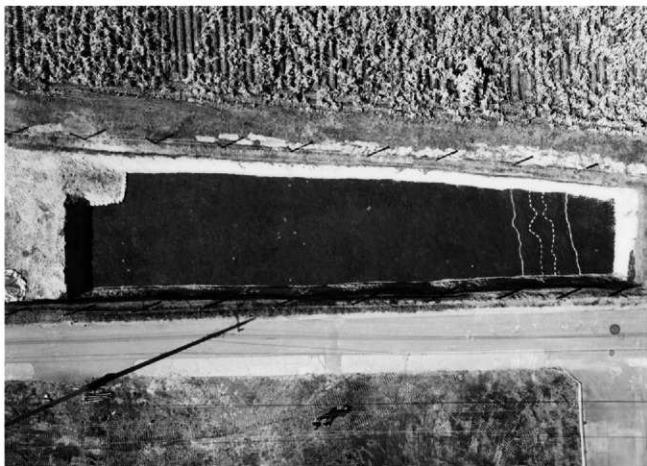
3区 2号畦状遺構土層



4区 1号畦状遺構近景



4区 畦状遺構土層 (A-A')



4区 全景



6区 全景



6区 畦状遺構土層



6区 近景



6区 立木痕近景



7区 全景



7区 1号畦状遺構



7区 1号畦状遺構内露出土状況



7区 畦状遺構土層



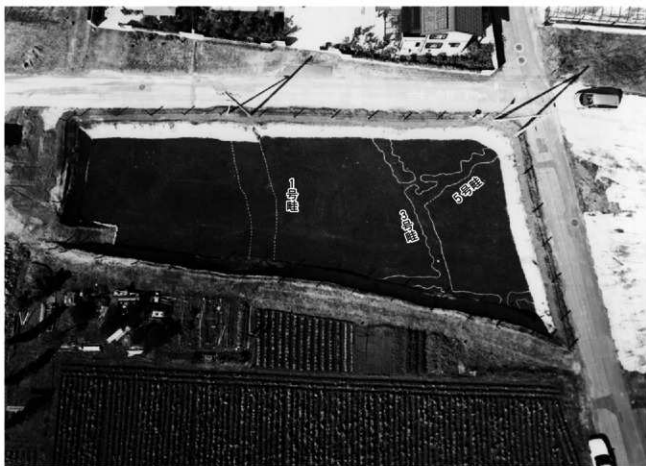
7区 畦状遺構近景



7区 1号畦状遺構全景



7・8区 全景



9区 全景



9区 3号畦状遺構近景



9区 3号・5号畦状遺構近景



11区 全景



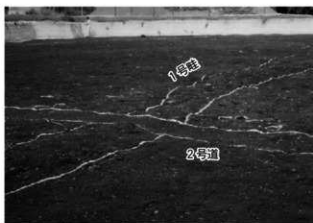
11区 近景



11区 1号畦状道橋



11区 1号畦状道橋南辺近景



11区 1号畦状道橋を踏み越える2号道



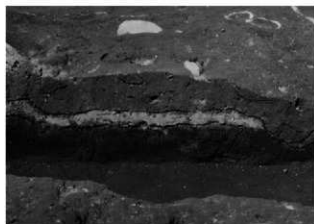
11区 1号畦状道橋と2号・3号畦状道橋の交点



11区 1号~3号畦状道橋を踏み越える2号道



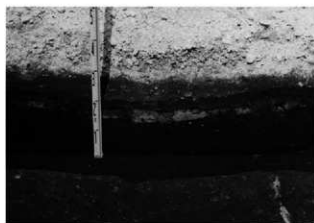
11区 3号畦状遺構土層



11区 1号・3号畦状遺構交差付近FA堆積状況



11区 1号・3号畦状遺構交差付近土層



11区 2号・3号畦状遺構間の谷部土層



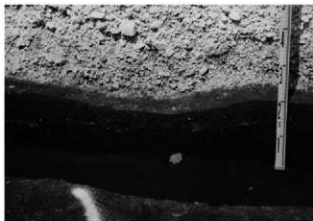
11区 1号道全景



11区 FP除去作業



11区 1号道FP除去途中



11区 1号道西壁土層



11区 1号道下FA検出状況



11区 1号道下FA分布状況



11区 1号道土層

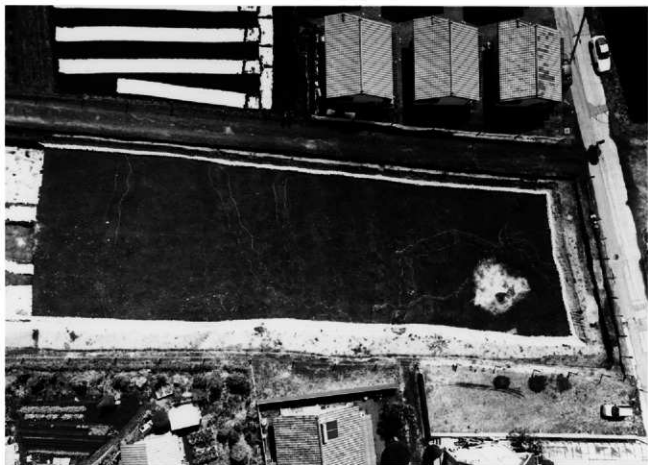


11区 2号道土層



11区 2号道土層近接

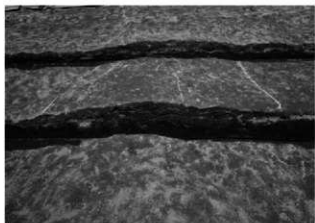




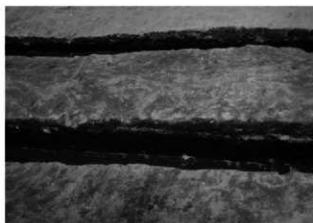
11区南半 全景



11区 6号畦状遺構付近起伏部分



11区 7号・8号畦状遺構土層



11区 8号畦状遺構土層



11区 6号畦状遺構土層



12区北端 遠景 (段丘下は上白井西伊熊遺跡)



12区南半 全景



12区北半 近景



12区 1号畦状遺構と2号畦状遺構屈曲部



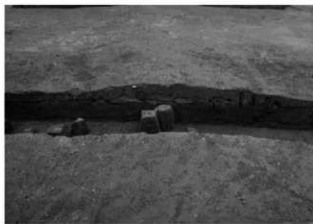
12区 1号畦状遺構と2号畦状遺構屈曲部近景



12区 1号畦状遺構土層



12区 1号畦状遺構土層近接



12区 2号畦状道構土層 (F-F')



12区 3号畦状道構土層 (J-J')



12区 4号畦状道構土層 (K-K')



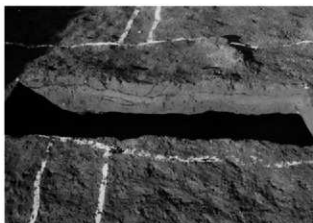
12区 6号畦状道構土層 (N-N')



12区 4号道土層 (T-T')



12区 5号道土層 (Z-Z')



12区 5号道土層 (V-V')



12区 FP直下馬蹄痕確認狀況



1区 FA面検出状況



1区 FA面検出状況



2区 FA面検出状況



3区 FA面検出状況



6区 FA面検出状況



7区 FA面検出状況



7区 FA面検出状況



7区 1号畦状遺構内礫出土状況



8区 FA面検出状況



11区 FA面検出状況



11区 3号・4号道確認状況 (白く見えるFAが筋状に延びる)



11区 5号道確認状況



11区 4号道土層



11区 4号畦状道橋下FA残存状況



12区 FA面検出状況



12区 4号畦状道橋下FA残存状況



12区 4号畦状道橋下FA残存状況近景





12区 1号畦状遺構全景



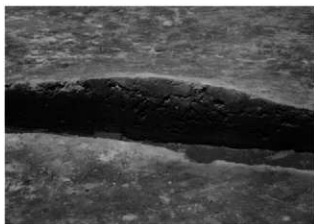
12区 1号畦状遺構土層



12区 2号畦状遺構近景



12区 1号・2号畦状遺構交差点近景



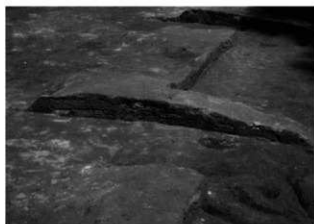
12区 1号畦状遺構土層



12区 1号畦状遺構内焼土・炭化物検出状況



12区 1号畦状遺構内土層 (C-C')



12区 1号畦状遺構内土層 (G-G')



12区 1号畦状遺構内土層 (J-J')



12区 FA 集中部分近景

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第422集

## 中郷遺跡(1)

—古墳時代以降編—

一般国道17号(無沢バイパス)改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書第3集

平成20年(2008年)1月25日 印刷

平成20年(2008年)2月1日 発行

編集／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地の2

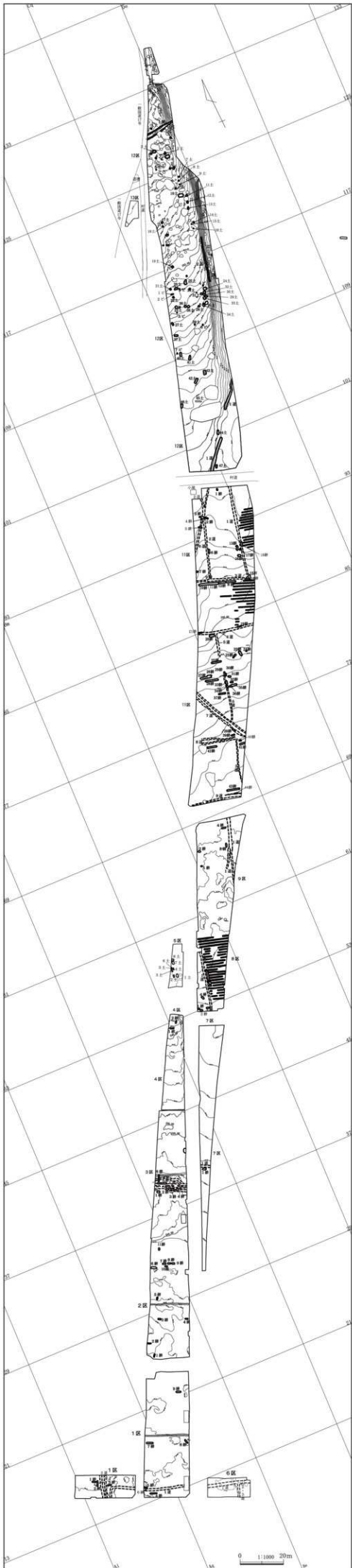
電話0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gnmuibun.org/>

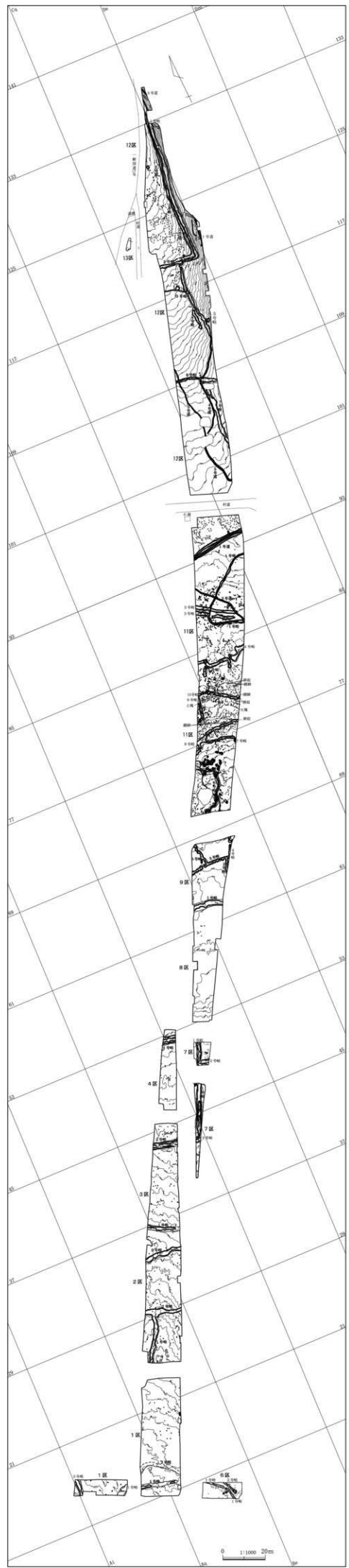
印刷／上武印刷株式会社







中鄉遺跡 1 面全体図



中鄉遺跡 2 面全体図